

南あわじ市  
男女共同参画社会づくりのための  
市民アンケート調査

【結果報告書】

平成 29 年 11 月

南あわじ市

# 目 次

第1章 調査概要.....	1
1. 調査の目的.....	1
2. 調査対象者.....	1
3. 調査方法・期間.....	1
4. 回収結果.....	1
5. 報告書を見る際の注意点について.....	1
第2章 市民アンケートの調査結果.....	2
1. あなたご自身のことについておたずねします.....	2
2. 男女平等に関する意識についておたずねします.....	7
3. 職業生活についておたずねします.....	33
4. 家庭生活についておたずねします.....	43
5. 人権についておたずねします.....	51
6. 男女共同参画社会についておたずねします.....	55

# 第1章 調査概要

## 1. 調査の目的

この調査は、「(仮) 第2次南あわじ市男女共同参画計画」策定のための基礎資料として、本市における男女平等に関する意識や実態について、市民の意見を調査するために実施しました。

## 2. 調査対象者

南あわじ市内に住む18歳以上の市民2,500人を無作為に抽出。

## 3. 調査方法・期間

調査方法：郵送による調査

調査期間：平成29年8月29日～平成29年9月12日

## 4. 回収結果

回収件数：1,059件

回収率：42.4%

## 5. 報告書を見る際の注意点について

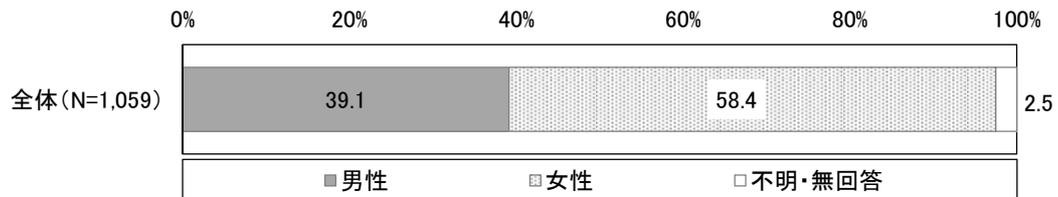
- 調査結果の比率は、その設問の回答者数を母数として、小数点第2位を四捨五入して小数点第1位までを示しているため、その合計値が100%にならない場合があります。
- 図表中の「N」とは、その設問の回答者総数を表しています。
- 複数回答の設問の場合、回答比率の合計は100%を超える場合があります。
- 図表中において「不明・無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が困難なものです。

## 第2章 市民アンケートの調査結果

### 1. あなたご自身のことについておたずねします

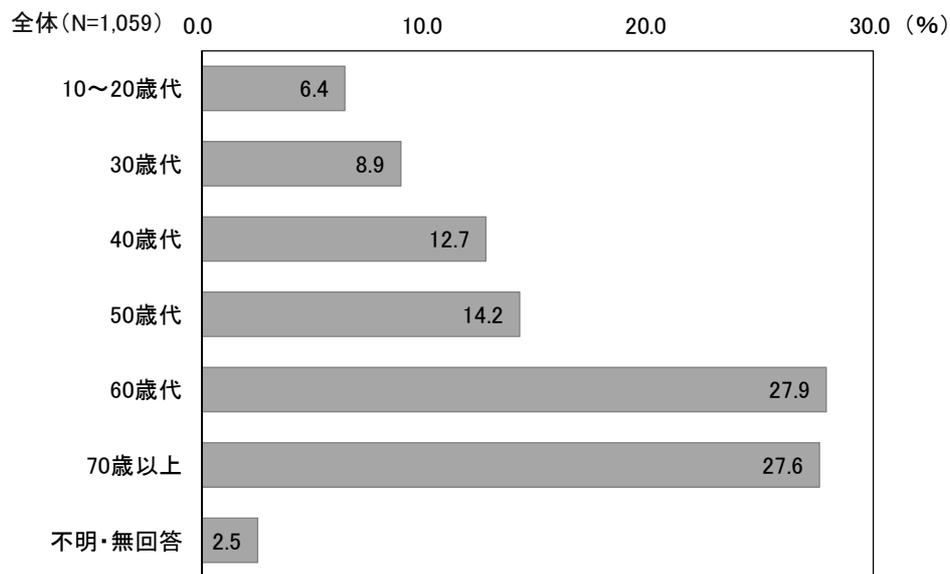
#### (1) あなたの性別はどちらですか。(ひとつに○)

回答者の性別は、「男性」が39.1%、「女性」が58.4%となっています。



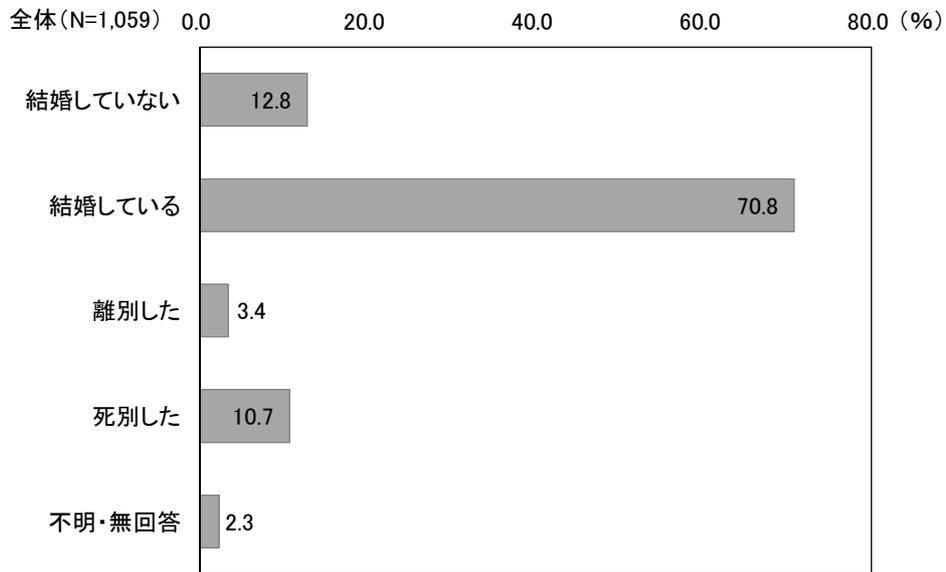
#### (2) あなたの年齢はおいくつですか。(ひとつに○)

回答者の年齢は、「60歳代」が27.9%と最も高く、次いで「70歳代」が27.6%となっています。



(3) あなたは結婚（事実婚を含む）していますか。（ひとつに○）

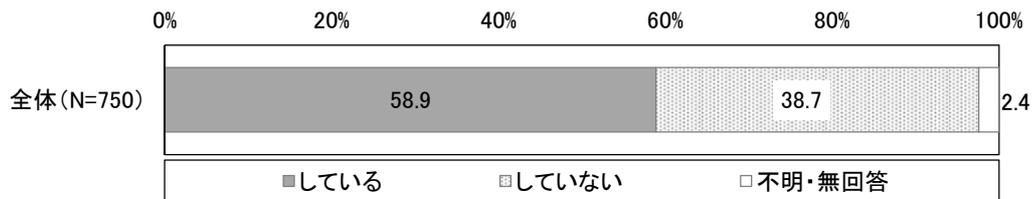
結婚の状況についてみると、「結婚している」が70.8%、「結婚していない」が12.8%、「死別した」が10.7%、「離別した」が3.4%となっています。



結婚されている方におたずねします

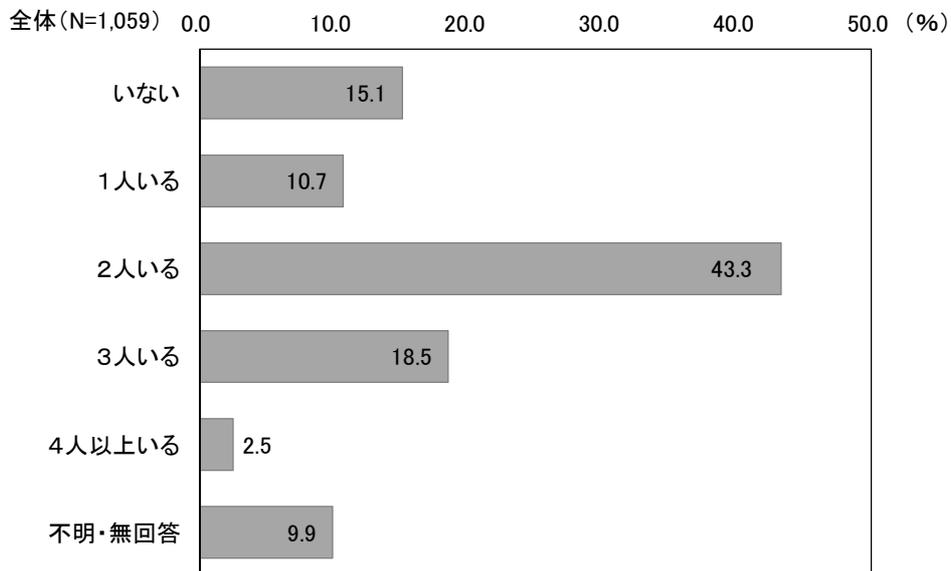
(4) あなたは共働きをしていますか。（ひとつに○）

共働きの状況についてみると、「している」が58.9%、「していない」が38.7%となっています。



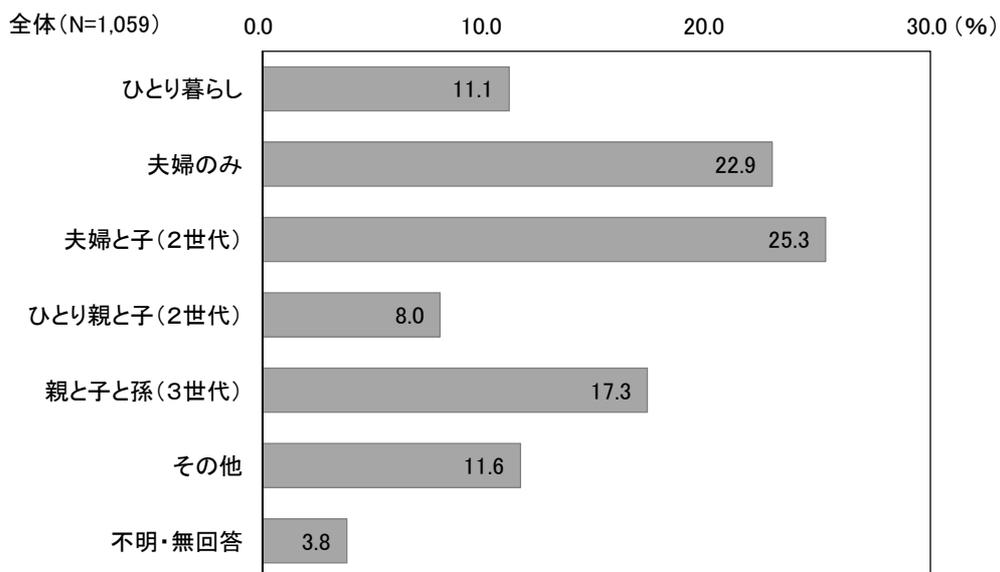
(5) あなたはお子さんがいますか。また、何人いますか。(ひとつに○)

子どもの有無についてみると、「2人いる」が43.3%、「3人いる」が18.5%、「いない」が15.1%、「1人いる」が10.7%となっています。



(6) あなたの同居の家族構成はどれにあたりますか。(ひとつに○)

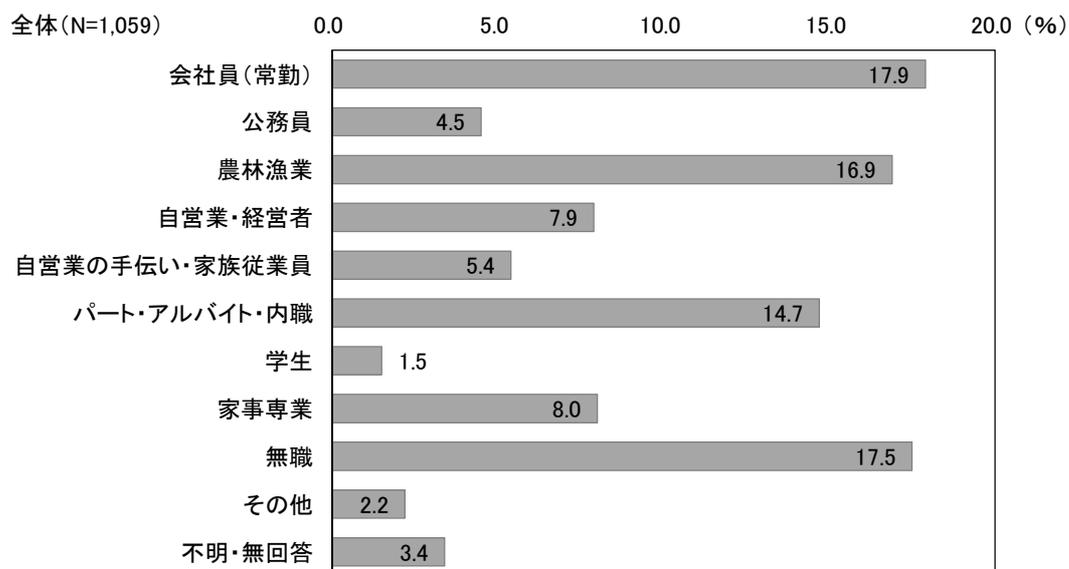
同居している家族についてみると、「夫婦と子(2世代)」が25.3%と最も高く、次いで「夫婦のみ」が22.9%、「親と子と孫(3世代)」が17.3%となっています。



(7) あなたの主な職業はどれにあたりますか。(ひとつに○)

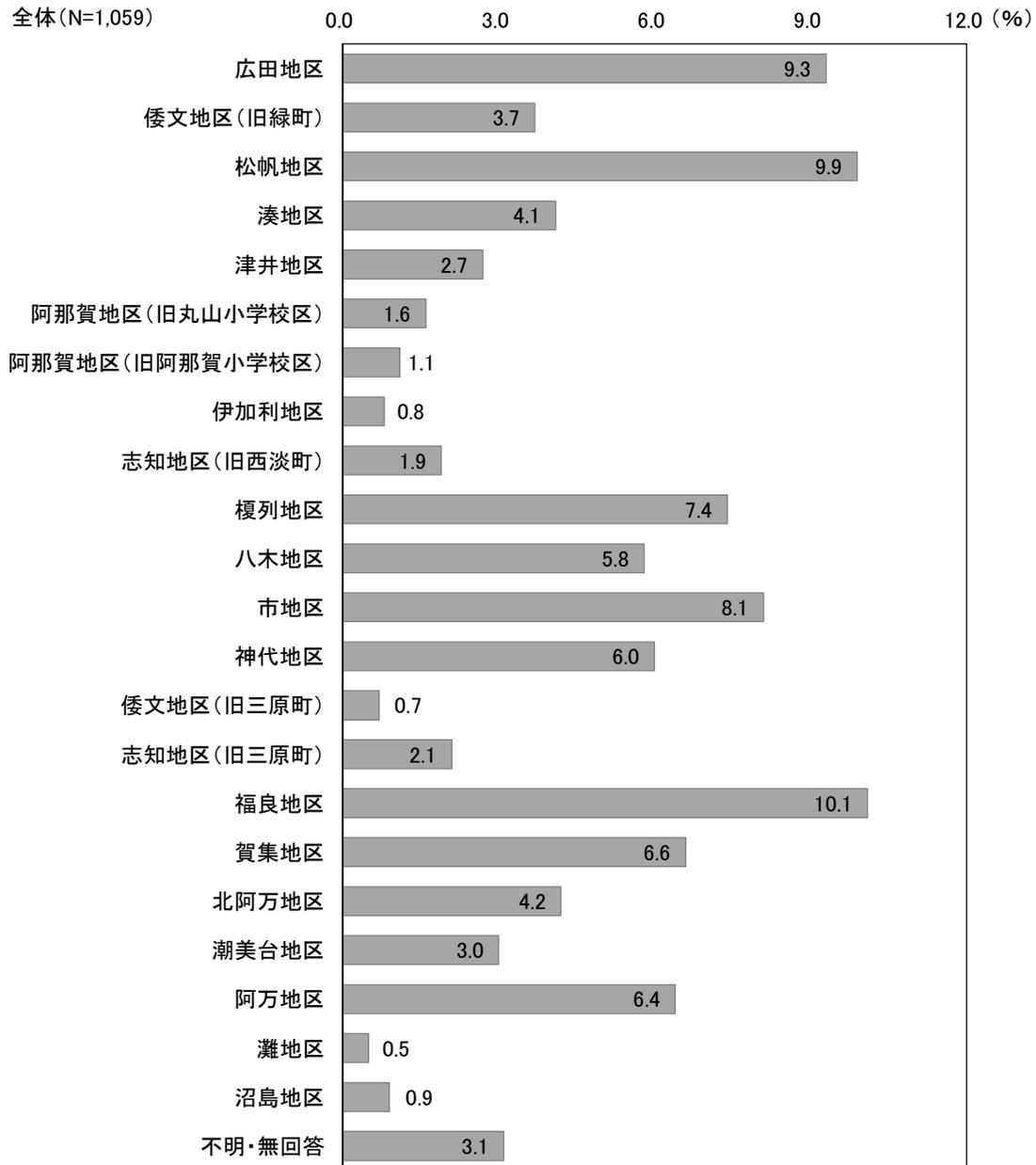
※出産・育児・介護などの休業中の場合は、現在も働いているものとして回答してください。

回答者の主な職業についてみると、「会社員（常勤）」が17.9%、「無職」が17.5%、「農林漁業」が16.9%、「パート・アルバイト・内職」が14.7%となっています。就労している方（「学生」「家事専業」「無職」以外、「その他」を含む）の合計は69.6%（737件）となっています。



(8) あなたの住んでいる地区はどこですか。(ひとつに〇)

住んでいる地区についてみると、「福良地区」が10.1%、「松帆地区」が9.9%、「広田地区」が9.3%、「市地区」が8.1%となっています。



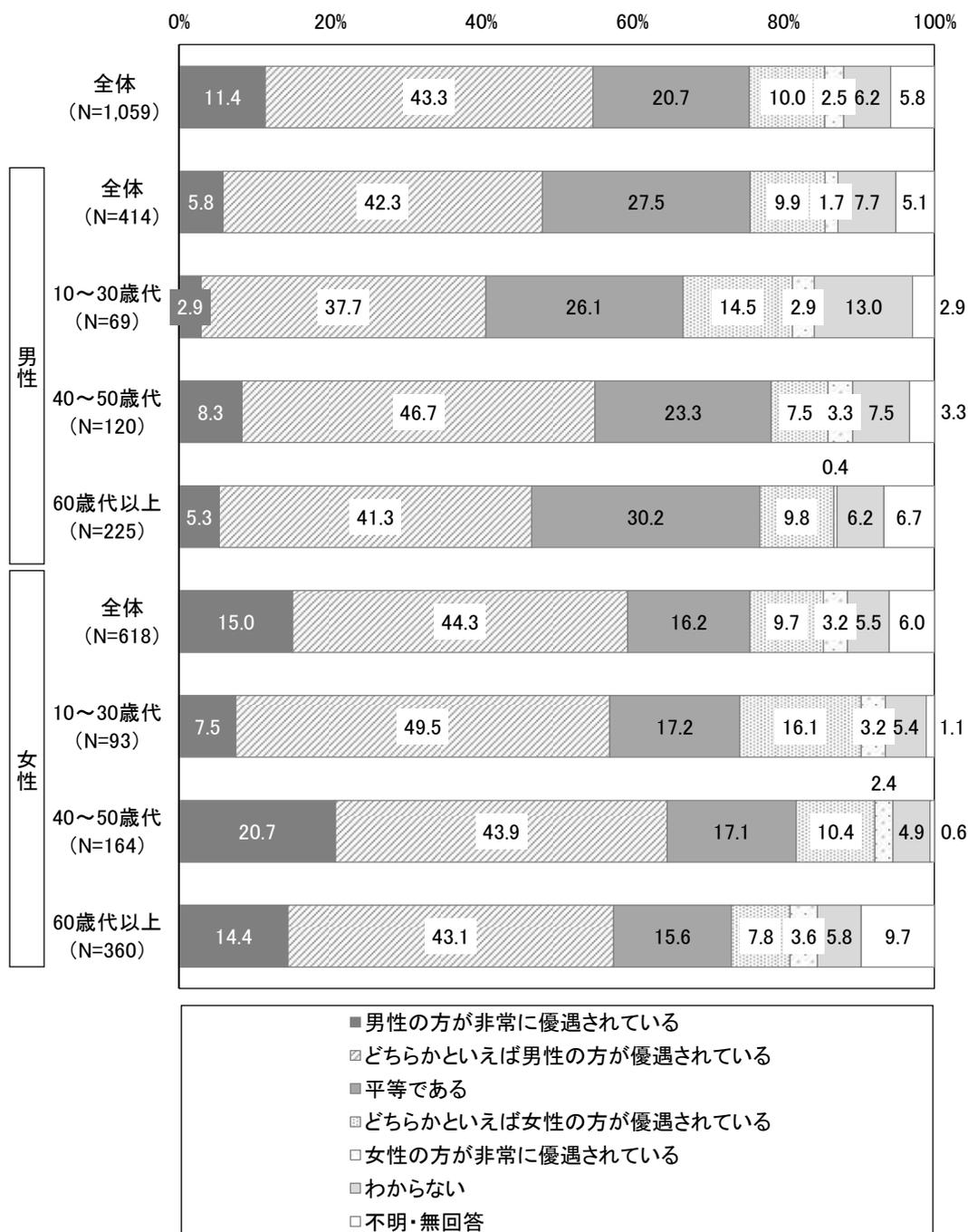
## 2. 男女平等に関する意識についておたずねします

(1) 現在、日本の社会での男女の地位は、どれにあてはまるとお考えですか。

(それぞれの項目について、あてはまるものひとつに○)

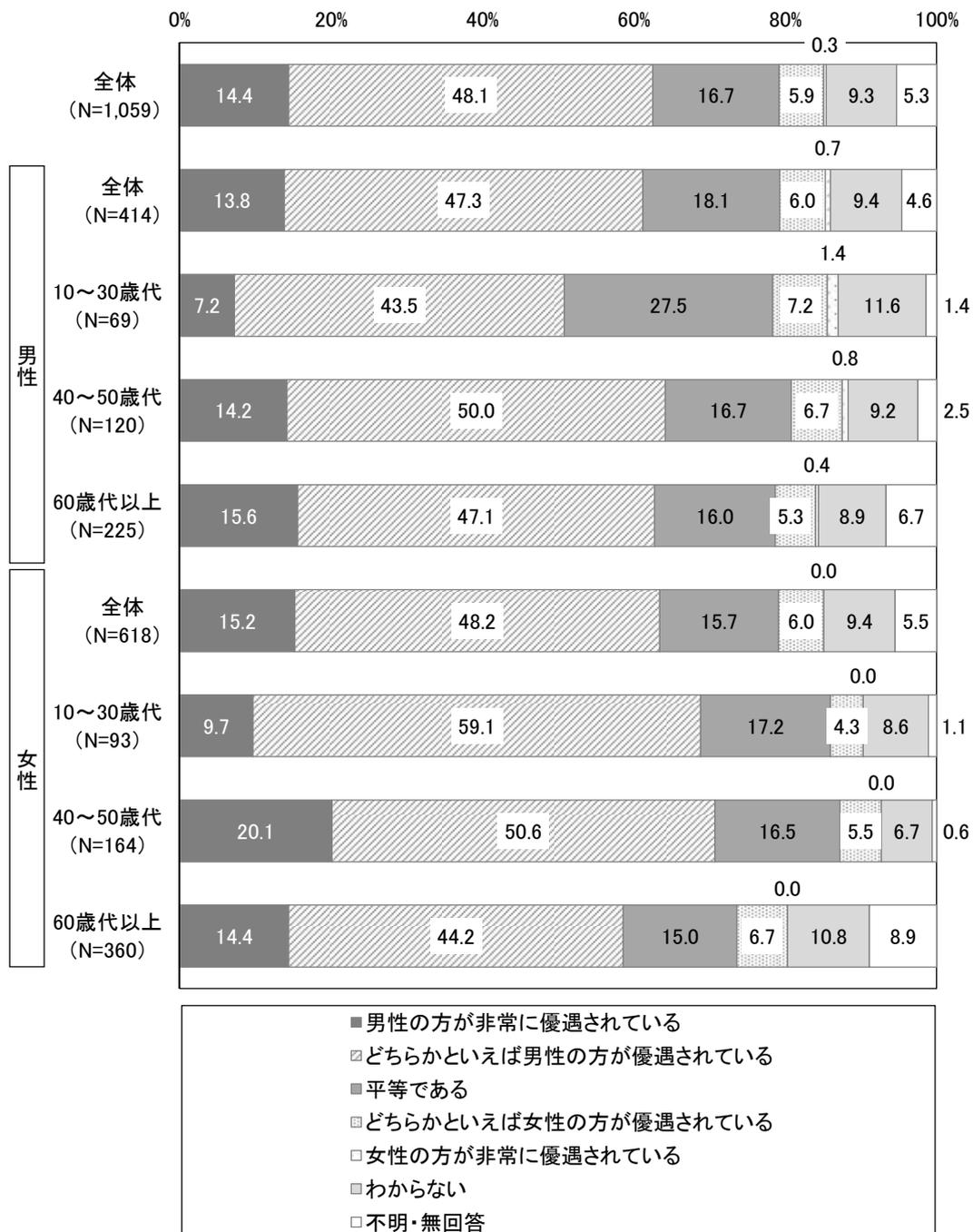
### ①家庭生活での平等感

家庭生活での平等感についてみると、全体では、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が最も高くなっています。男女別にみると、「男性の方が非常に優遇されている」と回答した人は女性の方が約10ポイント高く、「平等である」と回答した人は男性の方が10ポイント以上高くなっており男女の意識差がみてとれます。年代別にみると、男女ともに40～50歳代で「男性の方が非常に優遇されている」の割合が高くなっています。



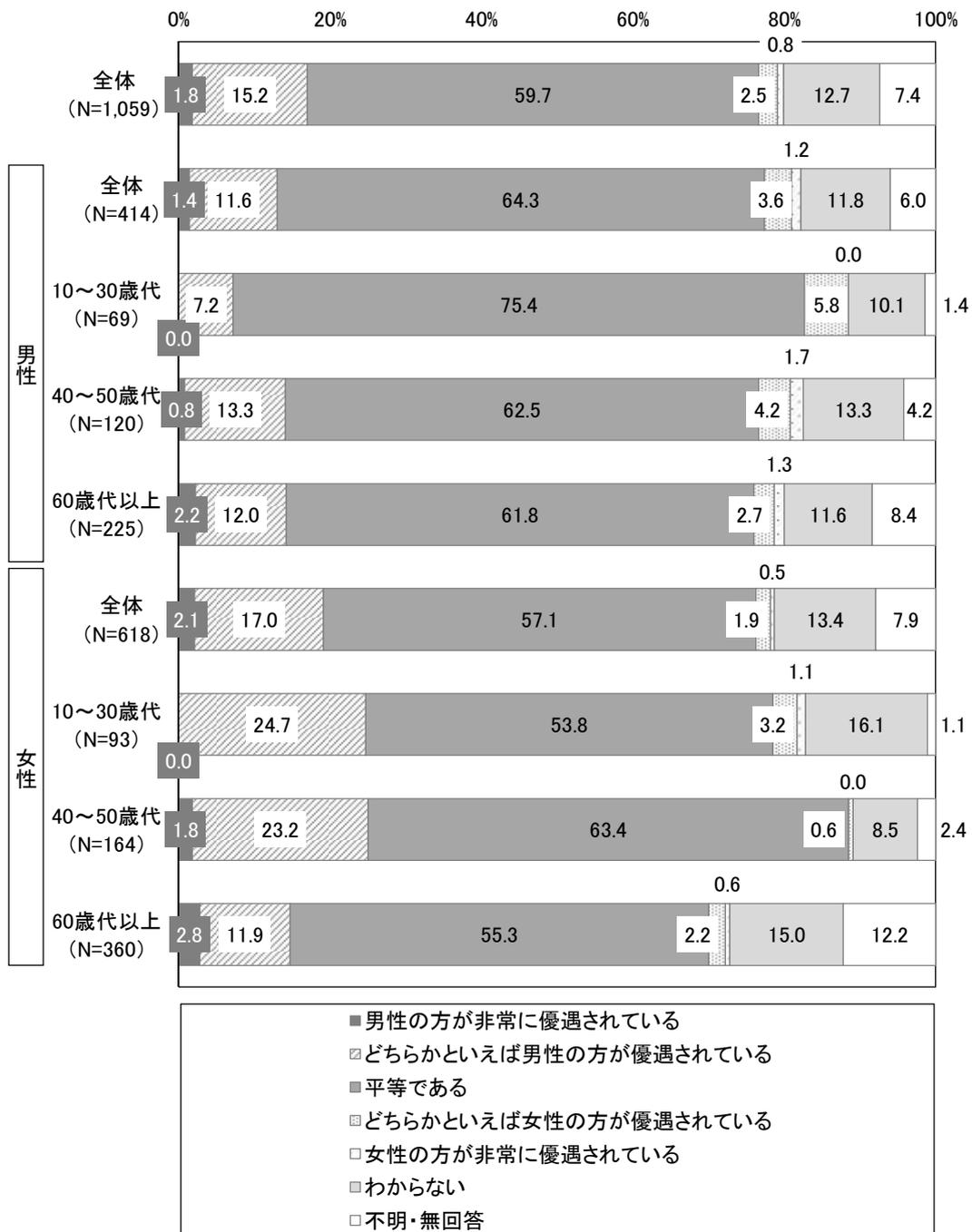
## ②地域活動での平等感

地域活動での平等感についてみると、全体では、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が48.1%と最も高くなっています。男女別年代別にみると、男性10～30歳代で「平等である」が27.5%と他の年代に比べて高くなっています。



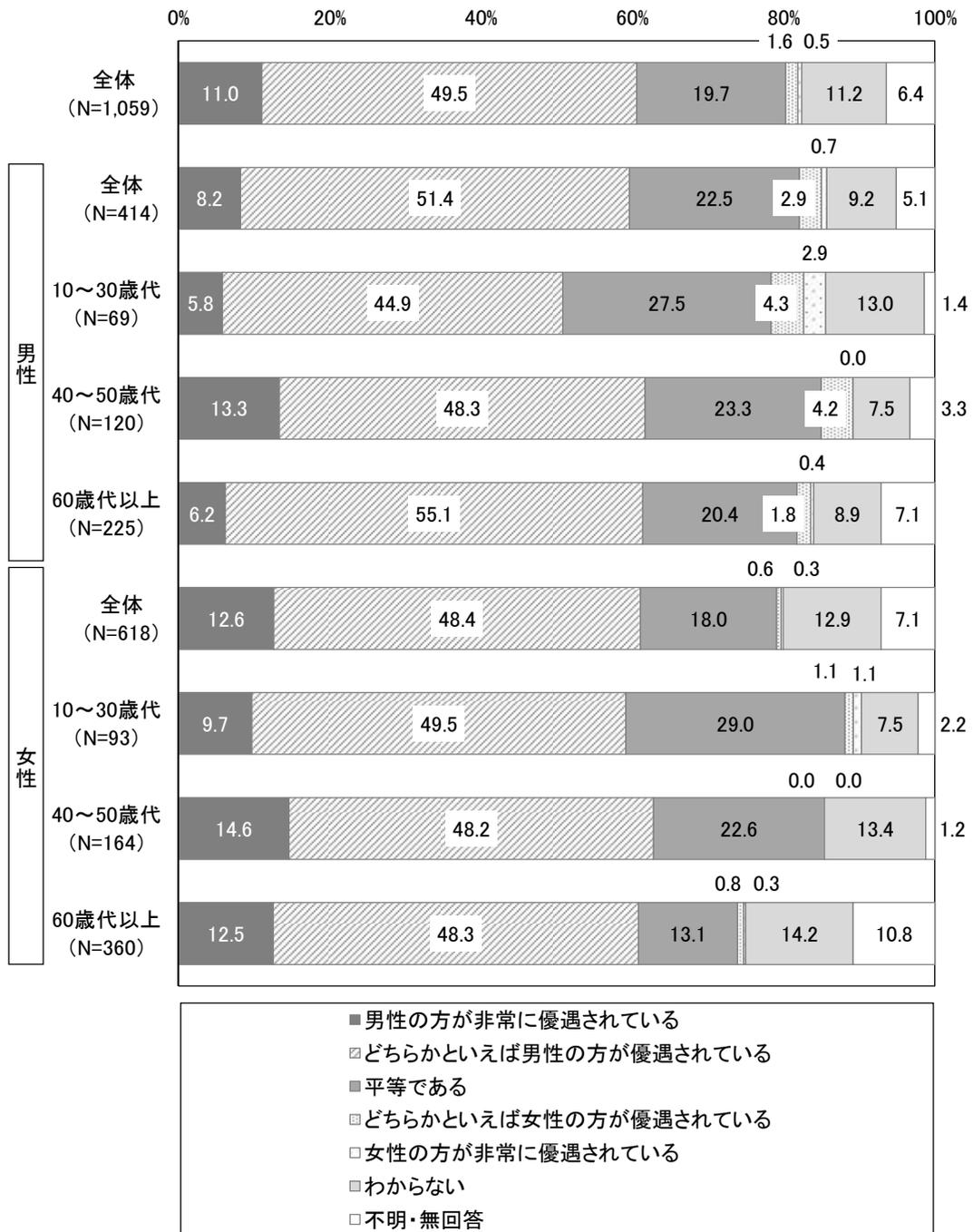
### ③学校教育の場での平等感

学校教育の場での平等感についてみると、全体では、「平等である」が 59.7%と最も高くなっています。男女別年代別にみると、男性 10～30 歳代で「平等である」が 75.4%と他の年代に比べて高くなっています。また、女性 10～30 歳代と女性 40～50 歳代で「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が 2 割を超え、他の年代に比べて高くなっています。



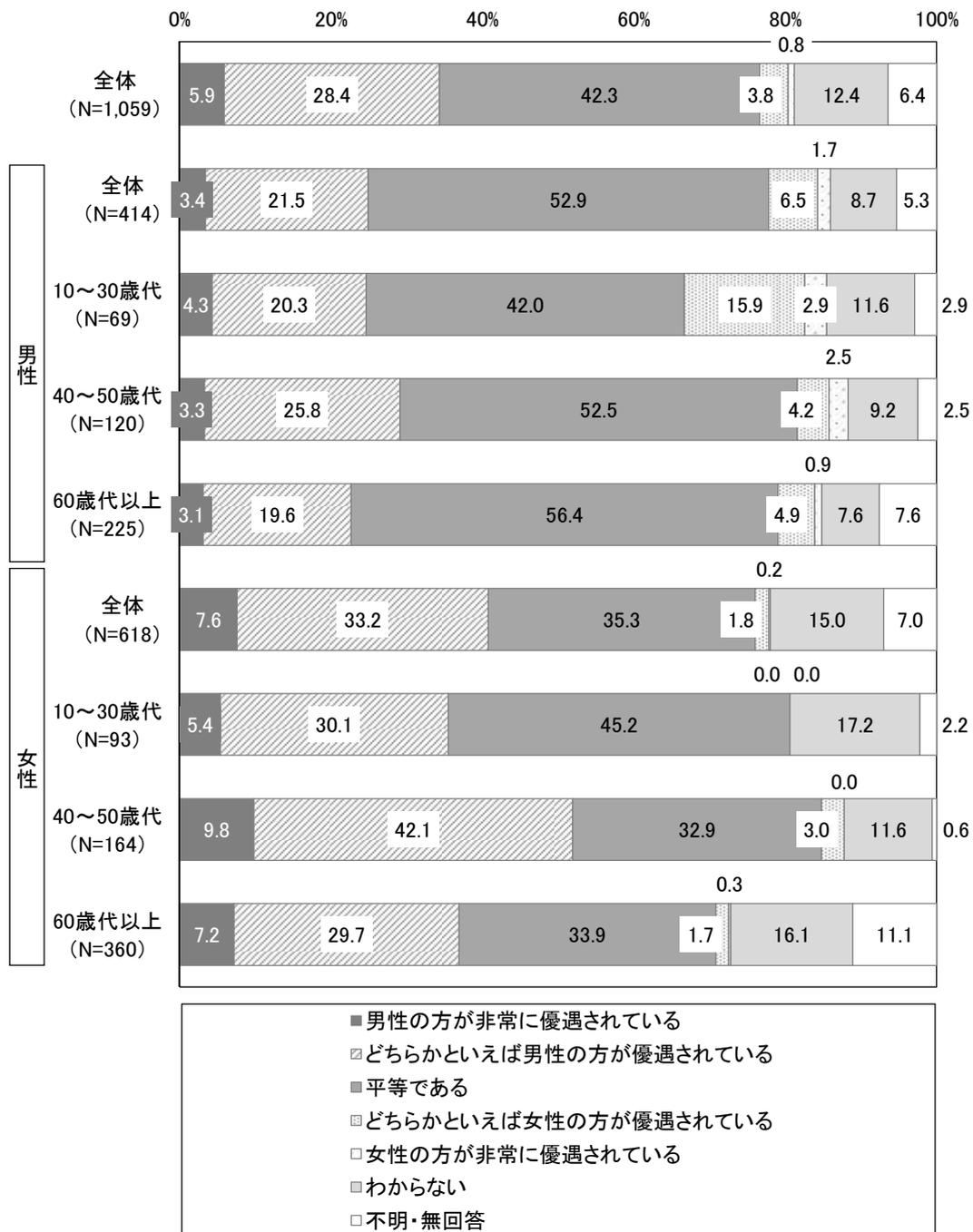
#### ④職場での平等感

職場での平等感についてみると、全体では、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が49.5%と最も高くなっています。男女別年代別にみると、男女ともに10～30歳代で「平等である」が3割近くを占め、他の年代に比べて高くなっています。



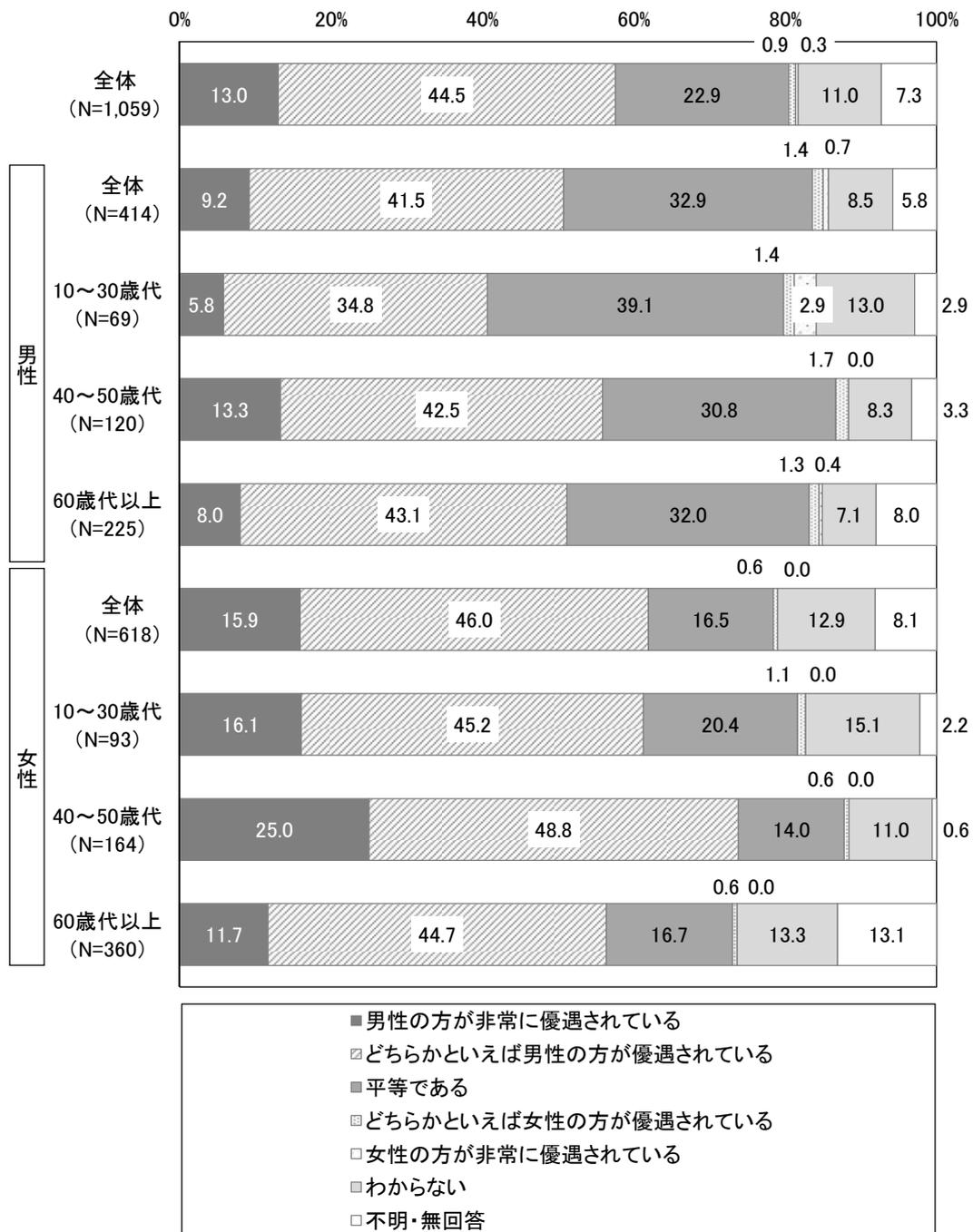
### ⑤法律や制度の上での平等感

法律や制度の上での平等感についてみると、全体では、「平等である」が42.3%と最も高くなっています。男女別に『男性の方が優遇されている』（「非常に」と「どちらかといえば」の合計、以下同様）の割合をみると、女性では4割を超え、男性を大きく上回っています。年代別にみると、男性10～30歳代で「どちらかといえば女性の方が優遇されている」が15.9%と他の年代に比べて高くなっています。



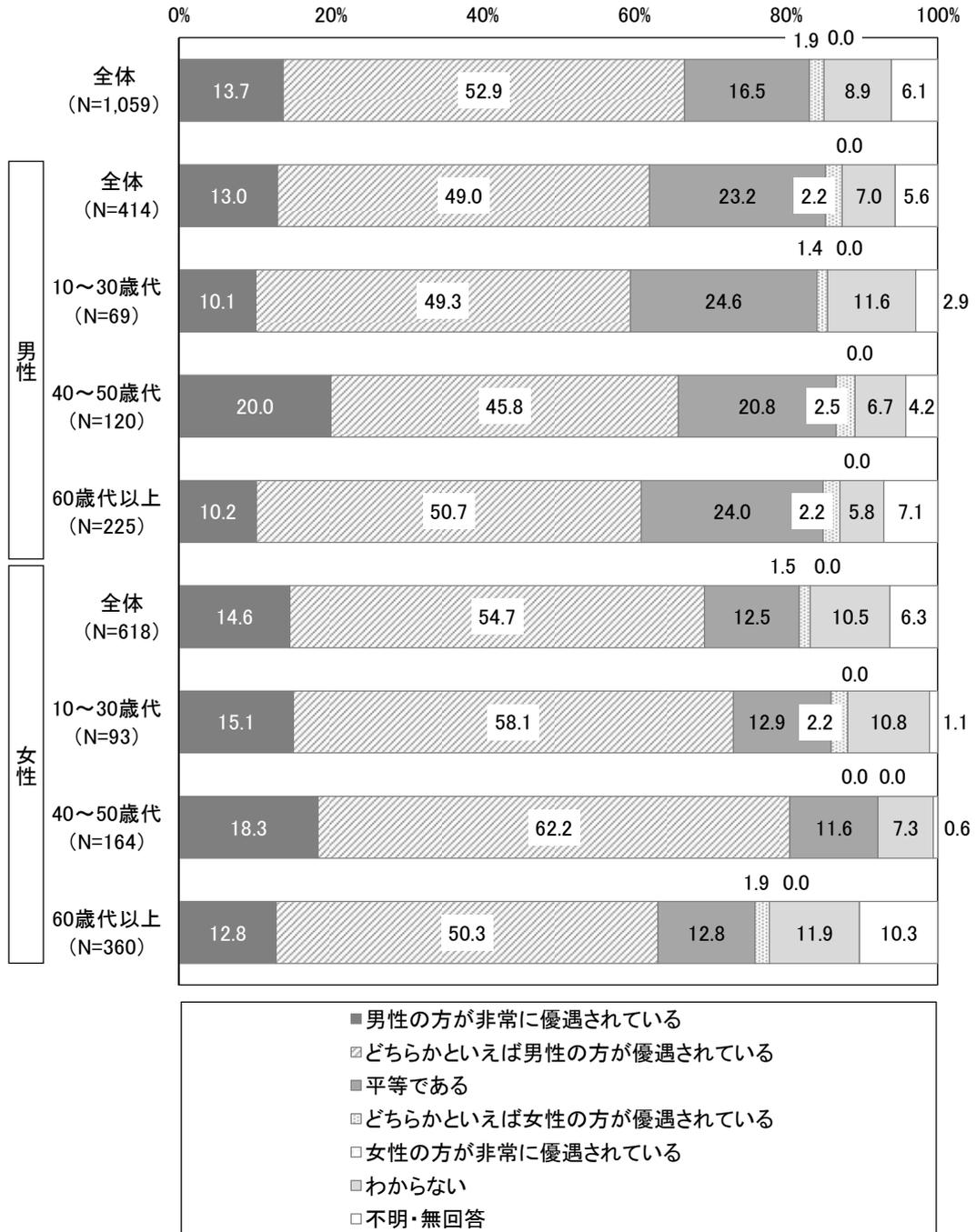
## ⑥政治の場での平等感

政治の場での平等感についてみると、全体では、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が44.5%と最も高くなっています。男女別に「平等である」の割合をみると、男性が32.9%、女性が16.5%と16ポイント以上の開きがあり、男女の意識差がみてとれます。年代別にみると、男女ともに40～50歳代で『男性の方が優遇されている』の割合が他の年代に比べて高くなっています。



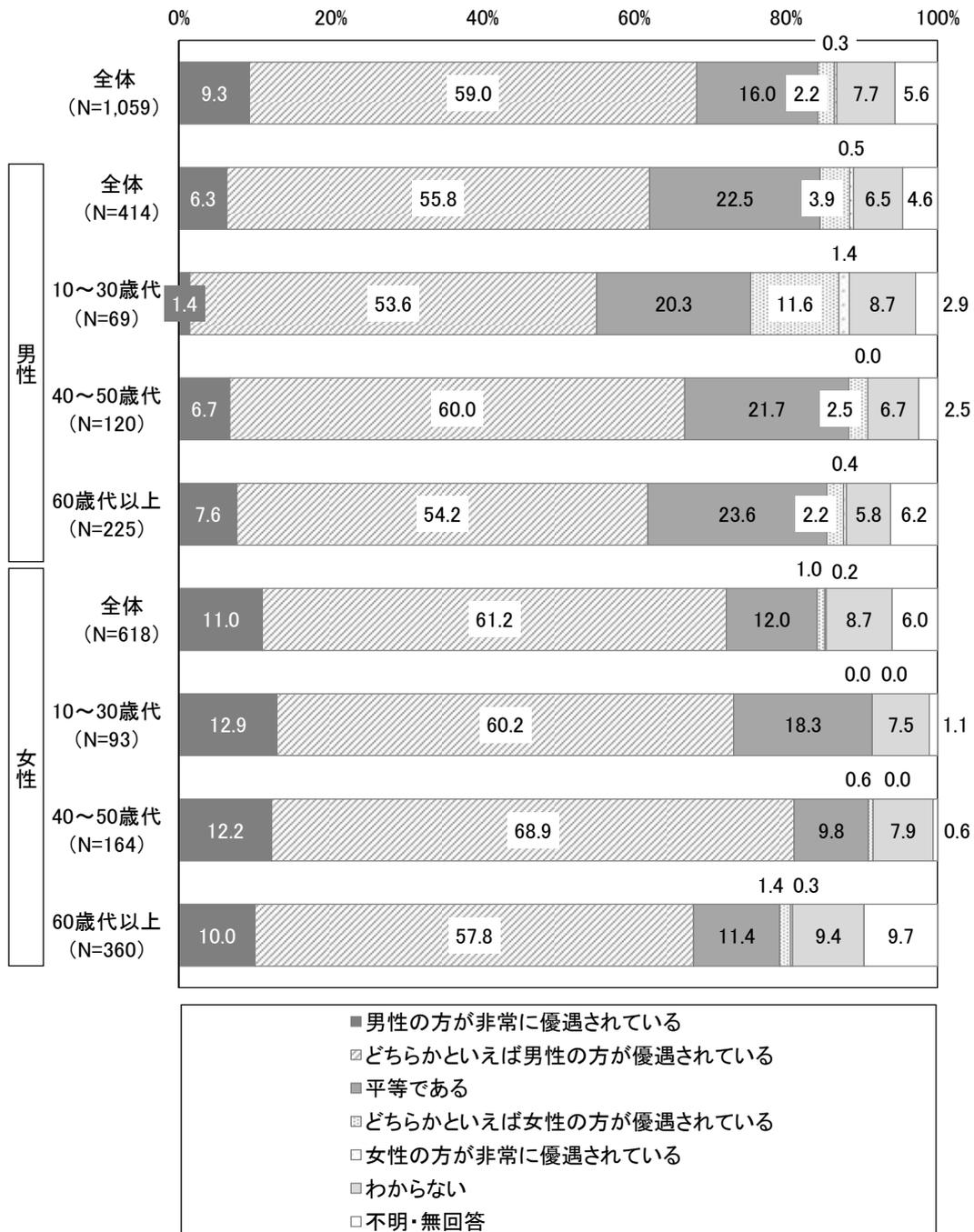
⑦社会通念・慣習・しきたりでの平等感

社会通念・慣習・しきたりでの平等感についてみると、全体では、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が52.9%と最も高くなっています。男女別年代別にみると、女性40～50歳代で『男性の方が優遇されている』が8割を超え、他の年代に比べて高くなっています。



### ⑧日本全体の男女の地位

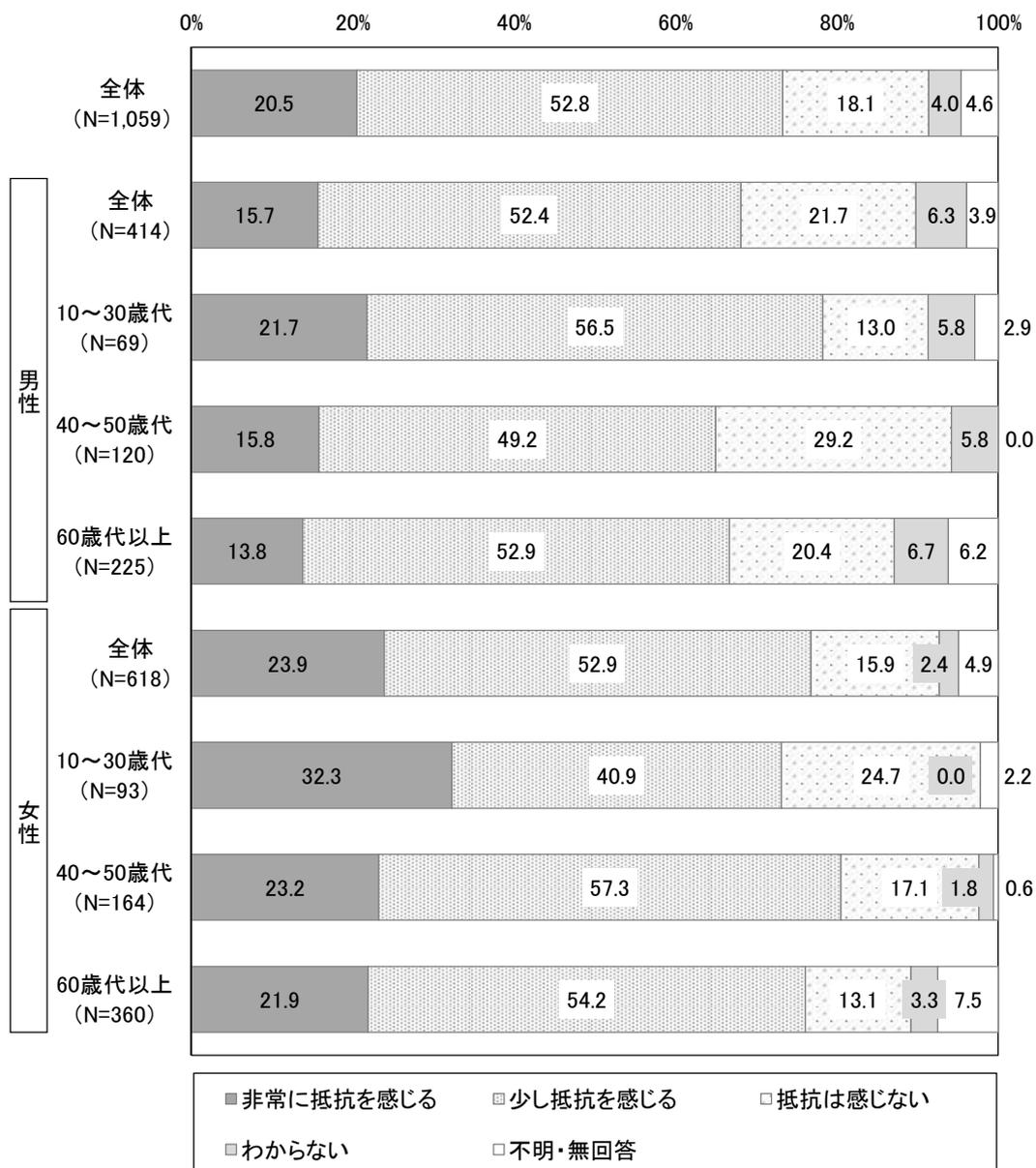
日本全体の男女の地位についてみると、全体では、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が 59.0%と最も高くなっています。男女別年代別にみると、男性 10～30 歳代で「どちらかといえば女性の方が優遇されている」が 11.6%と他の年代に比べて高く、『男性の方が優遇されている』の割合は低くなっています。



(2) あなたは次の事柄についてどのように感じられますか。  
 (それぞれの項目について、あてはまるものひとつに○)

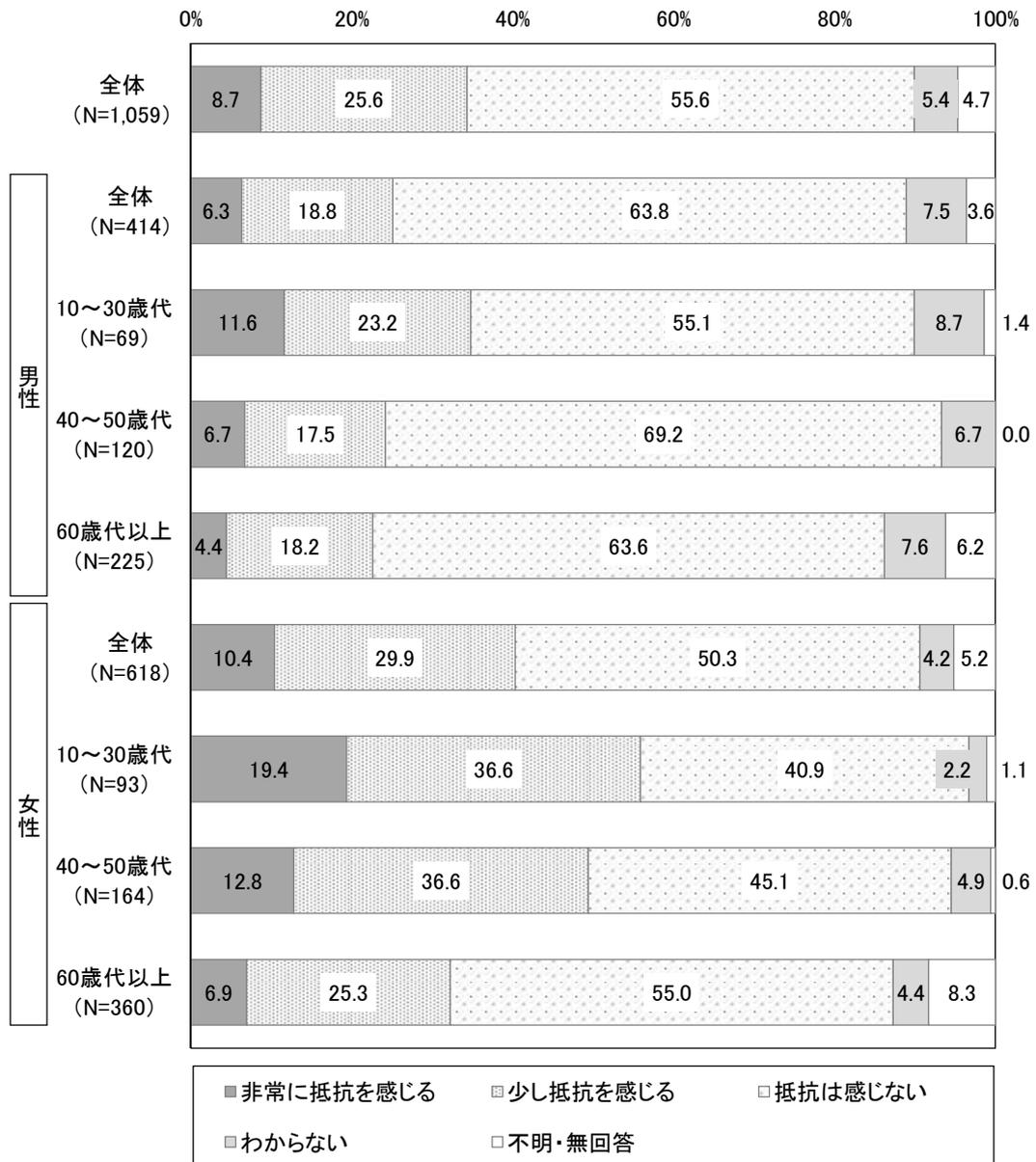
①「女・男だから」「女・男のくせに」という言い方、考え方

「女・男だから」「女・男のくせに」という言い方や考え方について、全体では、抵抗を感じる人（「非常に抵抗を感じる」と「少し抵抗を感じる」の合計、以下同様）は7割以上となっています。男女別年代別にみると、女性 10～30 歳代で「非常に抵抗を感じる」が32.3%と他の年代に比べて高くなっています。



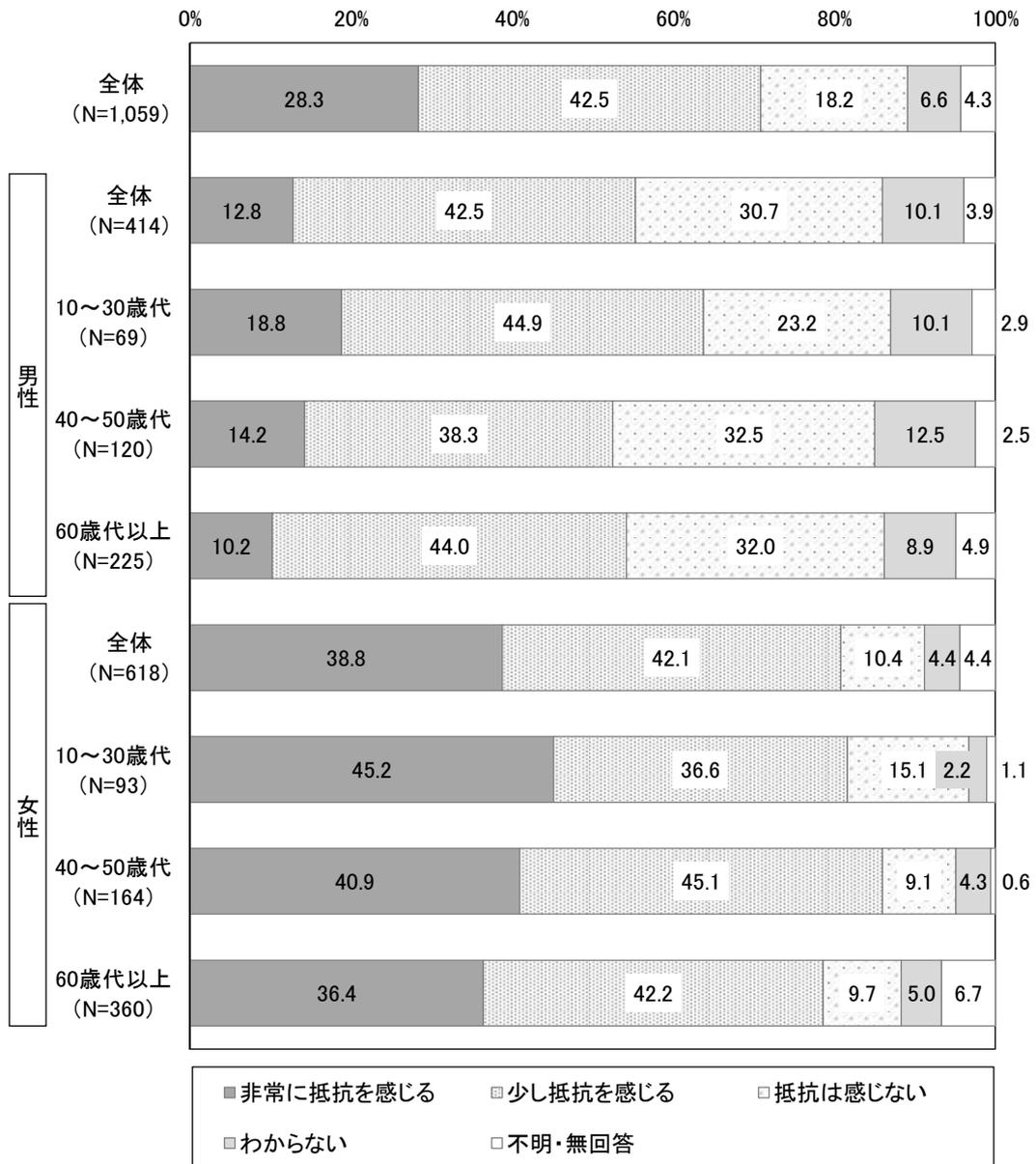
## ②女の子は「女らしく」、男の子は「男らしく」育てること

女の子は「女らしく」、男の子は「男らしく」育てることについて、全体では、「抵抗は感じない」が55.6%と最も高くなっています。年代別に抵抗を感じる人の割合をみると、男女ともに10～30歳代で最も高くなっています。



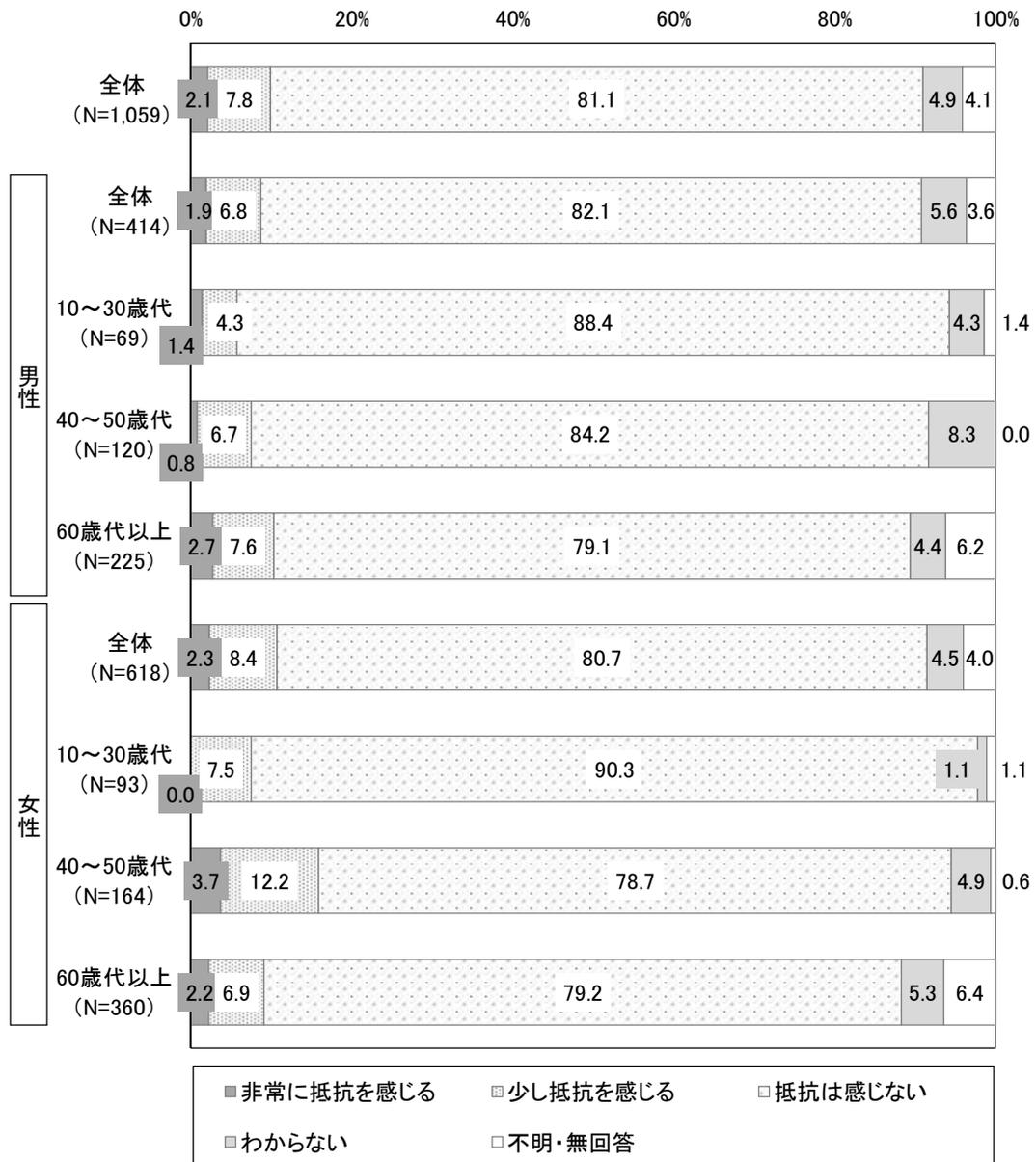
### ③亭主関白の男性

亭主関白の男性について、全体では、抵抗を感じる人は7割以上となっています。男女別に抵抗を感じる人の割合をみると、男性では約5割半、女性では約8割となっており、また、「非常に抵抗を感じる」は女性が20ポイント以上、「抵抗は感じない」は男性が20ポイント以上高く、男女の意識差がみてとれます。年代別に抵抗を感じる人の割合をみると、男性では10～30歳代で、女性では40～50歳代で最も高くなっています。



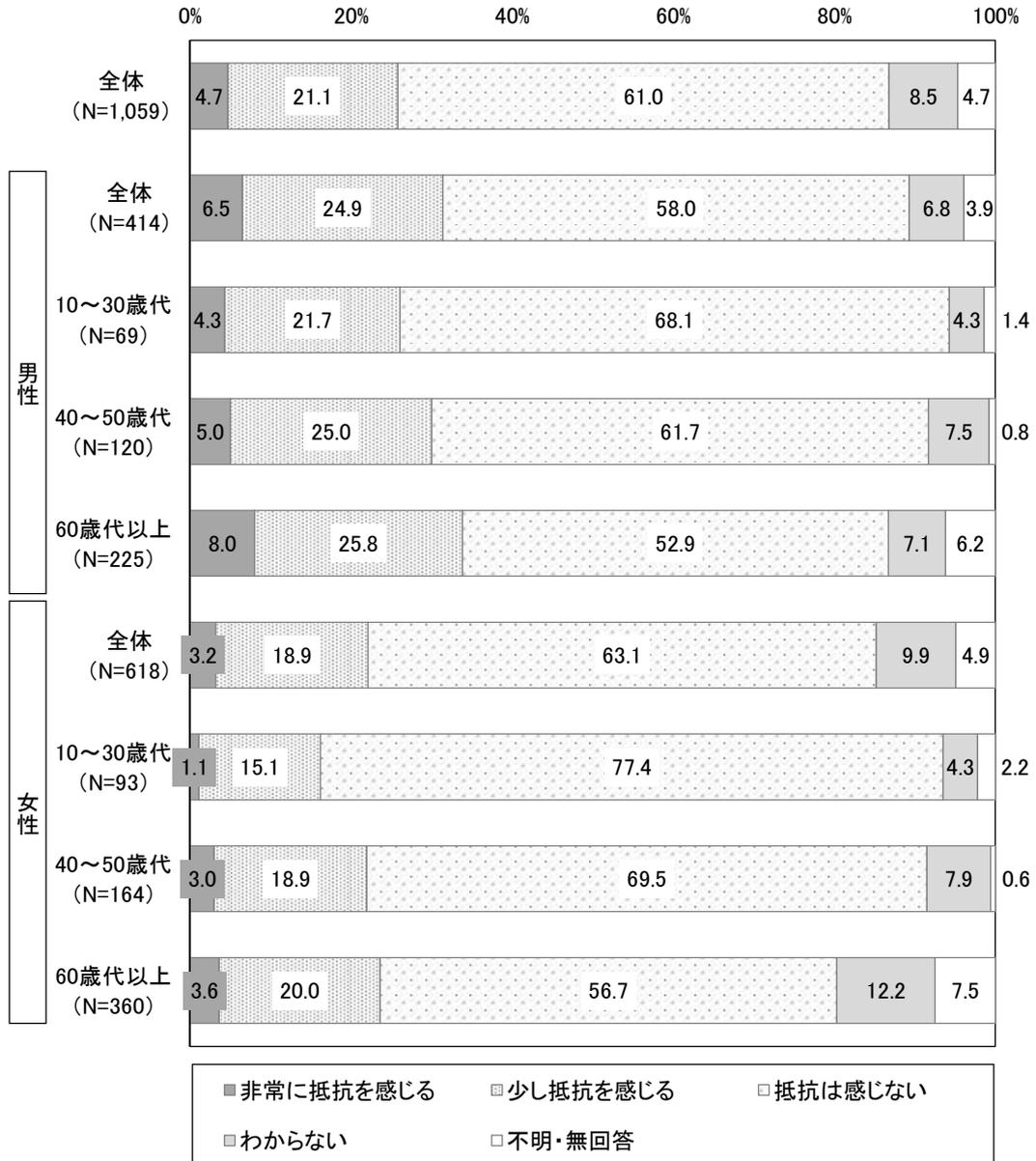
#### ④女性が結婚して夫の姓を名乗ること

女性が結婚して夫の姓を名乗ることについて、全体では、「抵抗は感じない」が81.1%となっています。男女別年代別にみると、女性40～50歳代で抵抗を感じる人の割合が他の年代に比べて高くなっています。



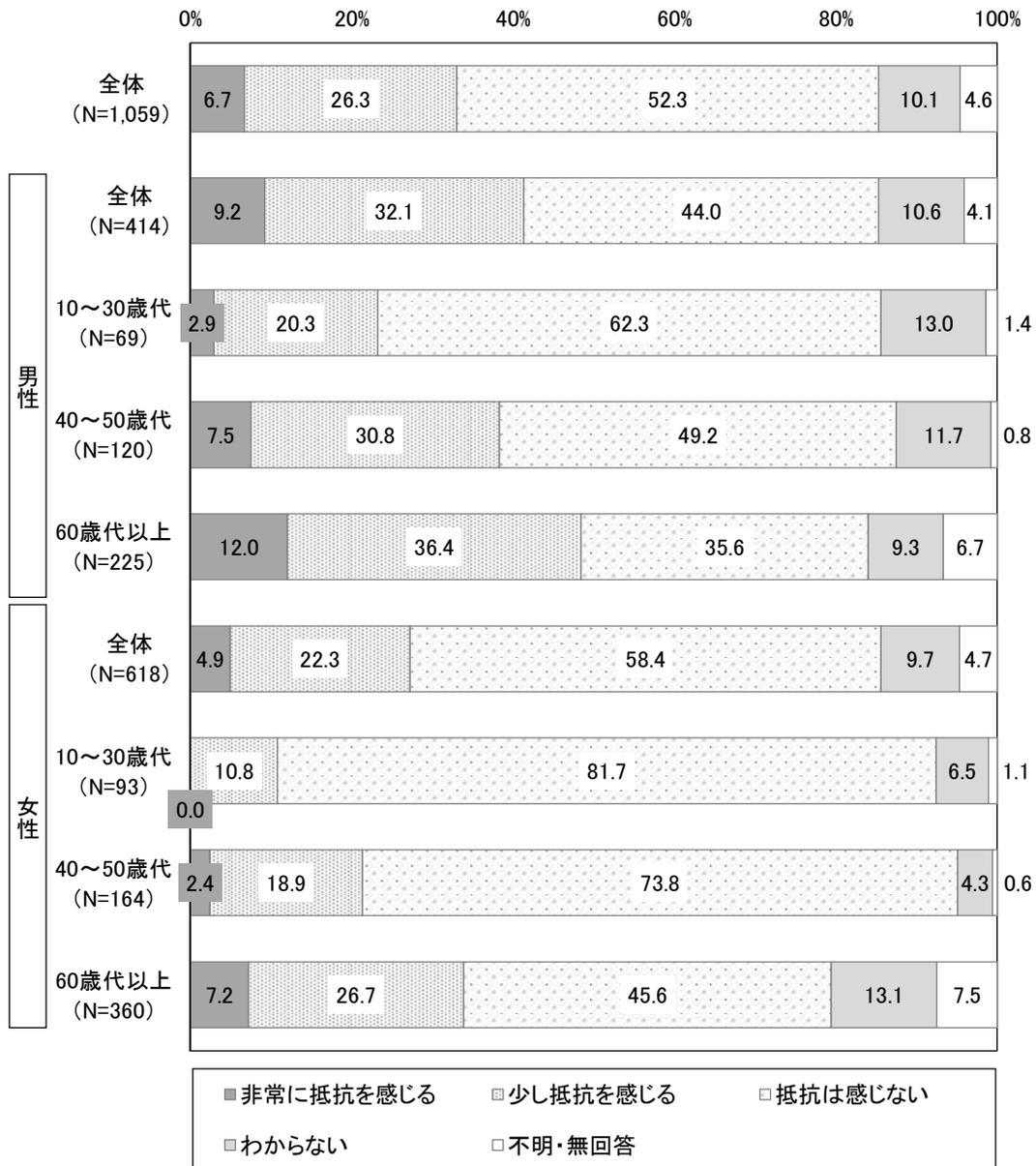
### ⑤男性が結婚して妻の姓を名乗ること

男性が結婚して妻の姓を名乗ることについて、全体では、「抵抗は感じない」が61.0%、「少し抵抗を感じる」が21.1%となっています。男女別に抵抗を感じる人の割合をみると、男性で3割強、女性で2割強となっており、男性が女性をやや上回っています。年代別にみると、男女ともに年代が上がるにつれて抵抗を感じる人の割合が高くなっています。



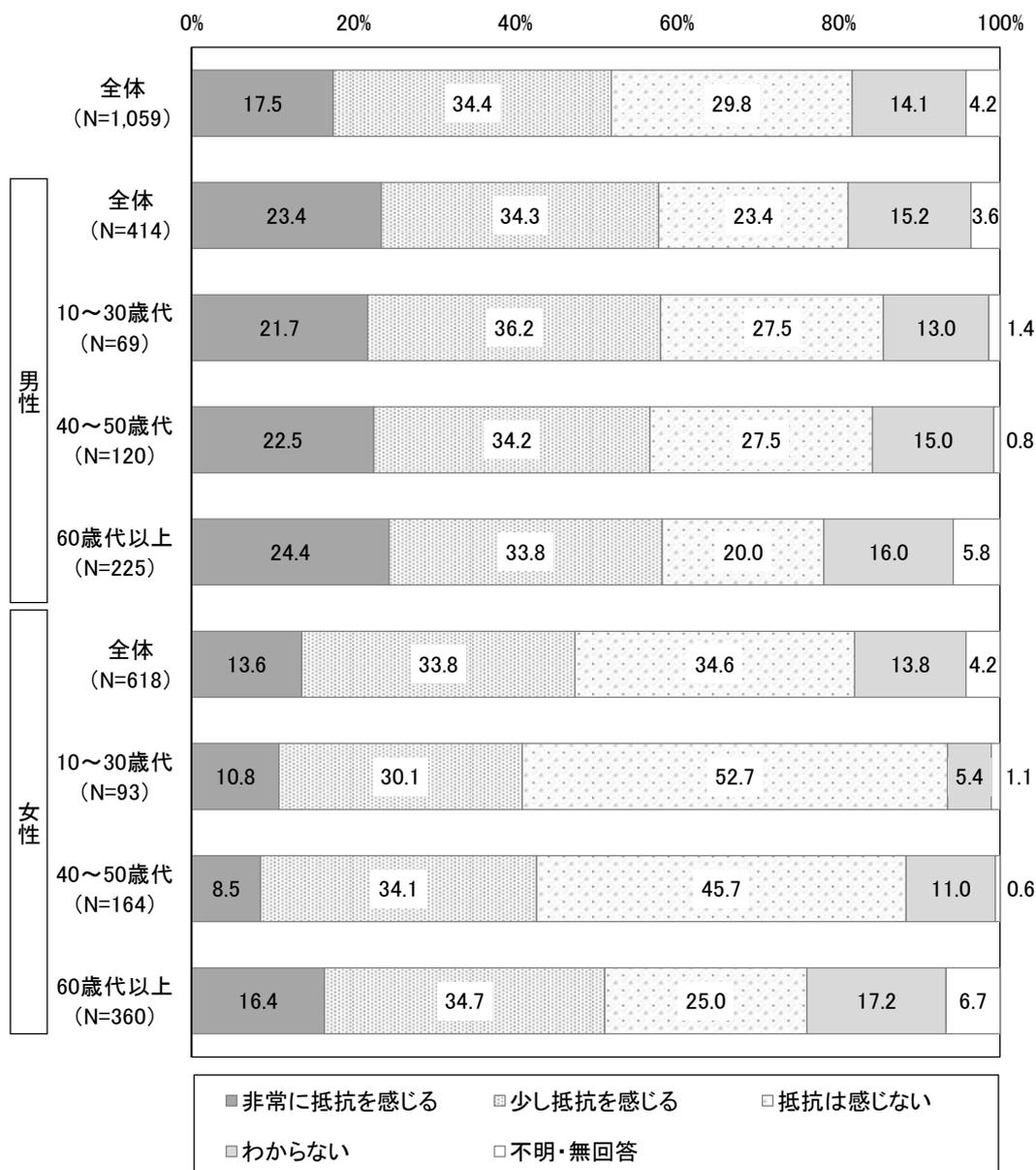
## ⑥女性が結婚しないで仕事に専念すること

女性が結婚しないで仕事に専念することについて、全体では、「抵抗は感じない」が52.3%、「少し抵抗を感じる」が26.3%となっています。男女別に抵抗を感じる人の割合をみると、男性が4割台、女性が2割台となっており、男性の方が高くなっています。一方、「抵抗は感じない」の割合は女性の方が高くなっています。年代別にみると、男女ともに年代が上がるにつれて抵抗を感じる人の割合が高くなっています。



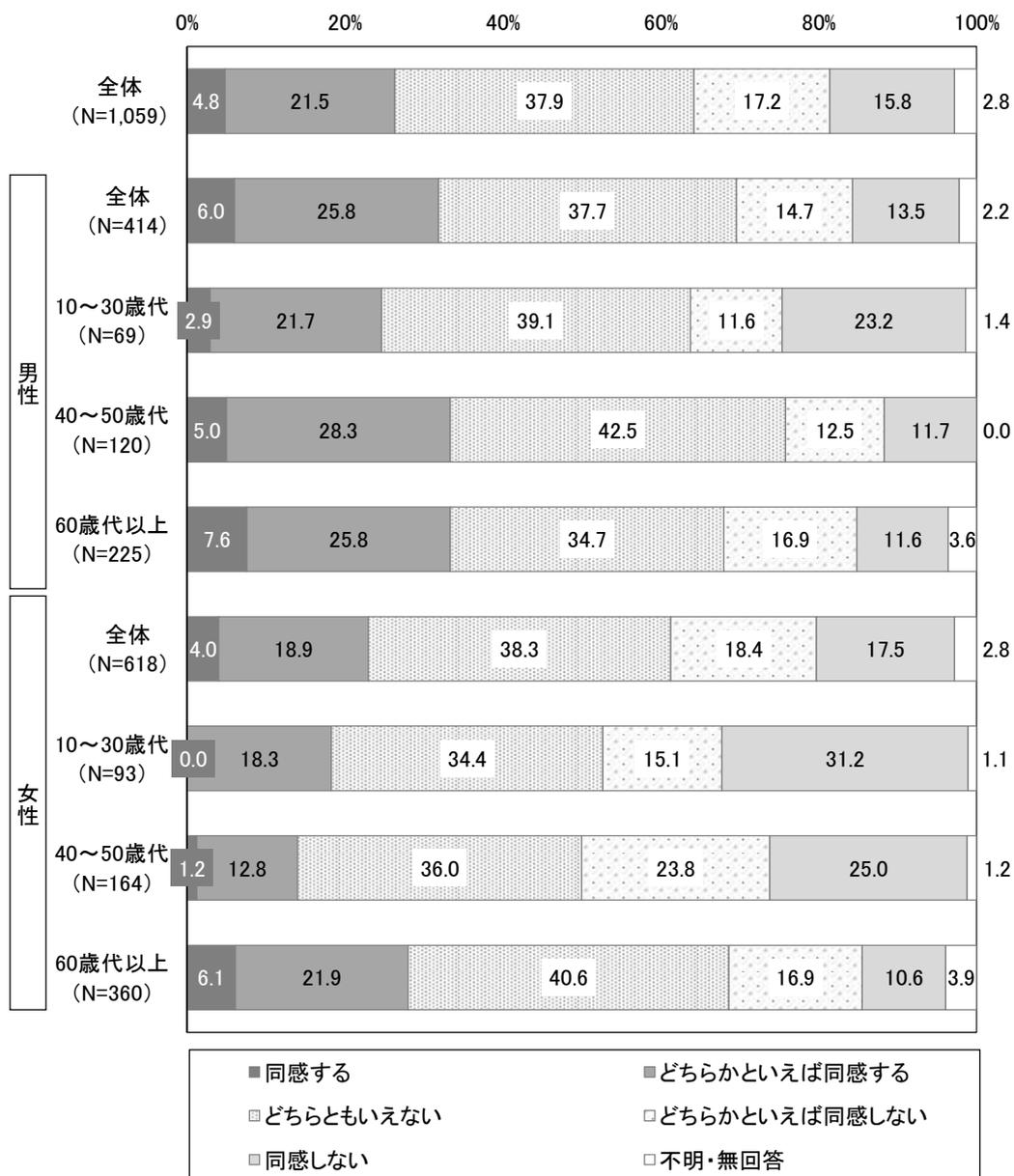
## ⑦離婚すること

離婚することについて男女別にみると、「抵抗は感じない」は女性の方が多く、「非常に抵抗を感じる」は男性の方が多くなっています。年代別にみると、抵抗を感じる人の割合は男女ともに60歳代以上で高くなっています。一方、女性10～30歳代では「抵抗は感じない」が5割を超え、他の年代に比べて高くなっています。



(3) 「男は仕事、女は家事・育児」という考え方がありますが、あなたはこの考え方に同感しますか。(ひとつに○)

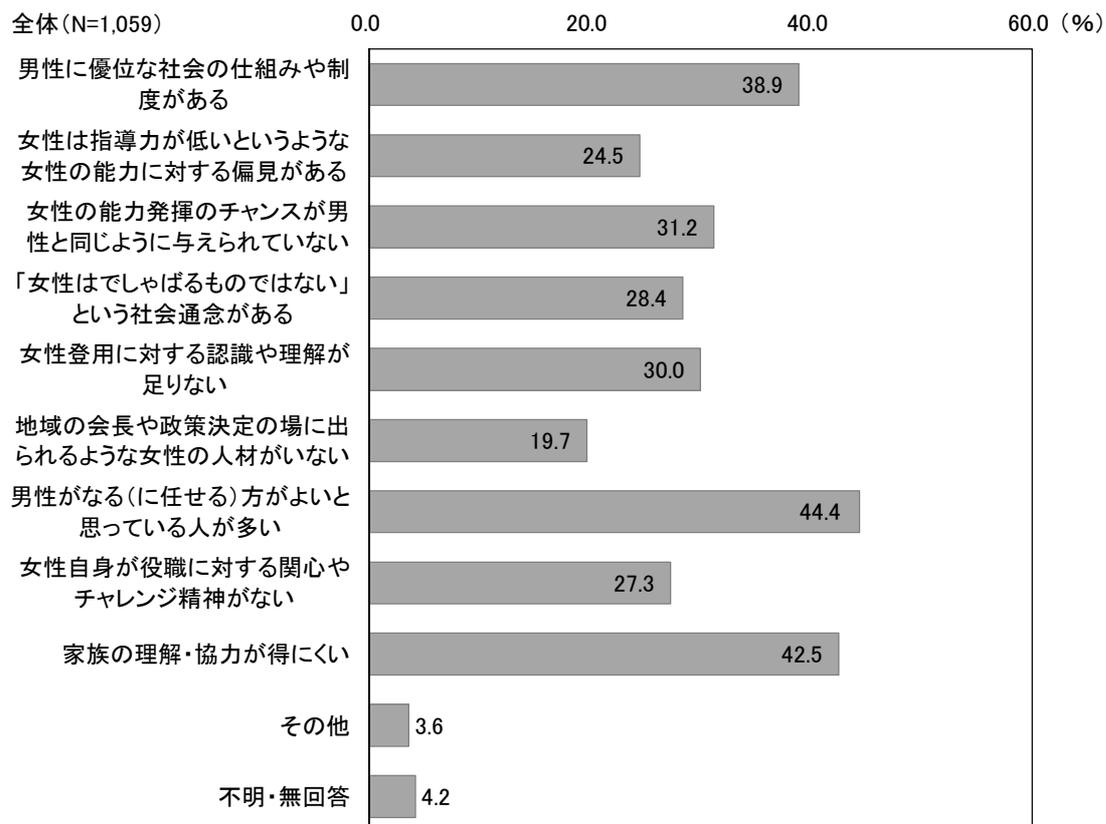
「男は仕事、女は家事・育児」という考え方に同感するかどうかについてみると、全体では、「どちらともいえない」が37.9%と最も高くなっています。男女別にみると、「同感する」「どちらかといえば同感する」と回答した人は男性の方が多く、「どちらかといえば同感しない」「同感しない」は女性の方が多くなっています。年代別にみると、男女ともに10～30歳代で「同感しない」の割合が高くなっています。



【参考値 内閣府「女性の活躍推進に関する世論調査」(平成26年)】  
 ■「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方について  
 全国:「賛成」12.5%、「どちらかという賛成」32.1%  
 近畿:「賛成」11.3%、「どちらかという賛成」36.3%

(4) 近年、女性の社会進出はすすんでいます、議員や審議会委員、自治会の役員などは女性が少ないのが現状です。このように女性の参画が少ない理由は何だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

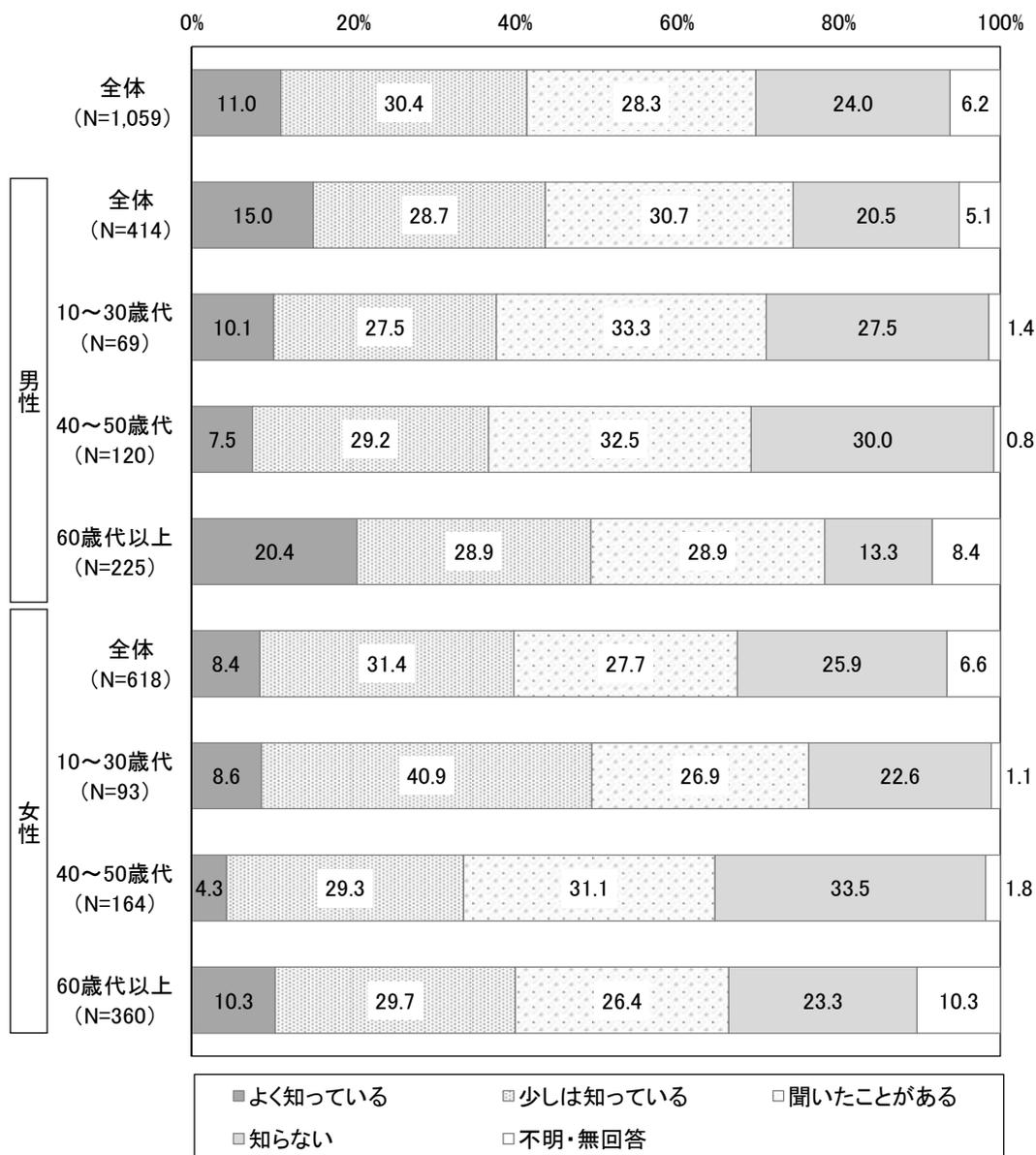
女性の参画が少ない理由についてみると、「男性がなる(に任せる)方がよいと思っている人が多い」が44.4%と最も高く、次いで「家族の理解・協力が得にくい」が42.5%、「男性に優位な社会の仕組みや制度がある」が38.9%、「女性の能力発揮のチャンスが男性と同じように与えられていない」が31.2%、「女性登用に対する認識や理解が足りない」が30.0%となっています。



(5) あなたは次の言葉についてどの程度知っていますか。  
 (それぞれの項目について、あてはまるものひとつに○)

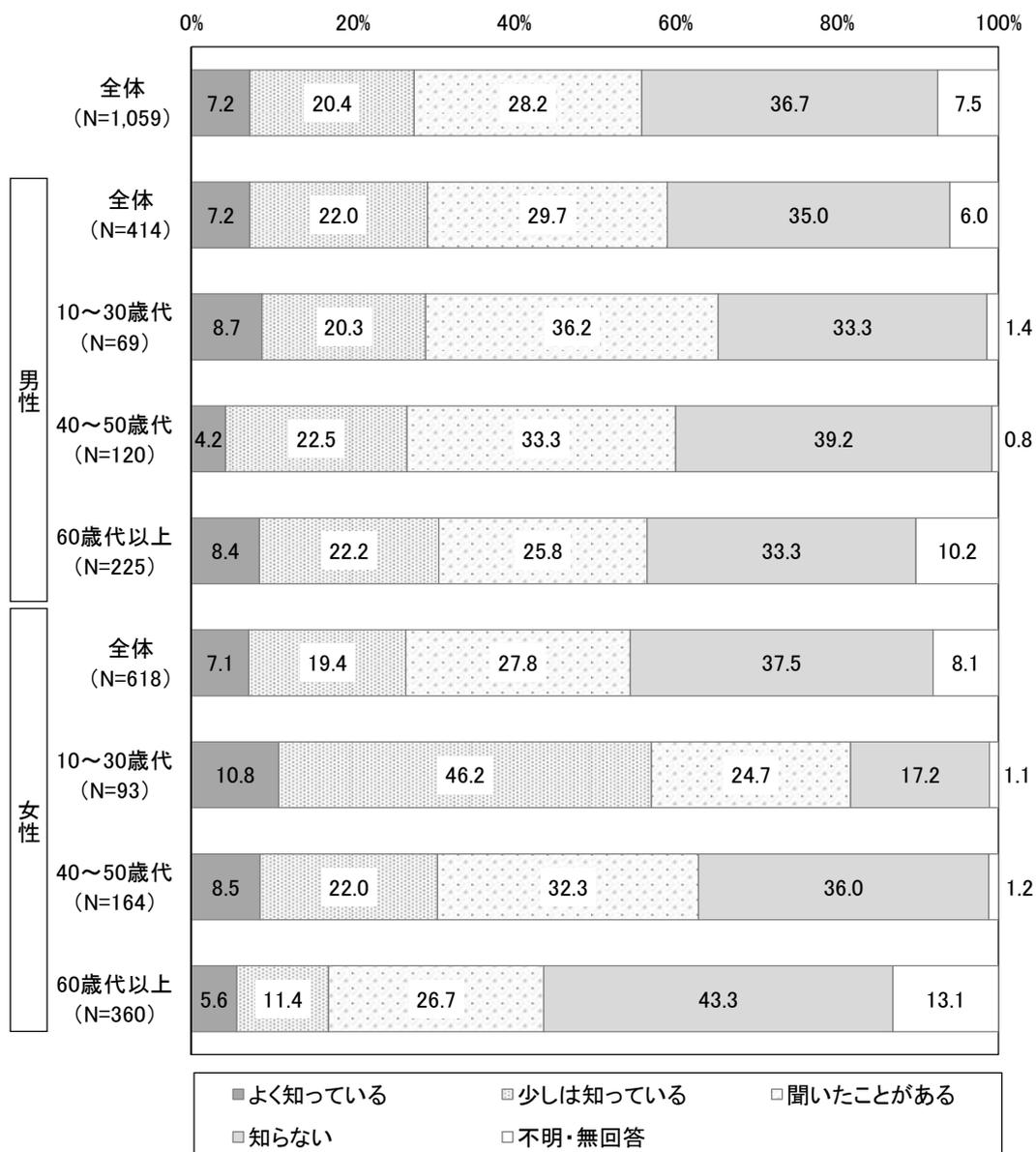
①男女共同参画社会の認知度

男女共同参画社会の認知度については、「少しは知っている」が 30.4%と最も高くなっています。男女別年代別にみると、『知っている』（「よく知っている」と「少しは知っている」の合計、以下同様）の割合は、男性 60 歳代以上と女性 10～30 歳代で 5 割近くを占め、他の年代に比べて高くなっています。



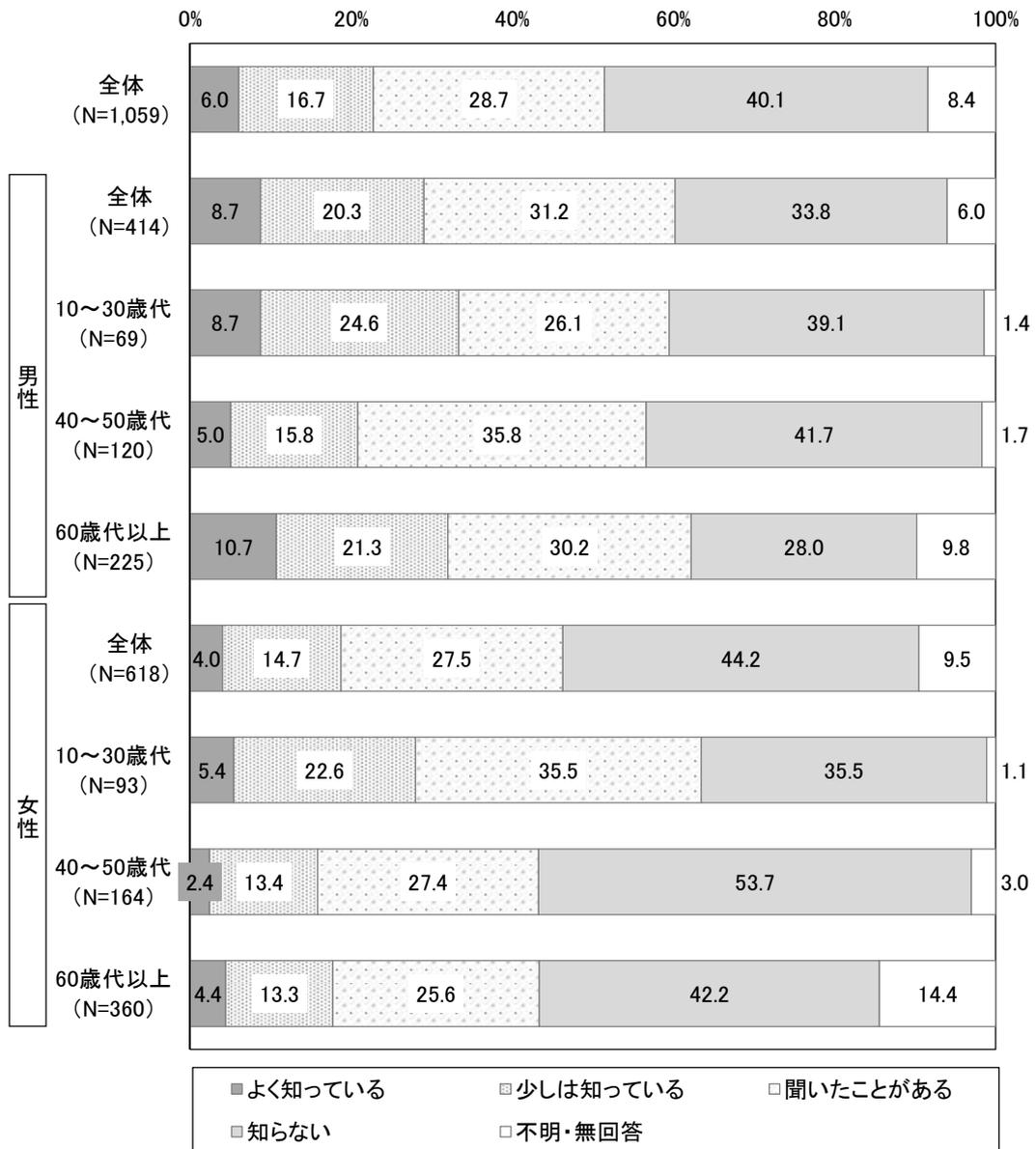
## ②社会的性差（ジェンダー）の認知度

社会的性差（ジェンダー）の認知度については、「知らない」が36.7%と最も高くなっており、次いで「聞いたことがある」が28.2%となっています。男女別年代別に『知っている』の割合をみると、女性10～30歳代で5割を超え、他の年代に比べて高くなっています。



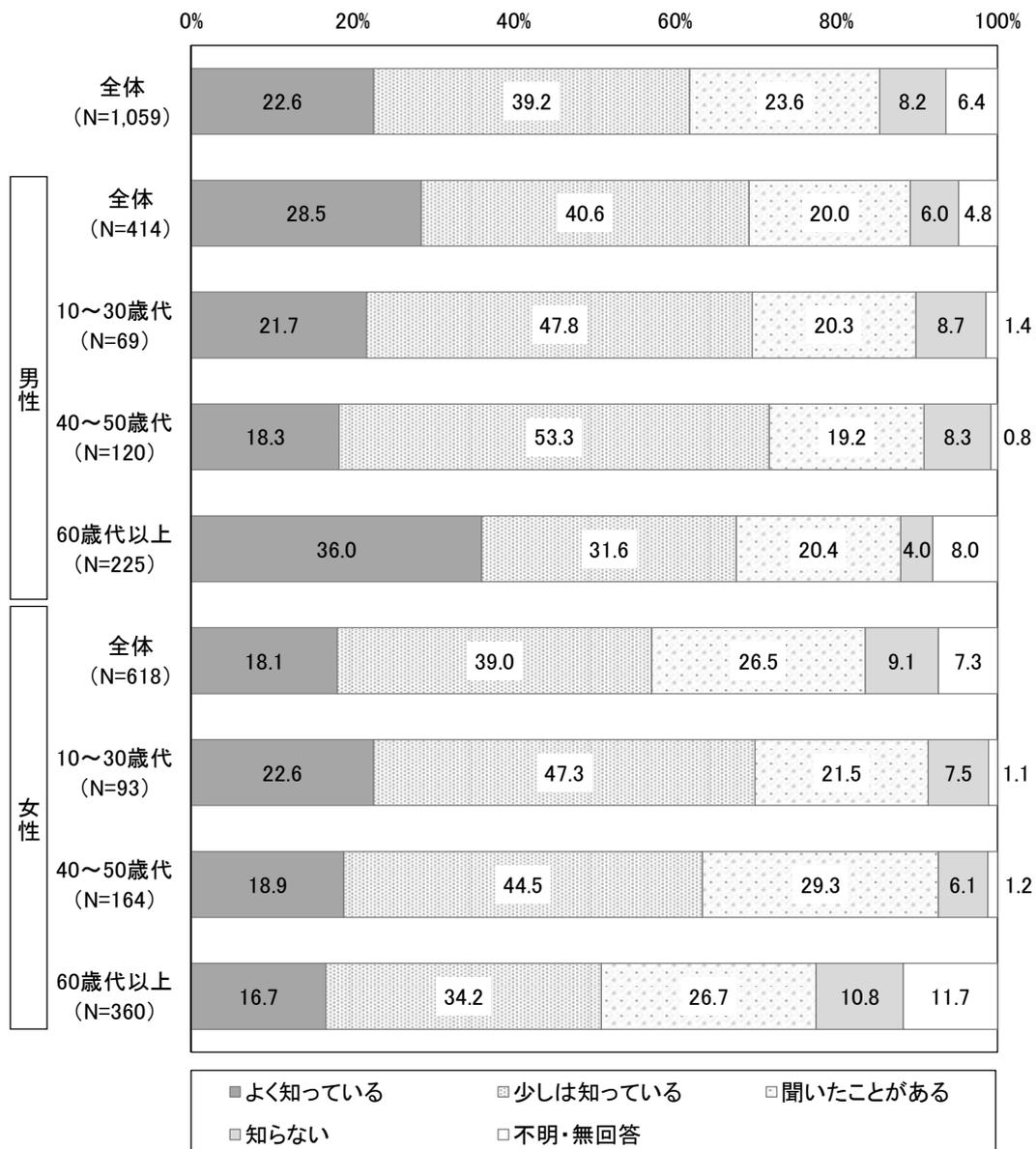
### ③男女共同参画社会基本法の認知度

男女共同参画社会基本法の認知度については、「知らない」が40.1%と最も高く、次いで「聞いたことがある」が28.7%となっています。男女別年代別に『知っている』の割合をみると、男女ともに10～30歳代で最も高くなっています。



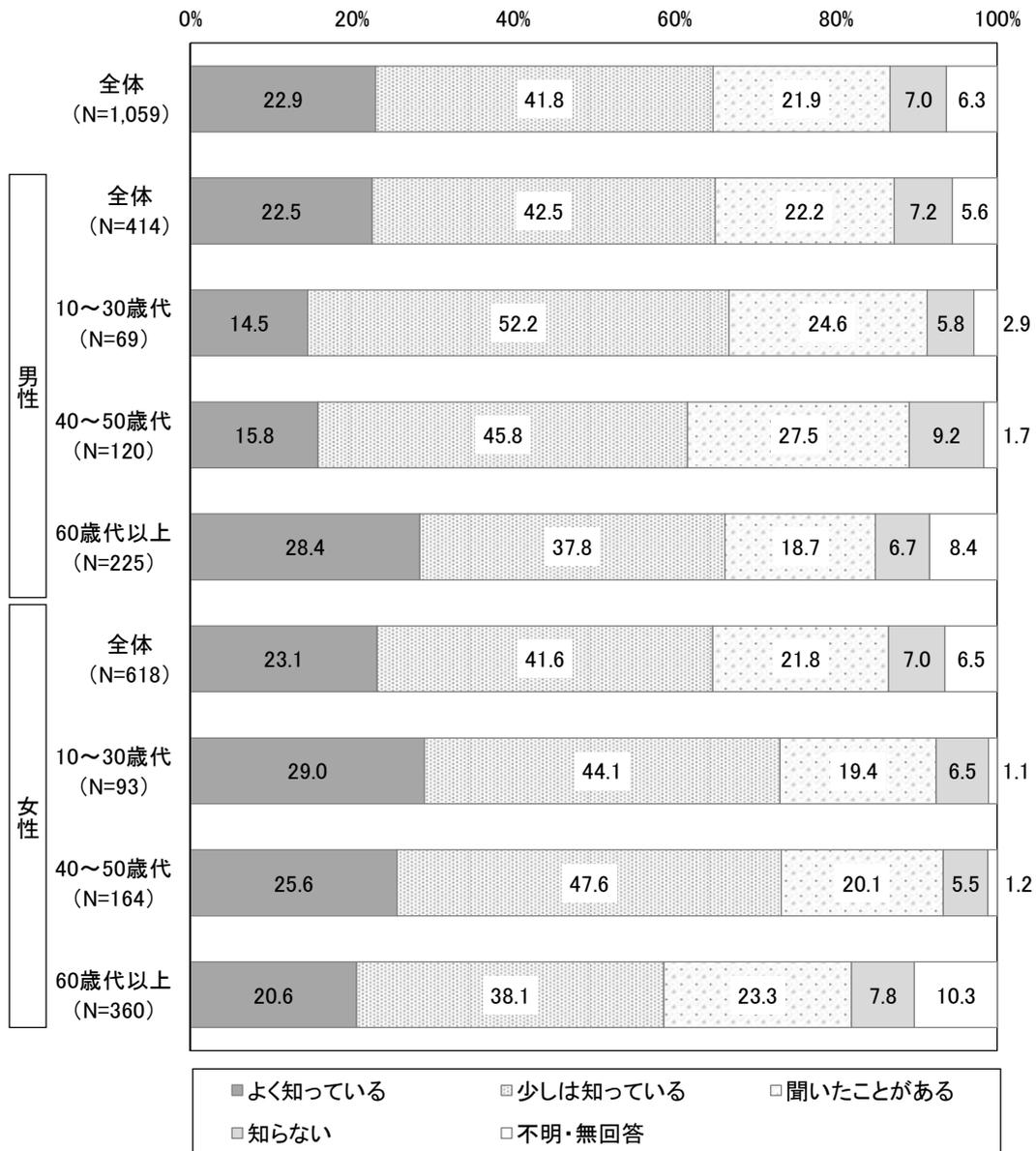
#### ④男女雇用機会均等法の認知度

男女雇用機会均等法の認知度については、「少しは知っている」が 39.2%と最も高く、次いで「聞いたことがある」が 23.6%となっています。男女別年代別にみると、男性 60歳代以上で「よく知っている」が 36.0%と他の年代に比べて高くなっています。



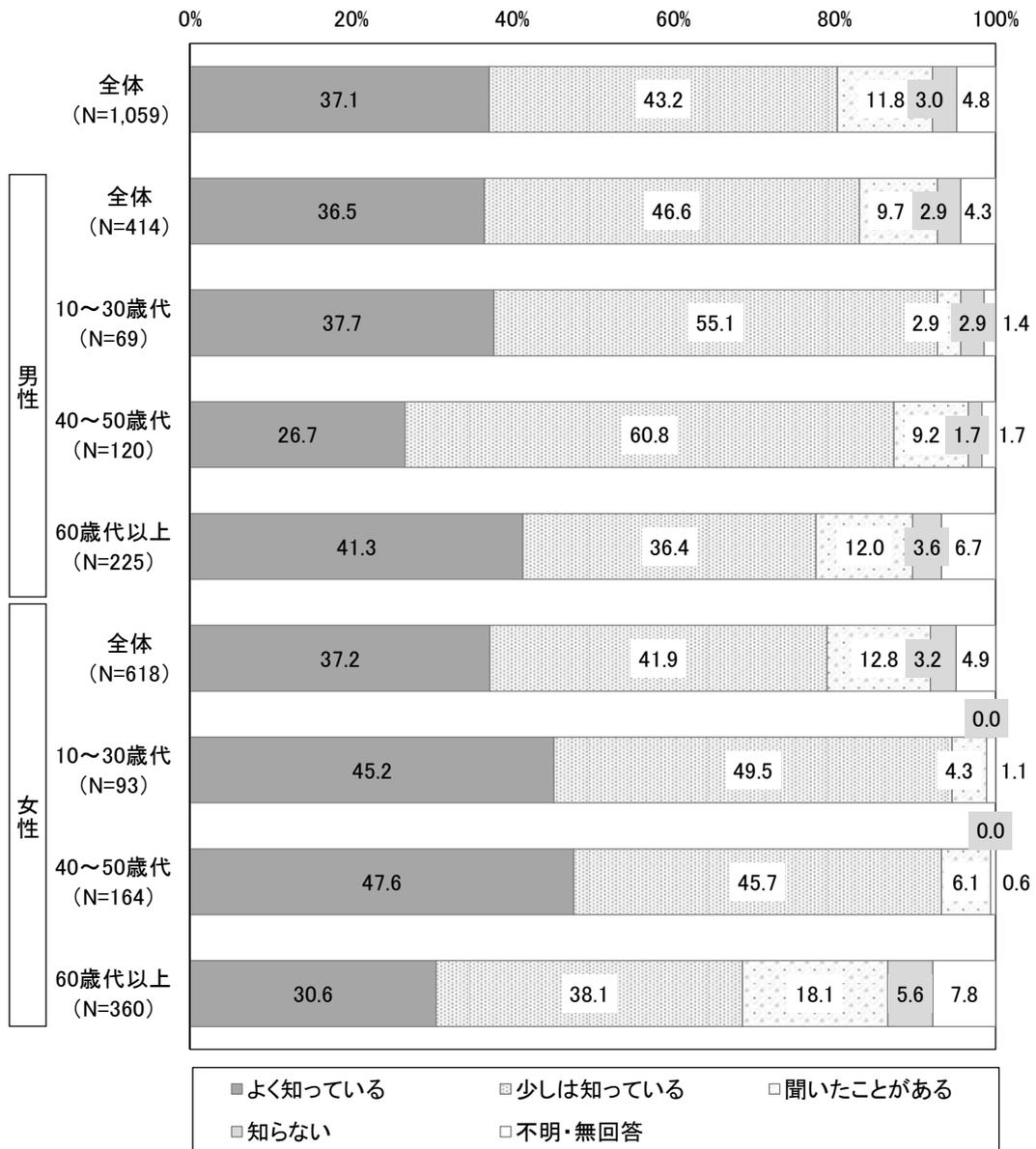
### ⑤育児・介護休業法の認知度

育児・介護休業法の認知度についてみると、「少しは知っている」が41.8%と最も高く、次いで「よく知っている」が22.9%となっています。男女別年代別にみると、男性60歳代以上と女性10～30歳代で「よく知っている」が3割近くを占め、他の年代に比べて高くなっています。



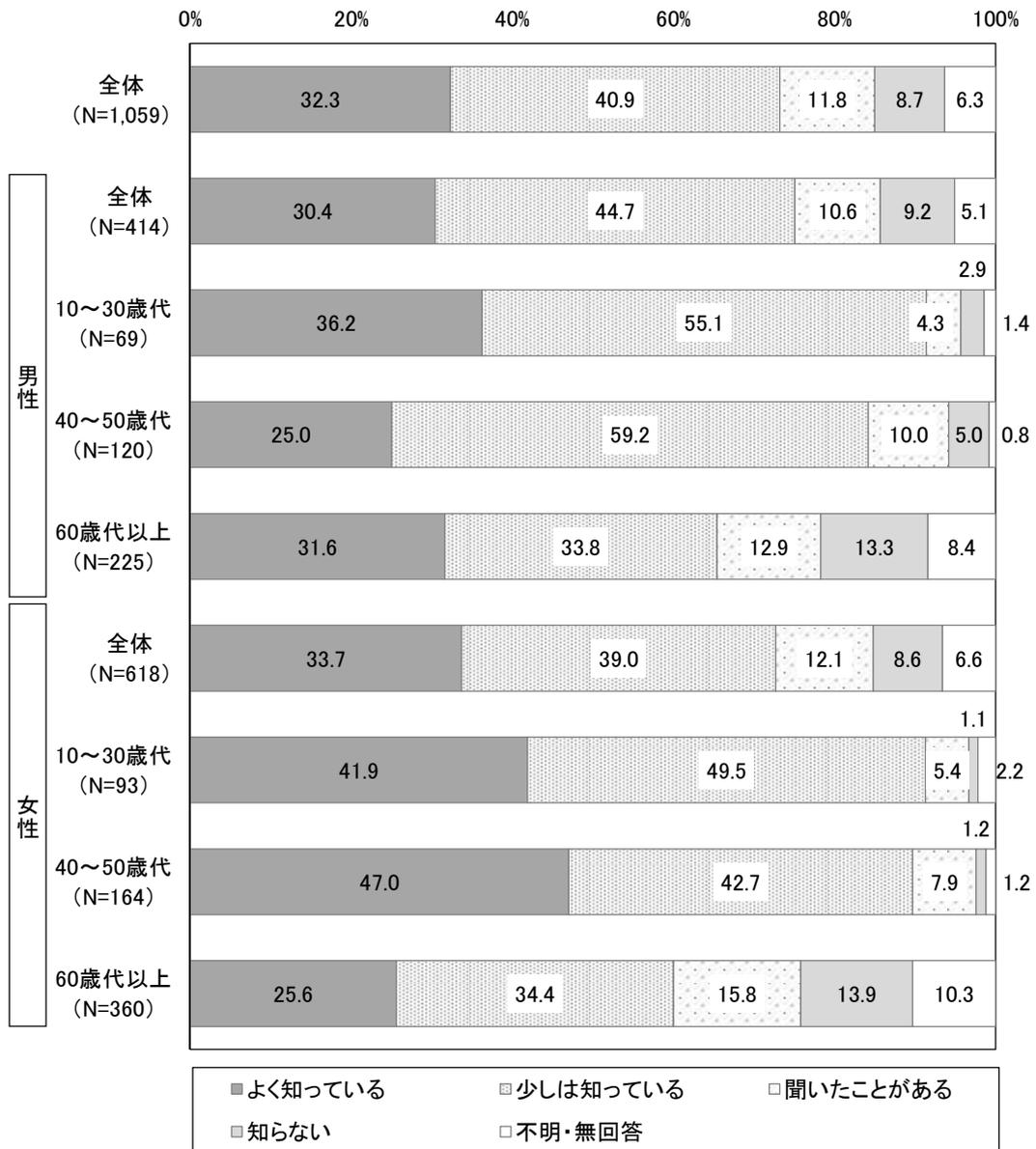
## ⑥セクシュアル・ハラスメント（セクハラ）の認知度

セクシュアル・ハラスメント（セクハラ）の認知度についてみると、「少しは知っている」が43.2%と最も高く、次いで「よく知っている」が37.1%となっています。男女別年代別に『知っている』の割合をみると、男女ともに年代が上がるにつれて低くなっています。



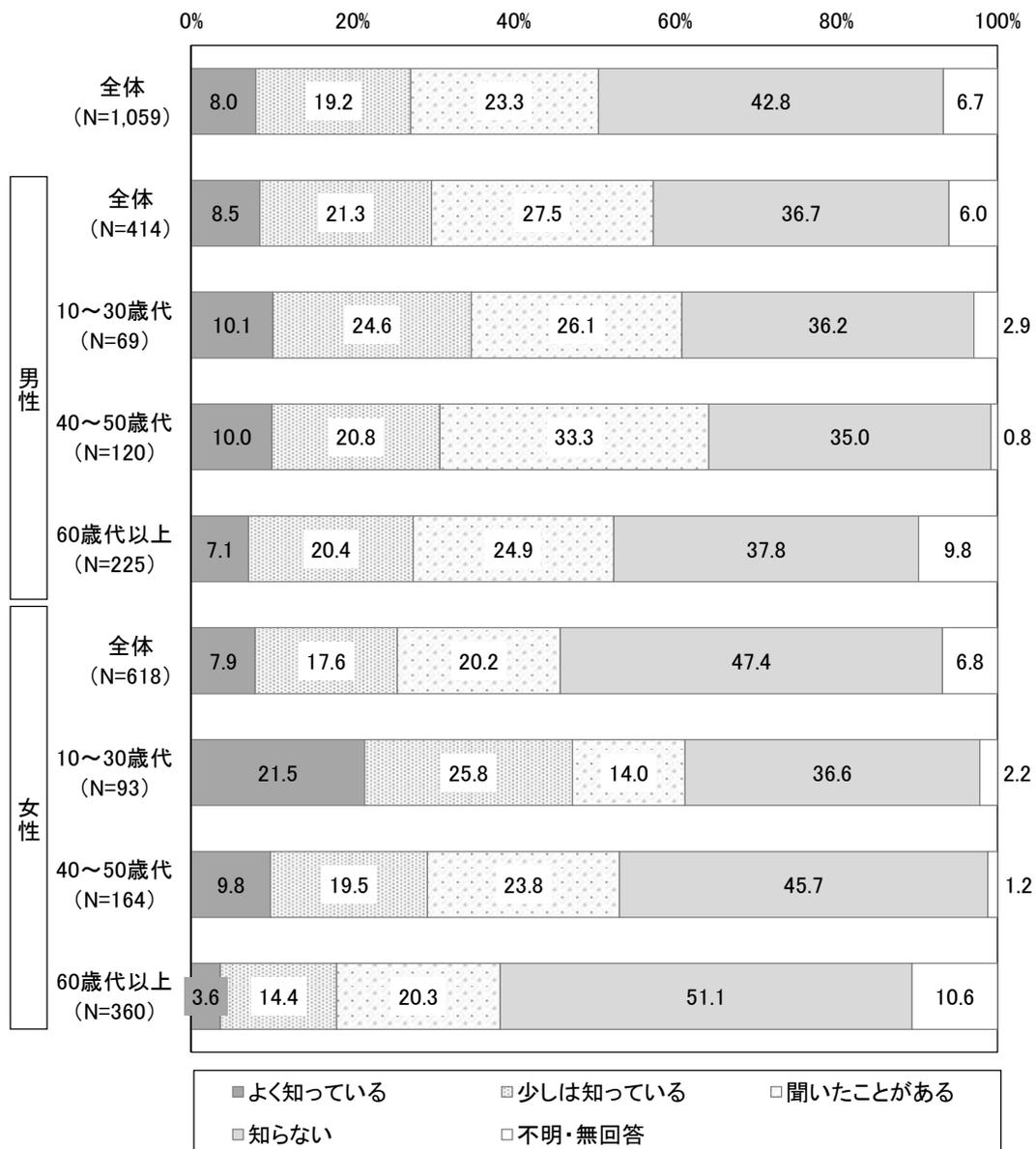
### ⑦ドメスティック・バイオレンス（DV）の認知度

ドメスティック・バイオレンス（DV）の認知度についてみると、「少しは知っている」が40.9%と最も高く、次いで「よく知っている」が32.3%となっています。男女別年代別に『知っている』の割合をみると、男女ともに年代が上がるにつれて低くなっています。



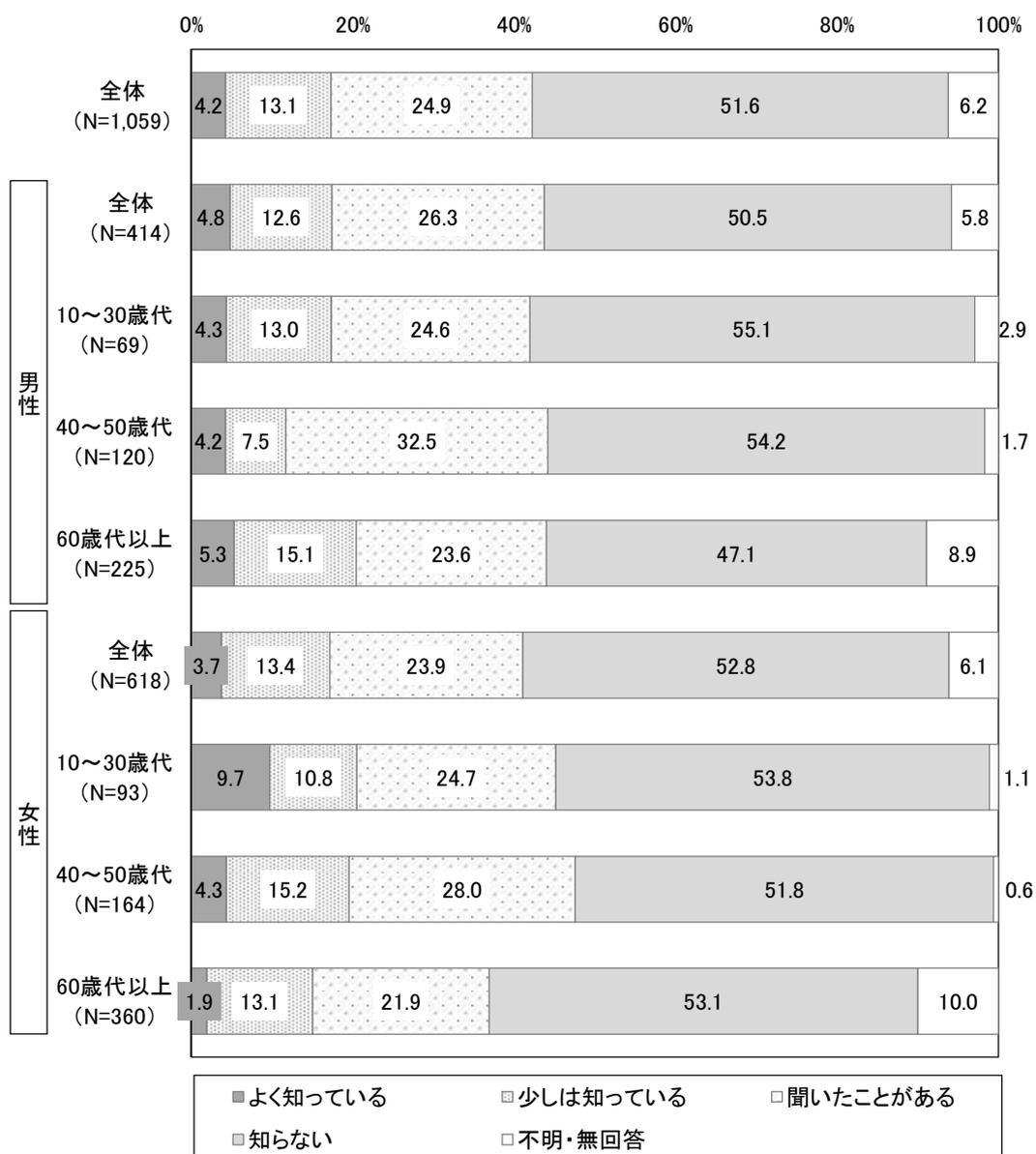
### ⑧ワーク・ライフ・バランスの認知度

ワーク・ライフ・バランスの認知度についてみると、「知らない」が42.8%と最も高く、次いで「聞いたことがある」が23.3%となっています。男女別年代別にみると、女性10～30歳代で「よく知っている」が21.5%と他の年代に比べて高くなっています。



### ⑨ポジティブ・アクションの認知度

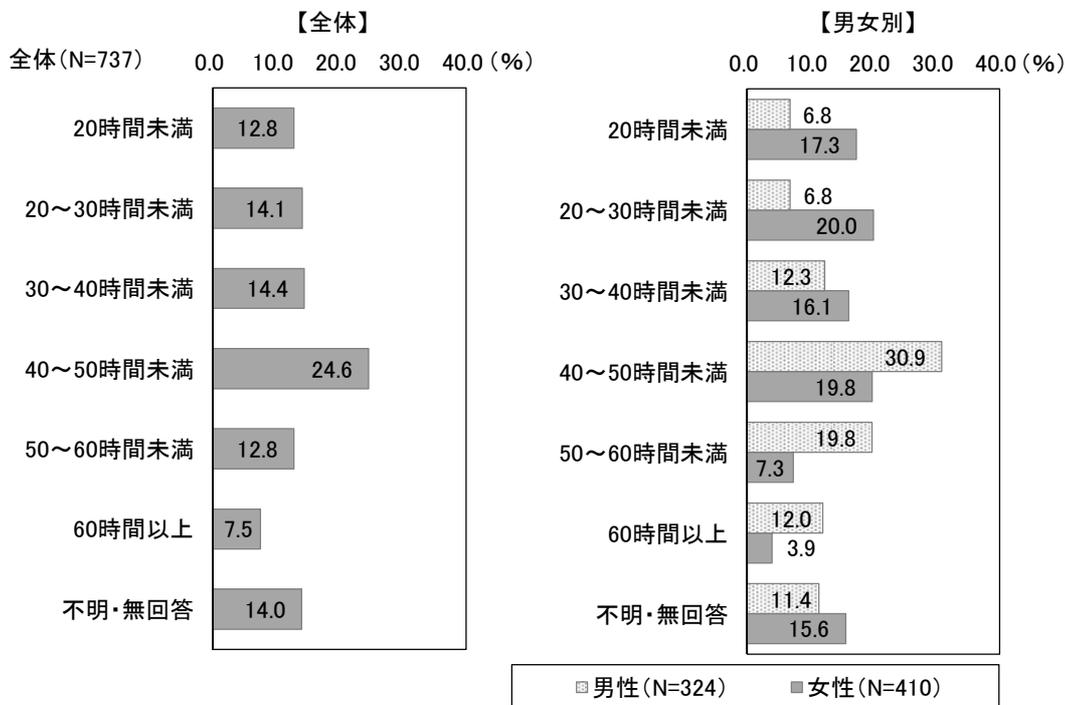
ポジティブ・アクションの認知度についてみると、「知らない」が51.6%と最も高く、次いで「聞いたことがある」が24.9%となっています。男女別年代別にみても、すべての年代で「知らない」の割合が最も高くなっています。



### 3. 職業生活についておたずねします ※「学生」「家事専業」「無職」以外の方

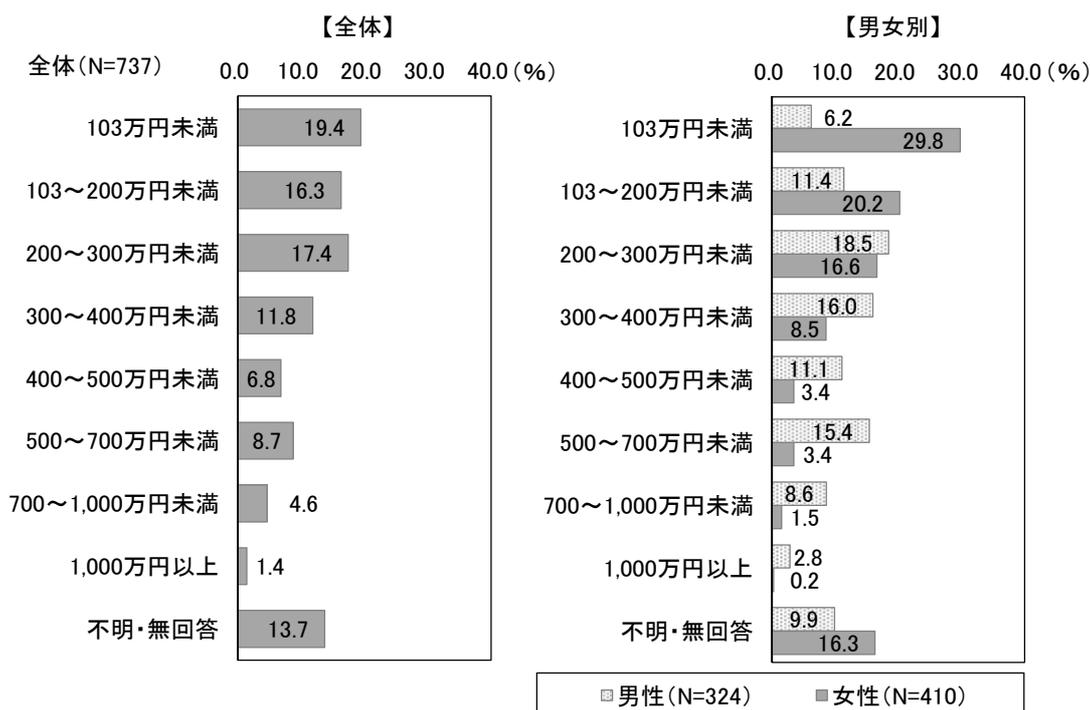
#### (1) あなたは、1週間に何時間くらい働いていますか(残業を含む)。(ひとつに○)

1週間の労働時間についてみると、40時間未満では女性の方が多く、40時間以上では男性の方が多くなっています。



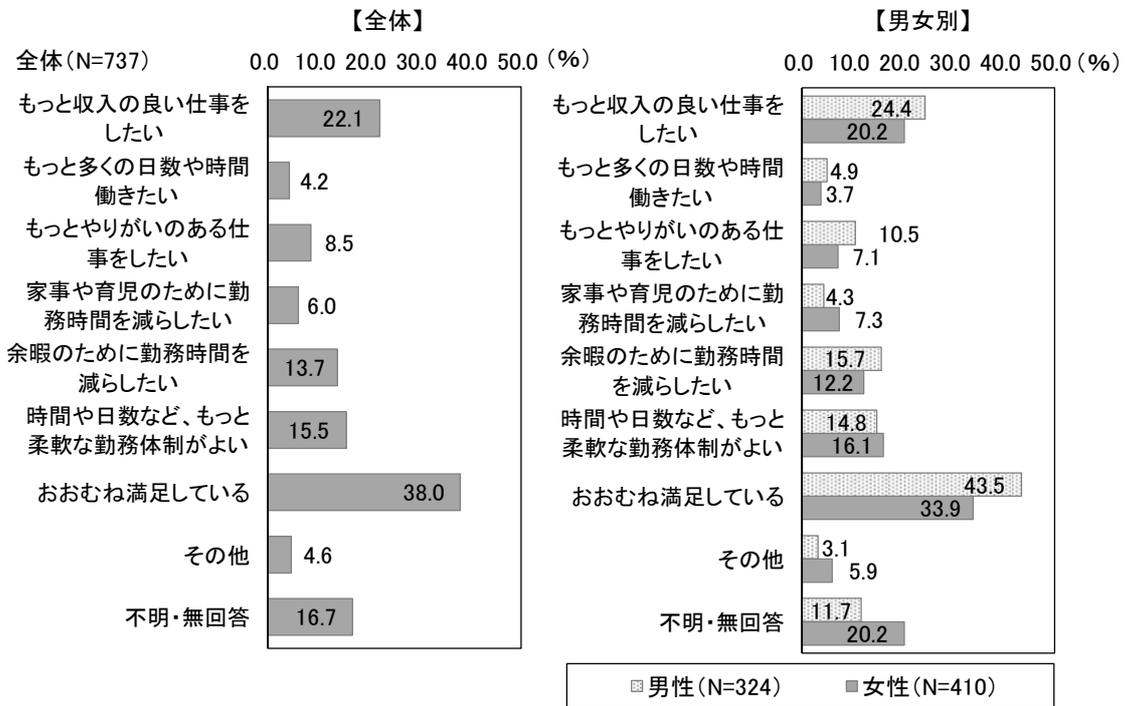
#### (2) あなたの昨年1年間の総収入はどれくらいでしたか。(ひとつに○)

1年間の総収入についてみると、200万円未満では女性の方が多く、200万円以上では男性の方が多くなっています。



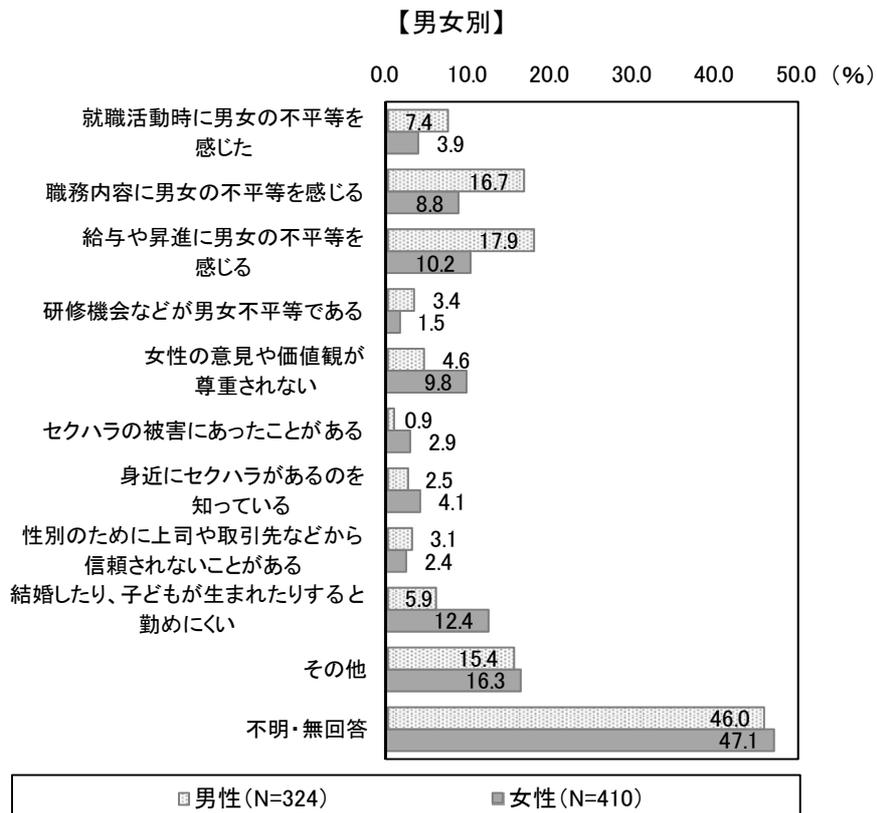
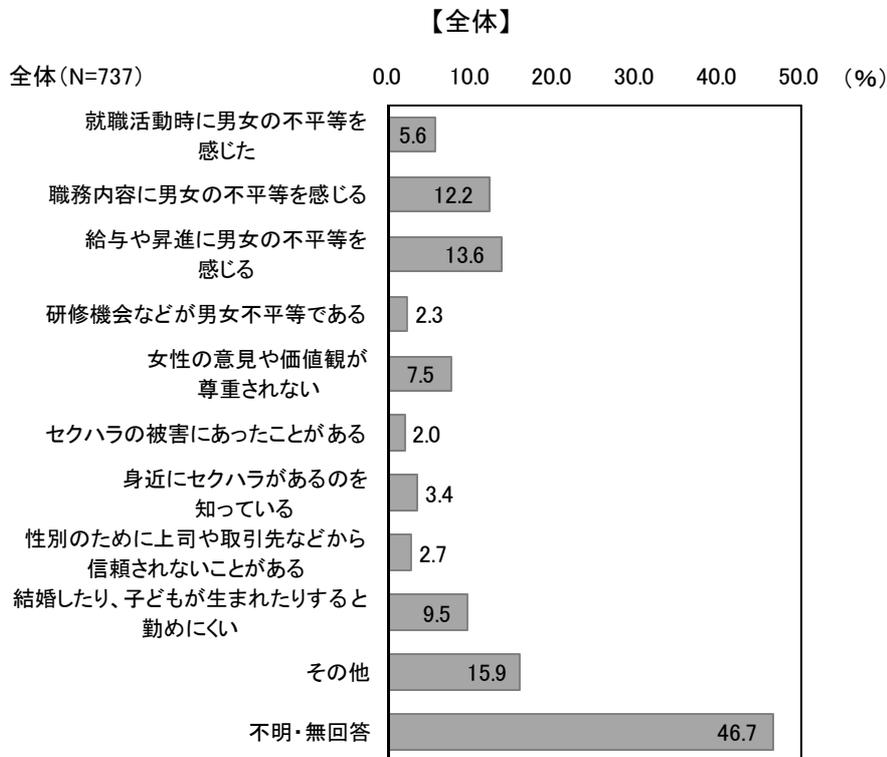
(3) あなたの現在の労働条件についてどう思いますか。(あてはまるものすべてに○)

労働条件についてみると、全体では、「おおむね満足している」が 38.0%と最も高く、次いで「もっと収入の良い仕事をしたい」が 22.1%となっています。



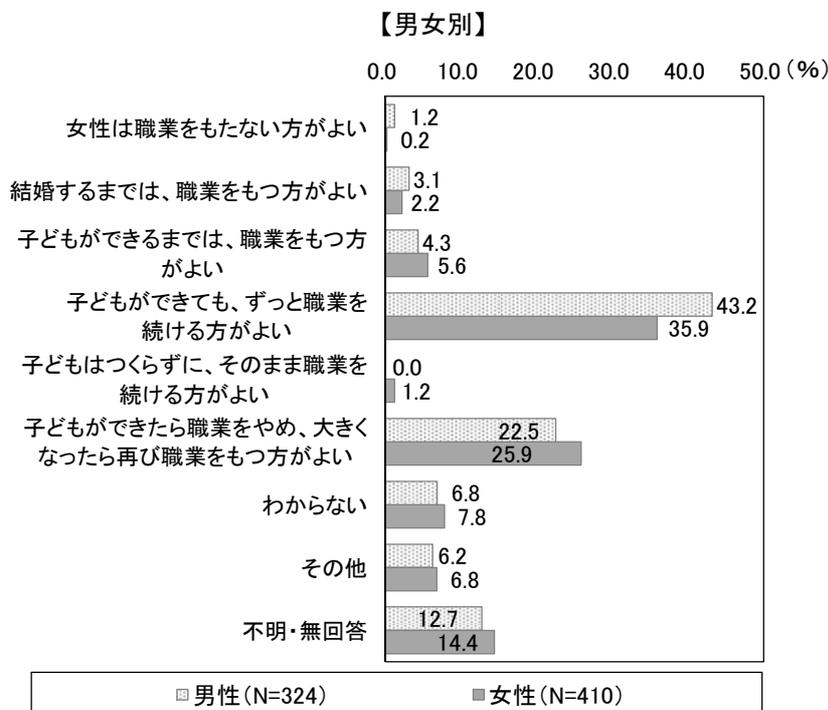
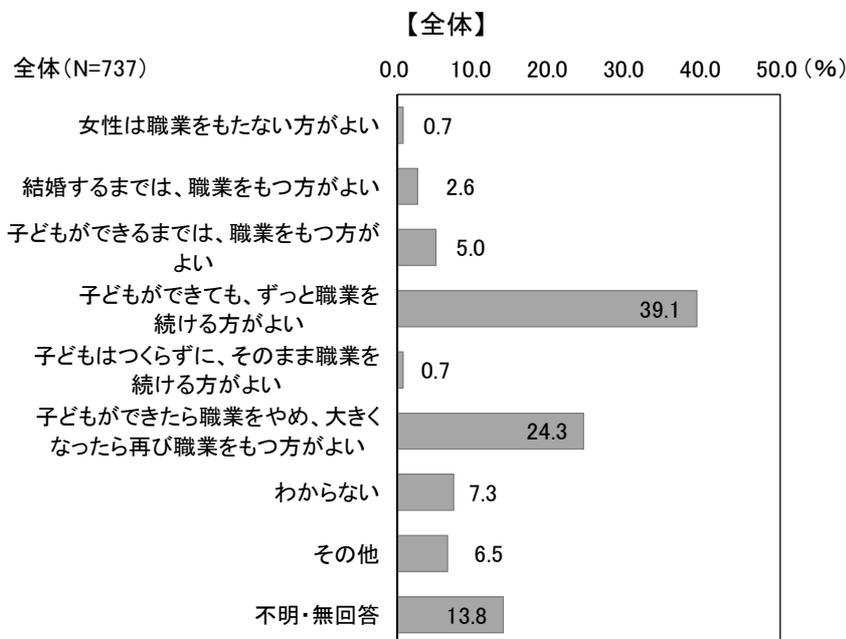
(4) あなたの職業・職場についてどう思いますか。(あてはまるものすべてに○)

職業・職場についてみると、「給与や昇進に男女の不平等を感じる」が13.6%、「職務内容に男女の不平等を感じる」が12.2%、「結婚したり、子どもが生まれたりすると勤めにくい」が9.5%となっています。



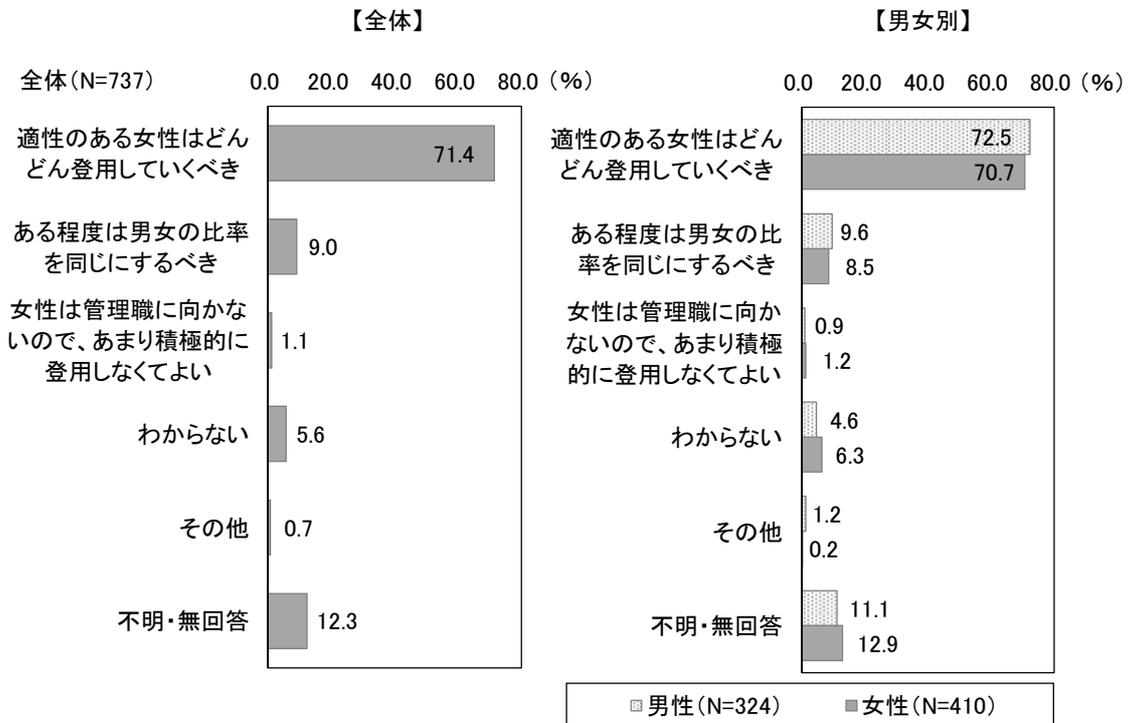
(5) 女性が職業をもつことについて、あなたはどのように思いますか。(ひとつに○)

女性が職業をもつことについて男女別にみると、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」が男女ともに最も高く、特に男性では女性を7.9ポイント上回っています。次いで「子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」が男女ともに高くなっていますが、女性が3.4ポイント上回っています。



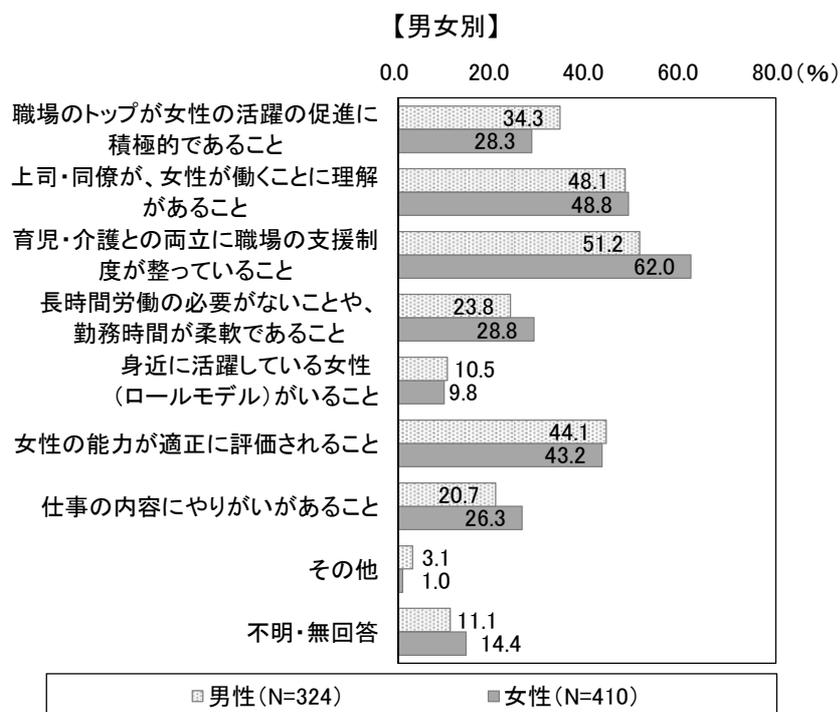
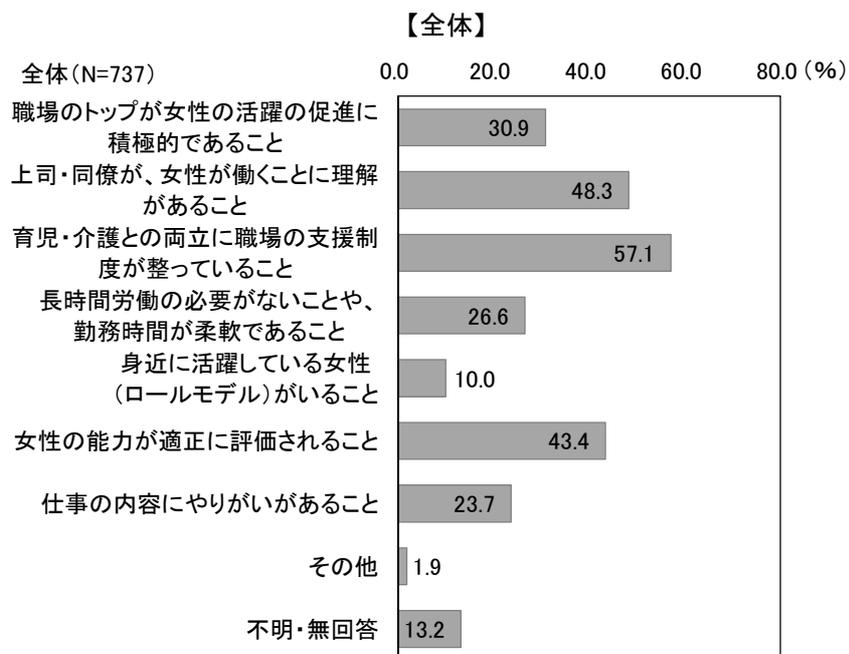
(6) 女性の管理職の登用についてあなたはどのように思いますか。(ひとつに○)

女性の管理職の登用をどう思うかについてみると、全体では、「適性のある女性はどんどん登用していくべき」が7割以上となっています。



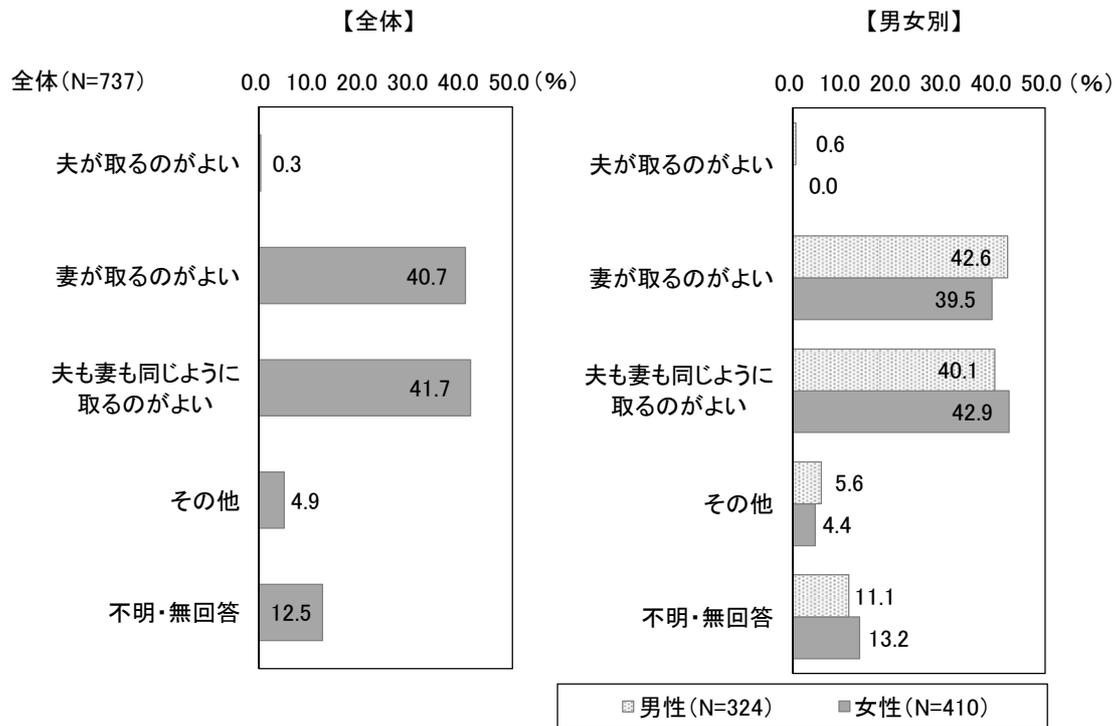
(7) 職業・職場を女性が活躍できる環境にするために、あなたは何かが必要だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

職業・職場において女性が活躍できる環境にするために必要だと思うことについてみると、全体では、「育児・介護との両立に職場の支援制度が整っていること」が 57.1%と最も高く、次いで「上司・同僚が、女性が働くことに理解があること」が 48.3%、「女性の能力が適正に評価されること」が 43.4%となっています。



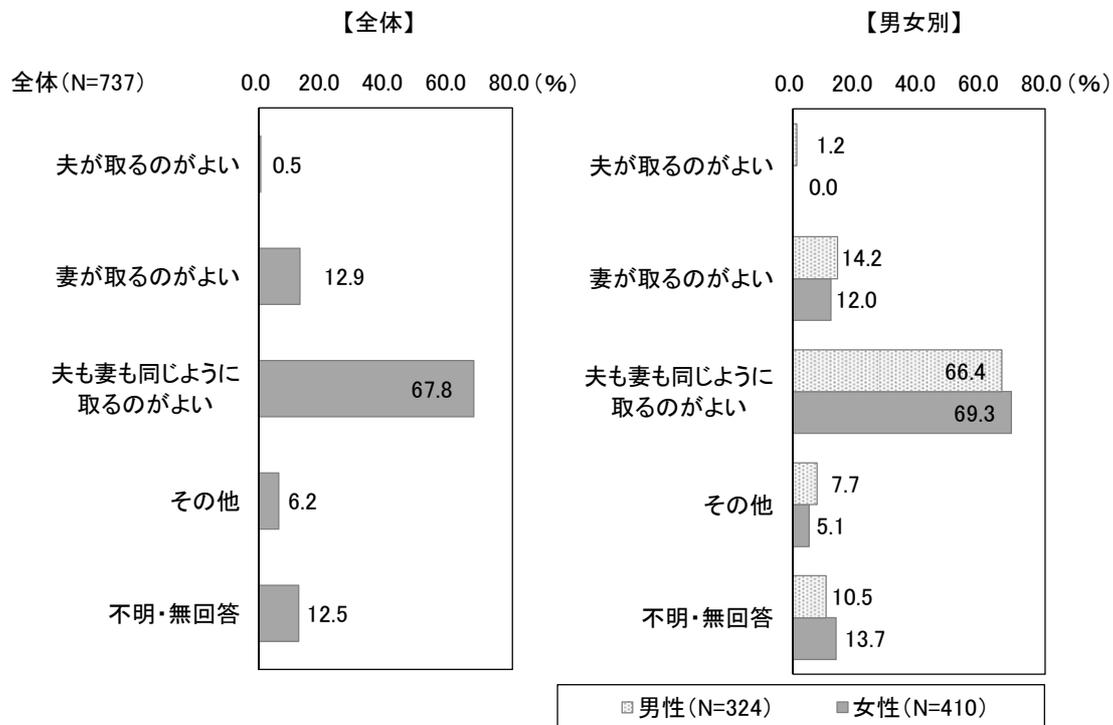
(8) 共働きの夫婦が育児休業を取るとしたら、どうするのがよいと思いますか。  
(ひとつに〇)

共働き夫婦の育児休業取得方法について男女別にみると、男性では「妻が取るのがよい」が42.6%と最も高く、女性では「夫も妻も同じように取るのがよい」が42.9%と最も高くなっています。一方、「夫が取るのがよい」という回答は男女ともにほとんどありませんでした。



(9) 共働きの夫婦が介護休業を取るとしたら、どうするのがよいと思いますか。  
 (ひとつに〇)

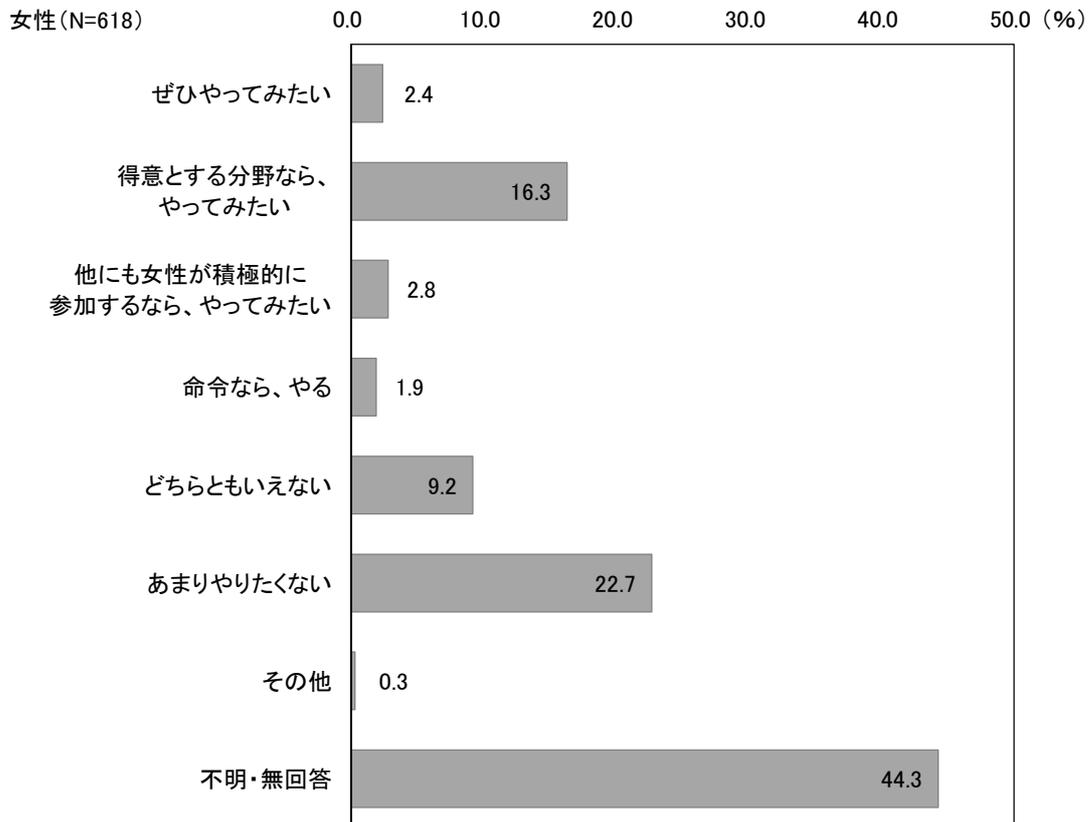
共働き夫婦の介護休業取得方法についてみると、全体では、「夫も妻も同じように取るのがよい」が67.8%と最も高くなっています。



### 女性の方におたずねします

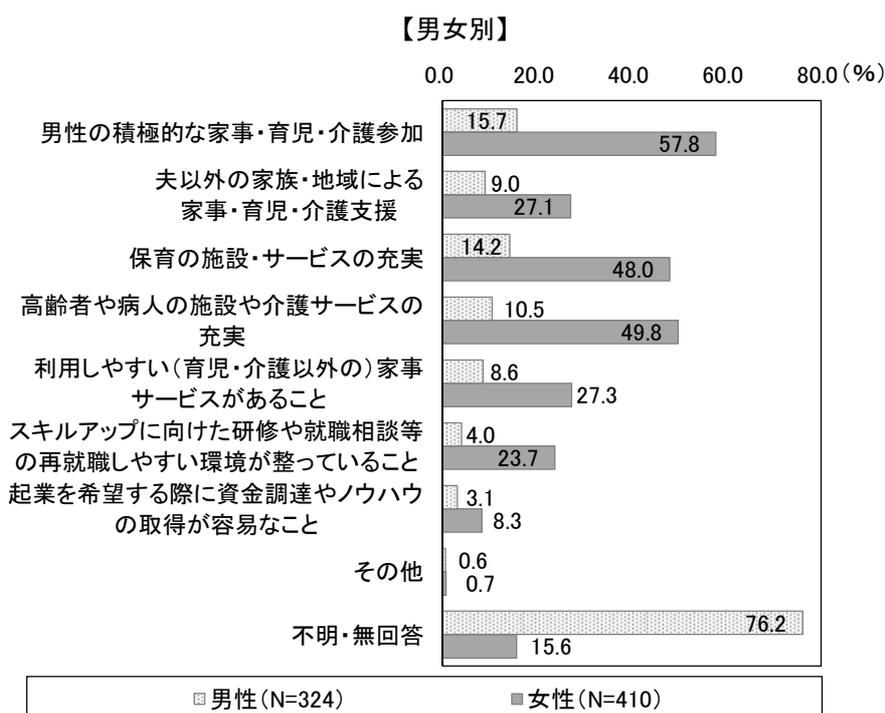
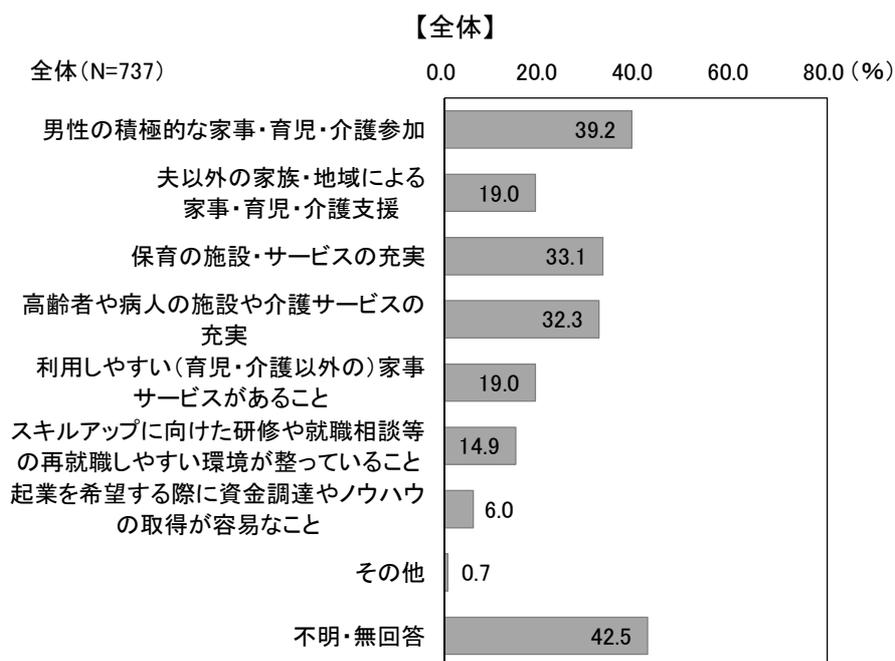
(10) あなたは、機会が与えられれば、指導的立場や管理職につきますか。(ひとつに○)

機会が与えられれば、指導的立場や管理職につくかどうかについてみると、「あまりやりたくない」が22.7%、「得意とする分野なら、やってみたい」が16.3%、「どちらともいえない」が9.2%となっています。



(11) 女性の活躍を促進させるためには、家族や社会等からどのような支援が必要だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

女性の活躍促進に必要なと思う家族や社会等からの支援についてみると、女性では「男性の積極的な家事・育児・介護参加」が57.8%と最も高く、次いで「高齢者や病人の施設や介護サービスの充実」が49.8%、「保育の施設・サービスの充実」が48.0%となっています。一方、男性では不明・無回答が76.2%となっています。



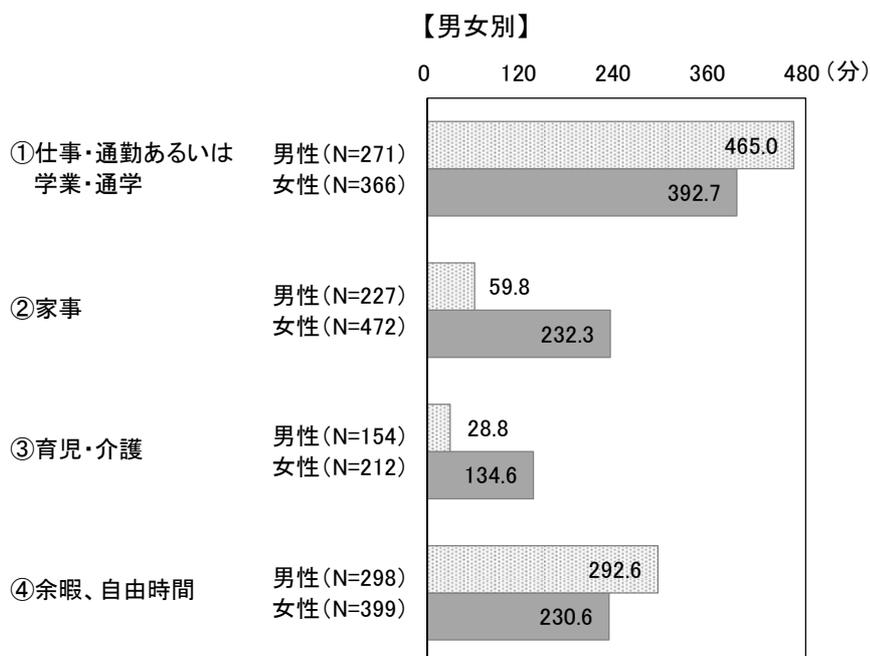
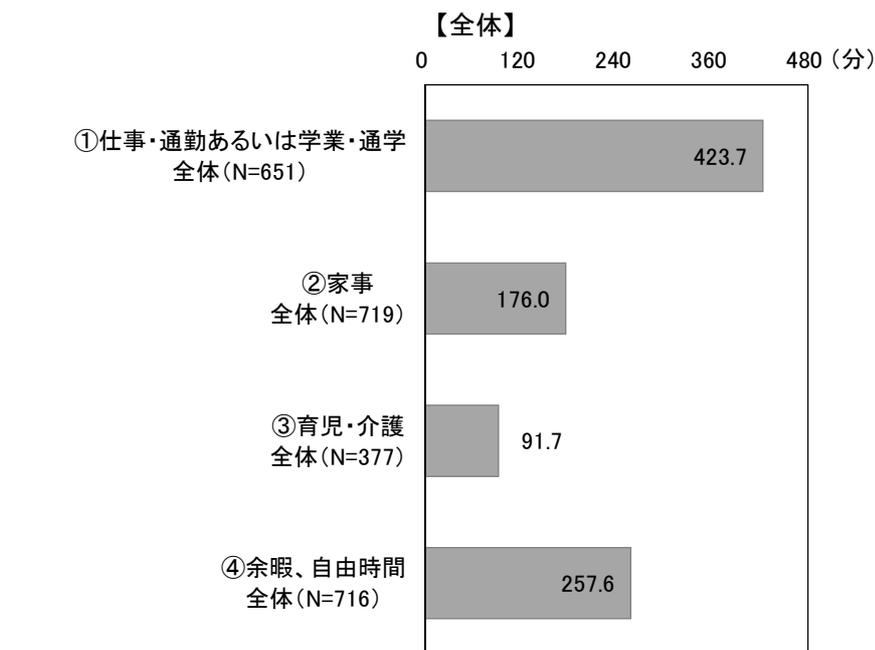
## 4. 家庭生活についておたずねします

(1) あなたは、普段の平日をどのように過ごしていますか。

(それぞれの項目について、おおよその時間を記入)

「①仕事・通勤あるいは学業・通学」と「④余暇、自由時間」の平均時間については、男性の方が長くなっています。

一方、「②家事」と「③育児・介護」の平均時間については、女性の方が長くなっています。特に「②家事」においてその差は3時間近くとなっています。



※不明・無回答を除いて集計しています。

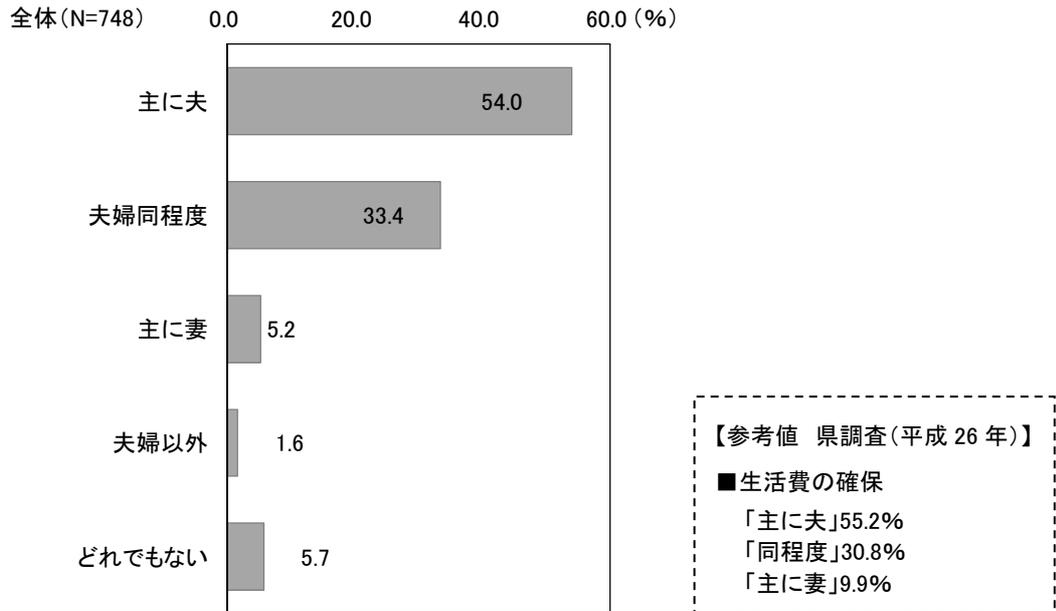
結婚されている方におたずねします

(2) あなたのご家庭では、夫婦のどちらが主に次のことをされていますか。  
(それぞれの項目について、あてはまるものひとつに○)

※次の①～⑬については、それぞれ不明・無回答を除いて集計しています。

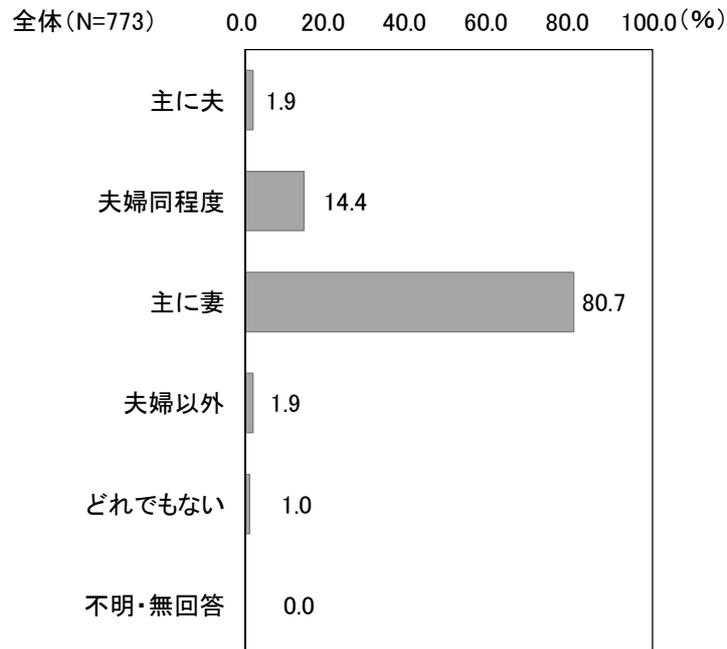
①生活費を得ること

.....  
どちらが主に生活費を得ているかについてみると、「主に夫」が38.1%、「夫婦同程度」が23.6%となっています。



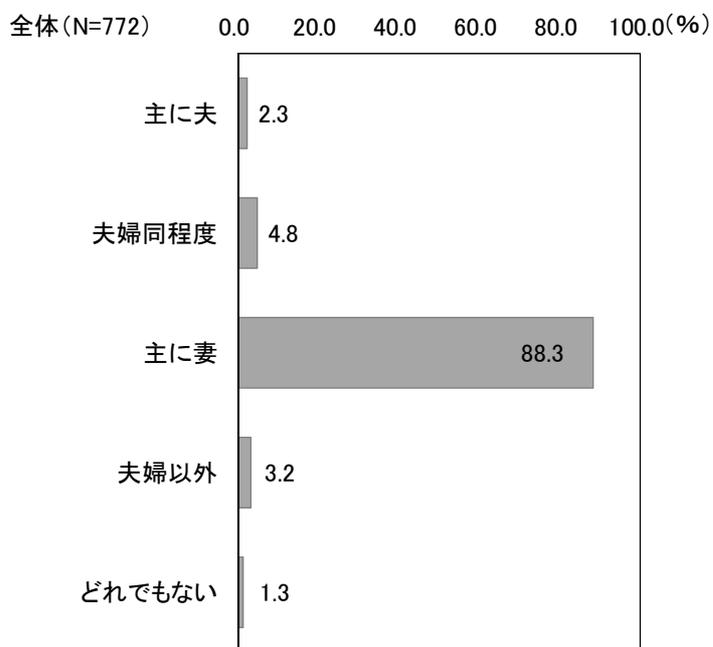
②食品などの買い物

.....  
どちらが主に食品などの買い物をしているかについてみると、「主に妻」が58.9%、「夫婦同程度」が10.5%となっています。



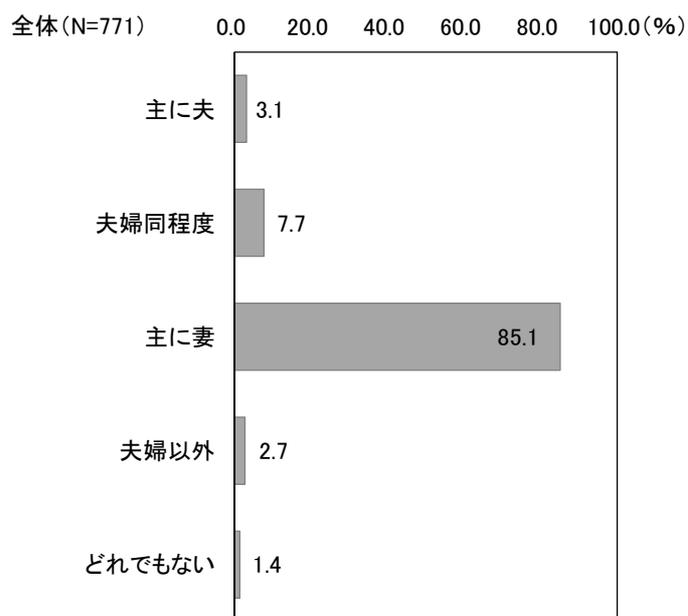
### ③食事のしたく

どちらが主に食事のしたくをしているかについてみると、「主に妻」が 64.4%となっています。



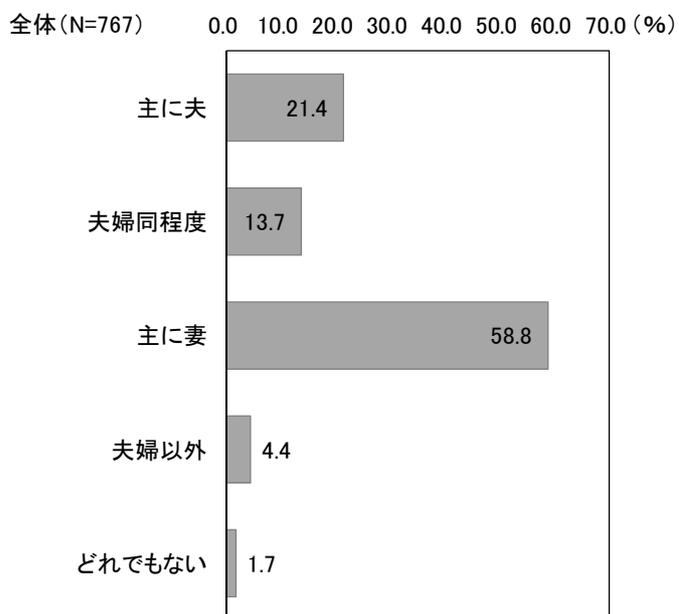
### ④食事後片付け

どちらが主に食事後片付けをしているかについてみると、「主に妻」が 61.9%となっています。



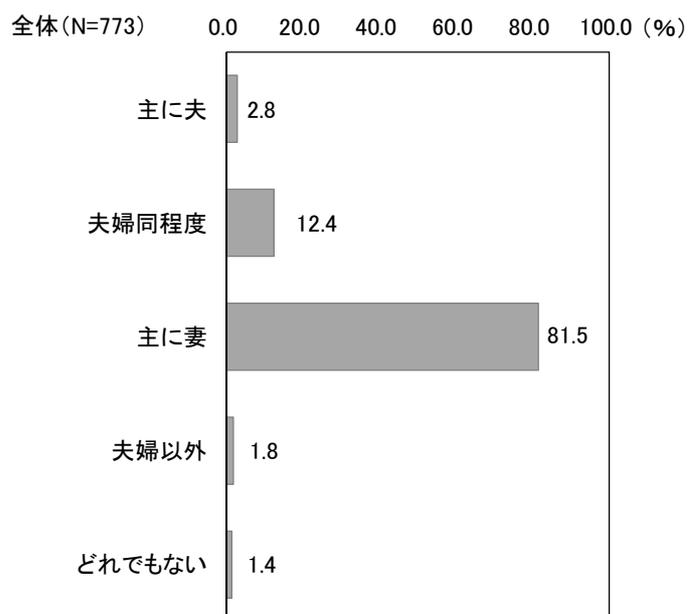
### ⑤ ゴミ出し

どちらが主にゴミ出しをしているかについてみると、「主に妻」が42.6%、「主に夫」が15.5%となっています。



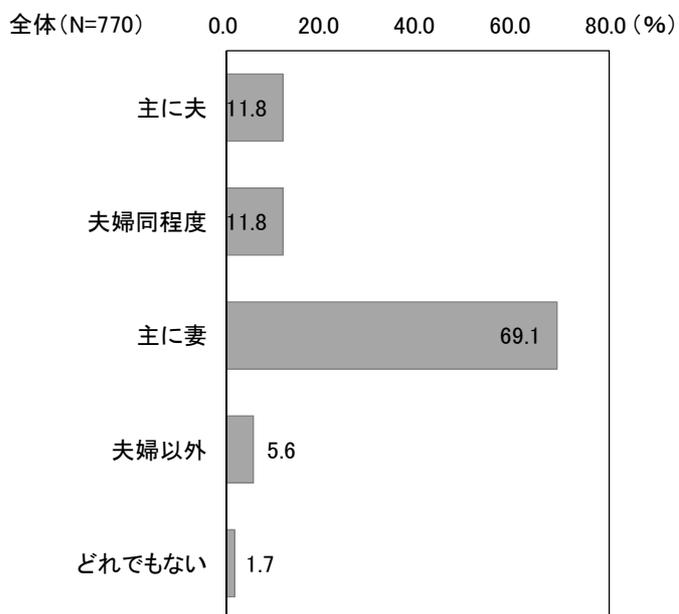
### ⑥ 部屋の掃除

どちらが主に部屋の掃除をしているかについてみると、「主に妻」が59.5%となっています。



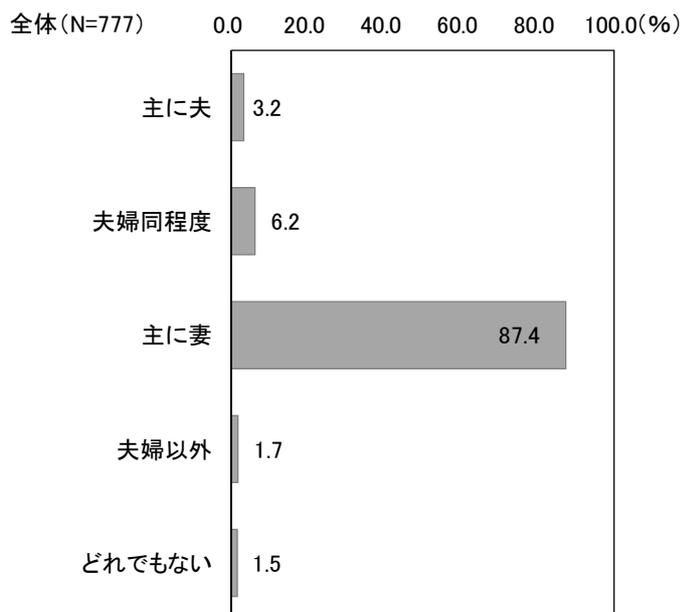
## ⑦風呂の掃除

どちらが主に風呂の掃除をしているかについてみると、「主に妻」が 50.2%となっています。



## ⑧洗濯

どちらが主に洗濯をしているかについてみると、「主に妻」が 64.1%となっています。



【参考値 県調査(平成 26 年)】

■家事

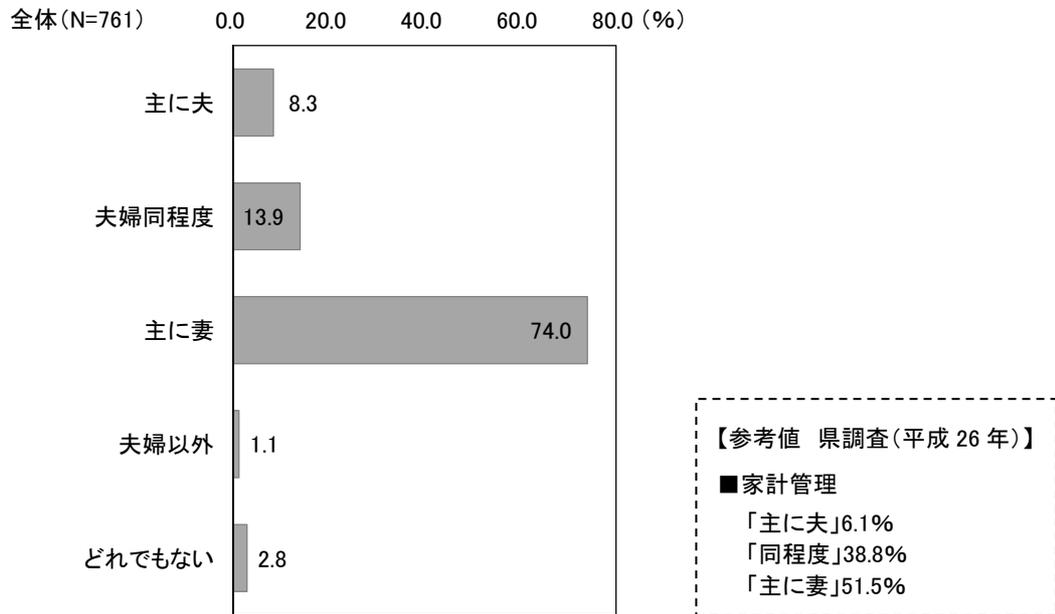
「主に夫」0.6%

「同程度」34.7%

「主に妻」61.5%

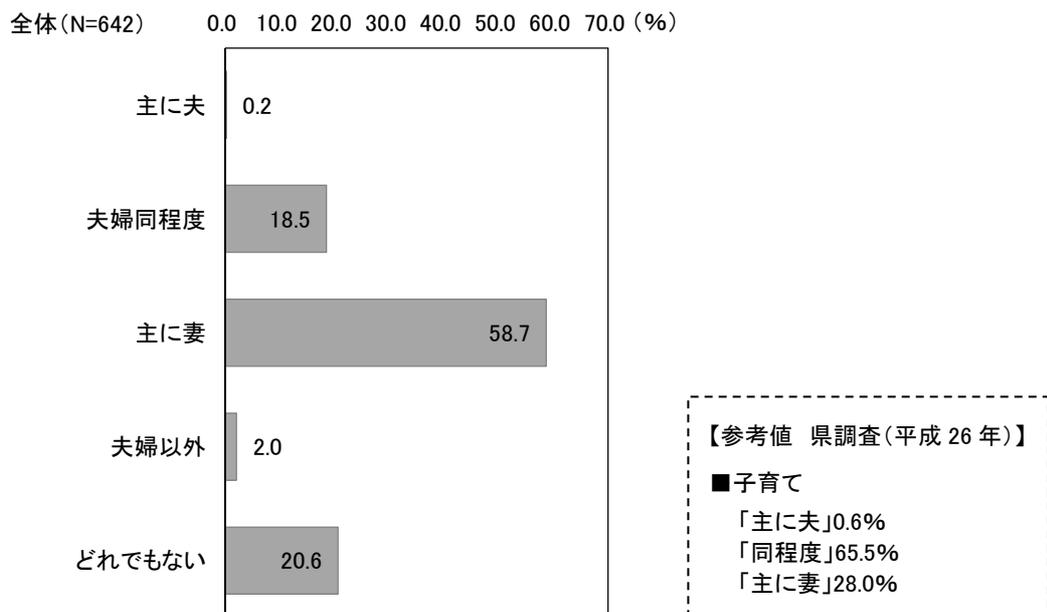
### ⑨家計の管理

どちらが主に家計の管理をしているかについてみると、「主に妻」が 53.2%となっています。



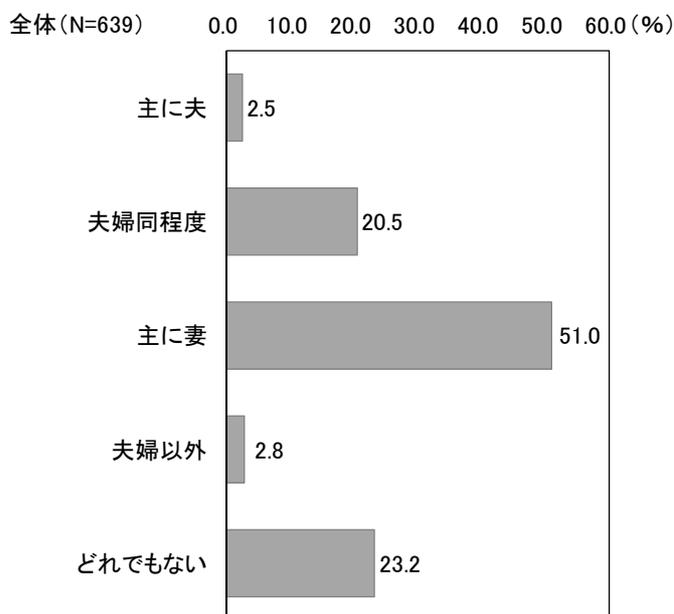
### ⑩子育て

どちらが主に子育てをしているかについてみると、「主に妻」が 35.6%、「夫婦同程度」が 11.2%となっています。



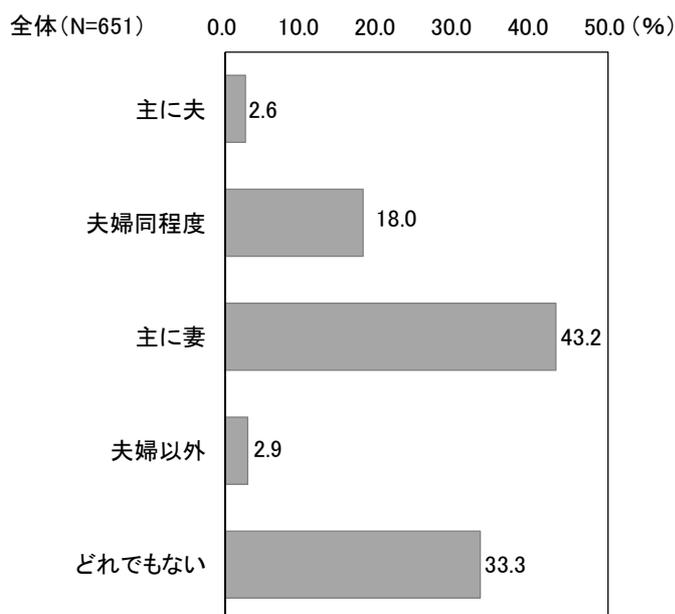
### ⑪学校行事などへの参加

どちらが主に学校行事などへ参加しているかについてみると、「主に妻」が30.8%、「どれでもない」が14.0%、「夫婦同程度」が12.4%となっています。



### ⑫家族の看護・介護

どちらが主に家族の看護・介護をしているかについてみると、「主に妻」が26.5%、「どれでもない」が20.5%、「夫婦同程度」が11.0%となっています。



【参考値 県調査(平成26年)】

■高齢者等の介護・世話

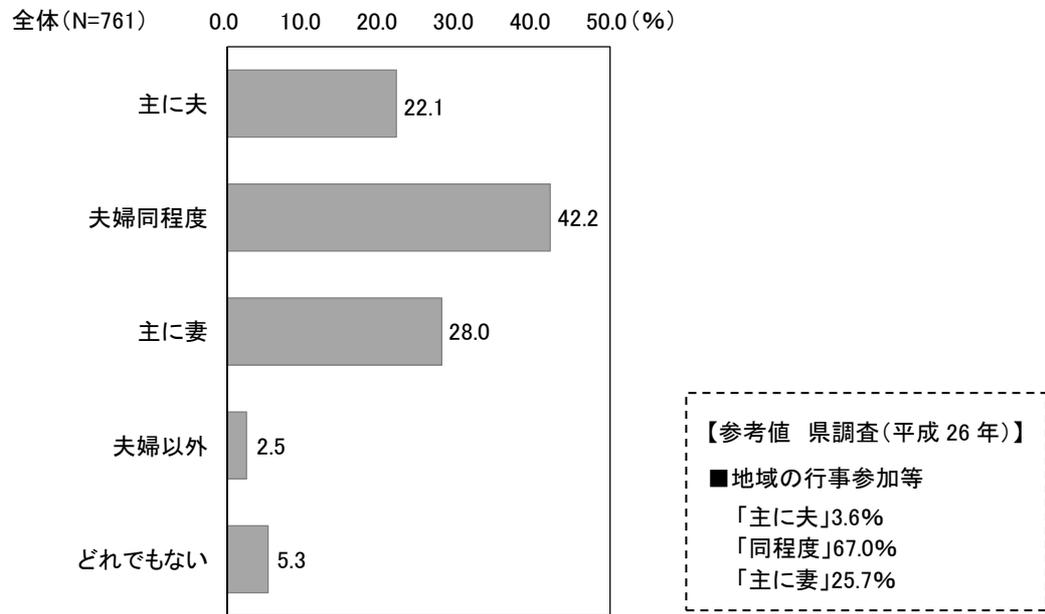
「主に夫」1.8%

「同程度」69.8%

「主に妻」18.2%

### ⑬地域の行事参加、近所とのつきあい

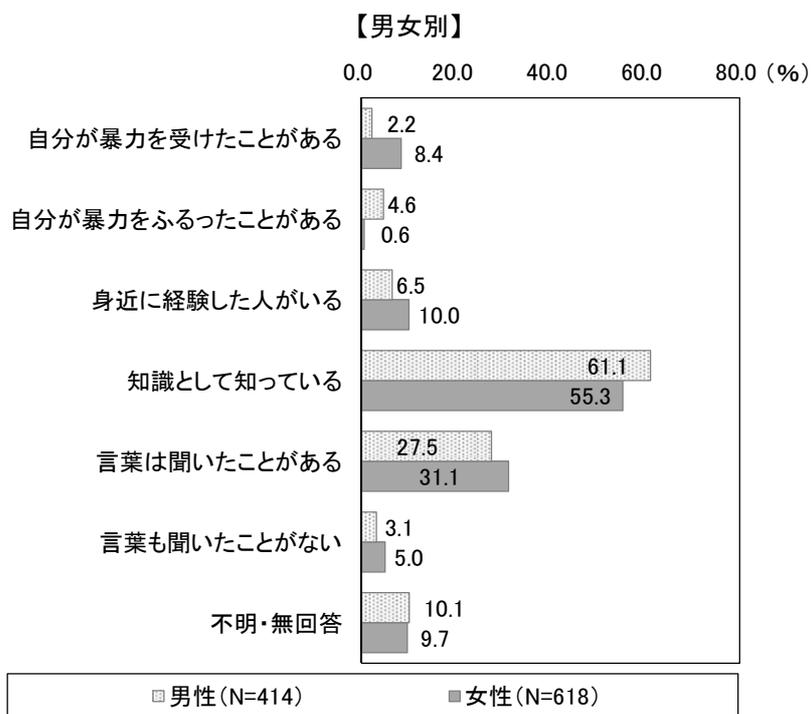
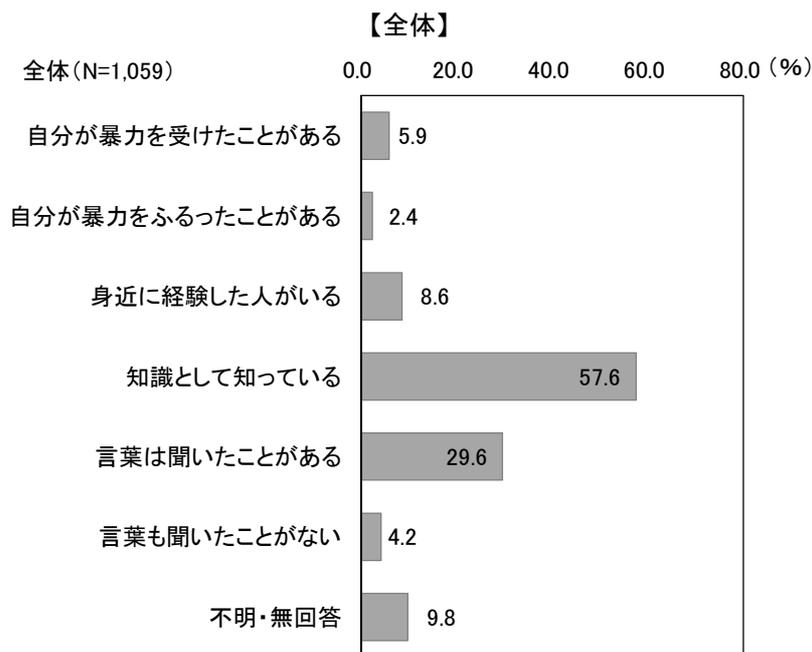
どちらが主に地域の行事参加、近所とのつきあいをしているかについてみると、「夫婦同程度」が30.3%、「主に妻」が20.1%、「主に夫」が15.9%となっています。



## 5. 人権についておたずねします

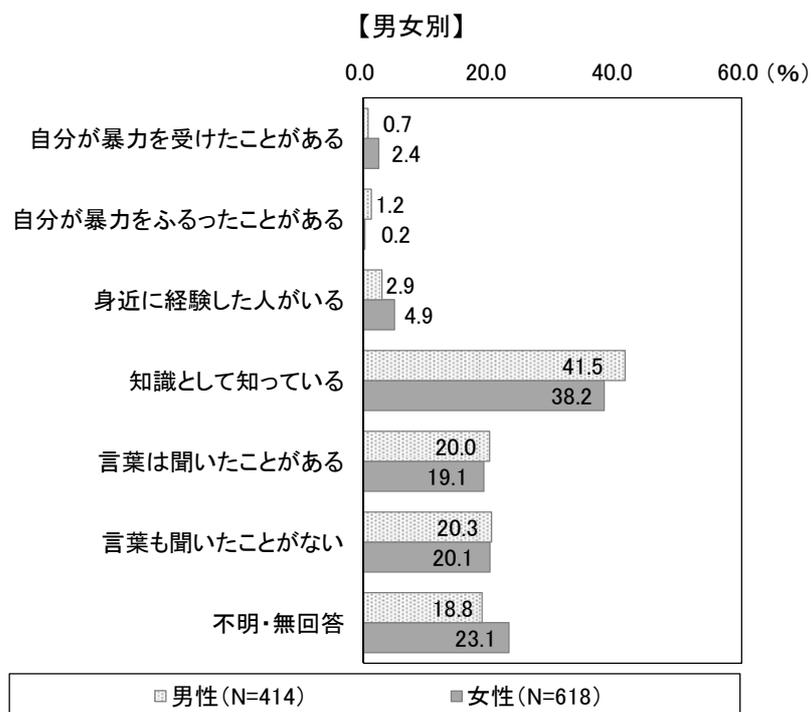
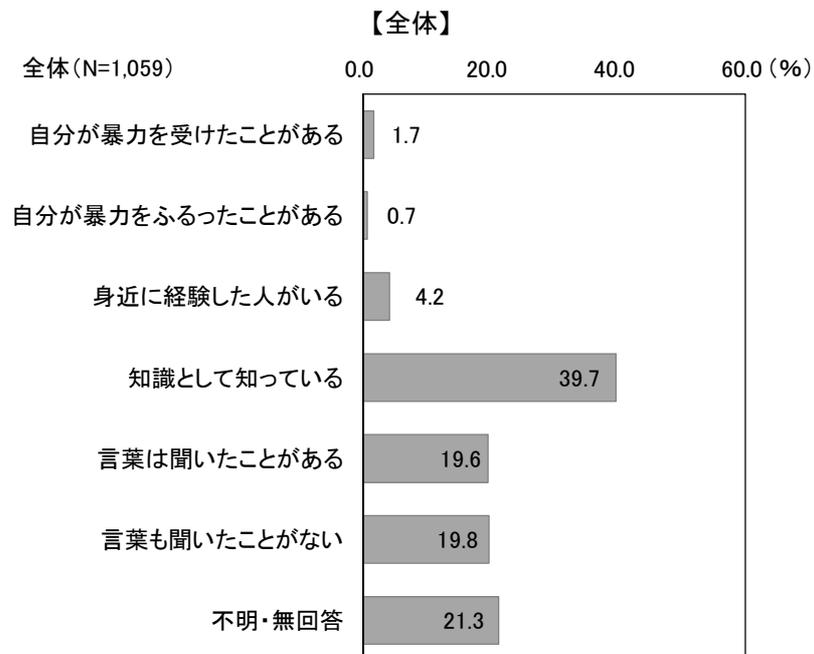
(1) あなたは配偶者等からのDVについて、経験したり、見聞きしたことがありますか。(あてはまるものすべてに○)

配偶者等からのDVについて男女別にみると、「自分が暴力を受けたことがある」は女性の方が多く、「自分が暴力をふるったことがある」は男性の方が多くなっています。



(2) あなたは恋人からのデートDVについて、経験したり、見聞きしたことがありますか。(あてはまるものすべてに○)

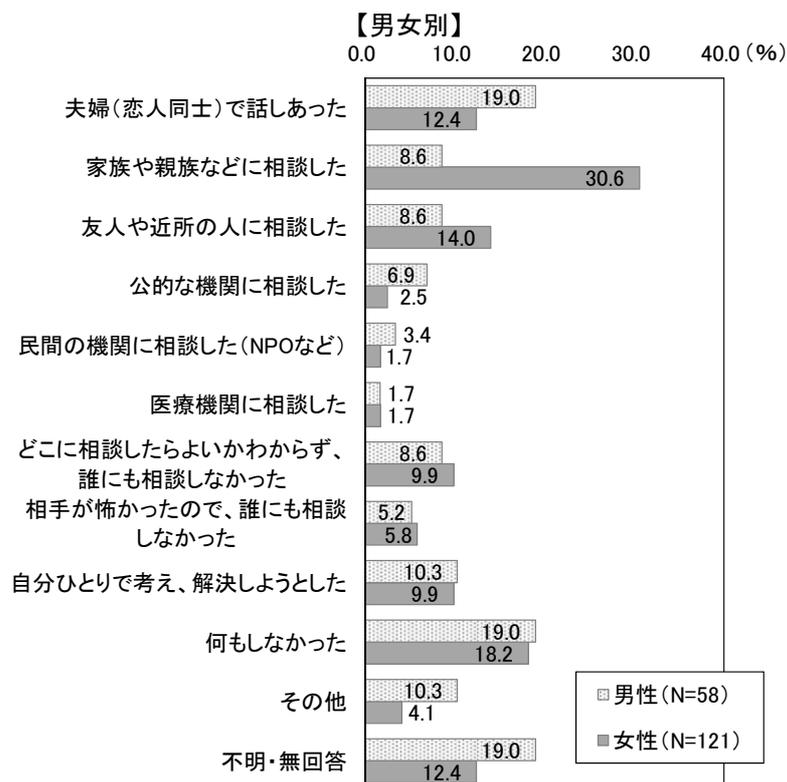
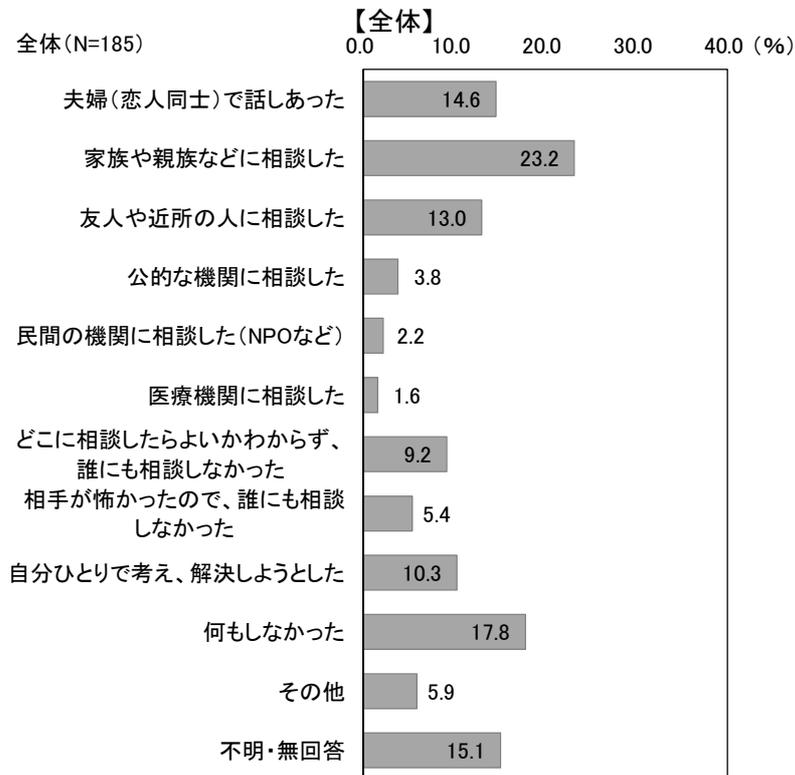
恋人からのデートDVについてみると、全体では、「知識として知っている」が39.7%と最も高く、次いで「言葉も聞いたことがない」が19.8%、「言葉は聞いたことがある」が19.6%となっています。



(1) または (2) で「自分が暴力を受けたことがある」「自分が暴力をふるったことがある」「身近に経験した人がいる」を選んだ方におたずねします

(3) その時、あなたはどうしましたか。(あてはまるものすべてに○)

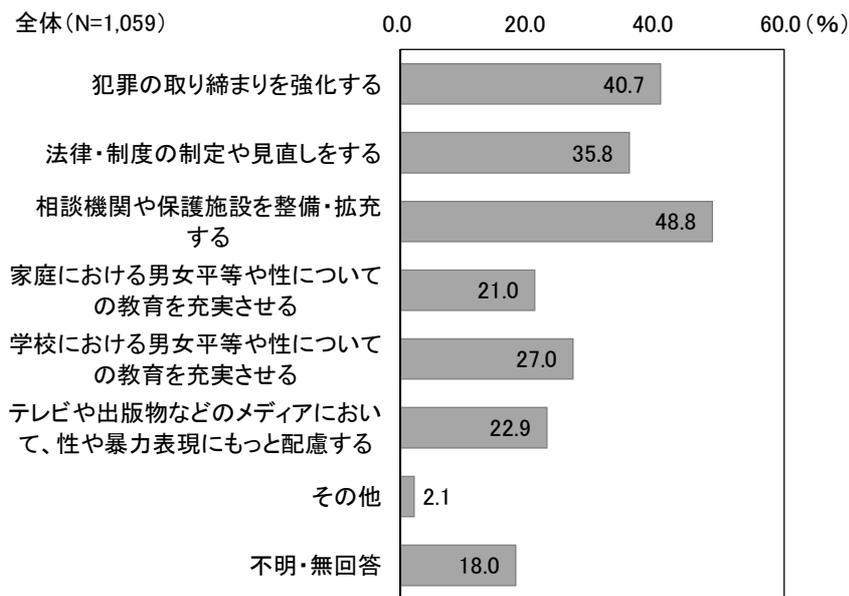
DVについて経験したり見聞きした際の対処方法についてみると、男性では当事者同士の話しあいが高く、女性では当事者以外への相談が高くなっています。



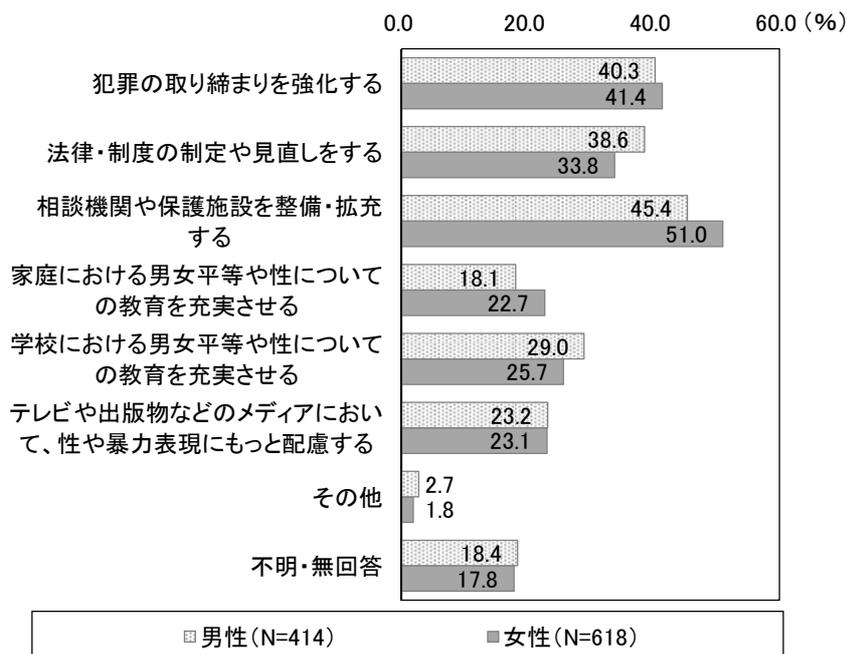
(4) 異性に対する暴力や性犯罪、売買春、セクシュアル・ハラスメントなどから人権を守るために何が重要だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

DVや性犯罪、売買春、セクハラなどから人権を守るために必要だと思うことについてみると、「相談機関や保護施設を整備・拡充する」が48.8%と最も高く、次いで「犯罪の取り締まりを強化する」が40.7%、「法律・制度の制定や見直しをする」が35.8%となっています。

【全体】



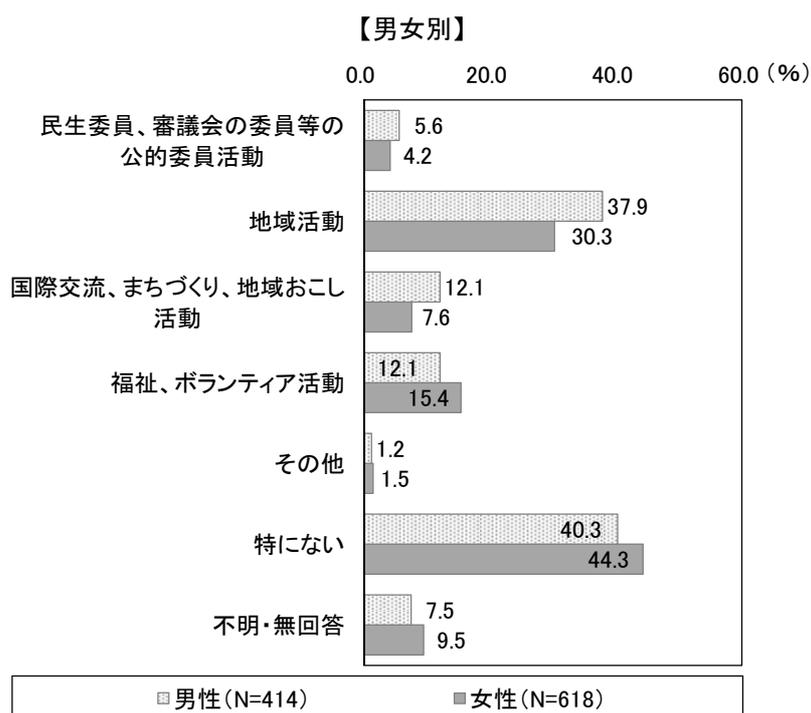
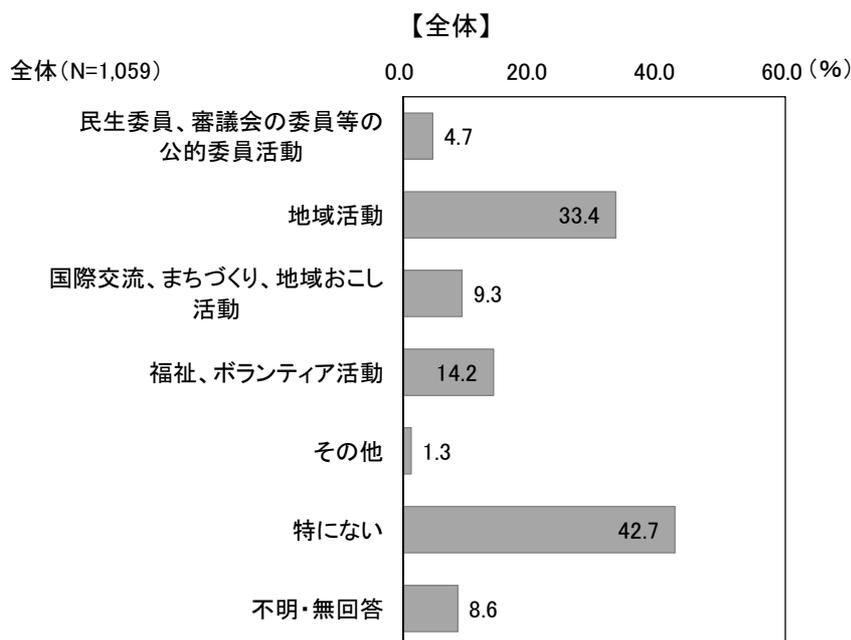
【男女別】



## 6. 男女共同参画社会についておたずねします

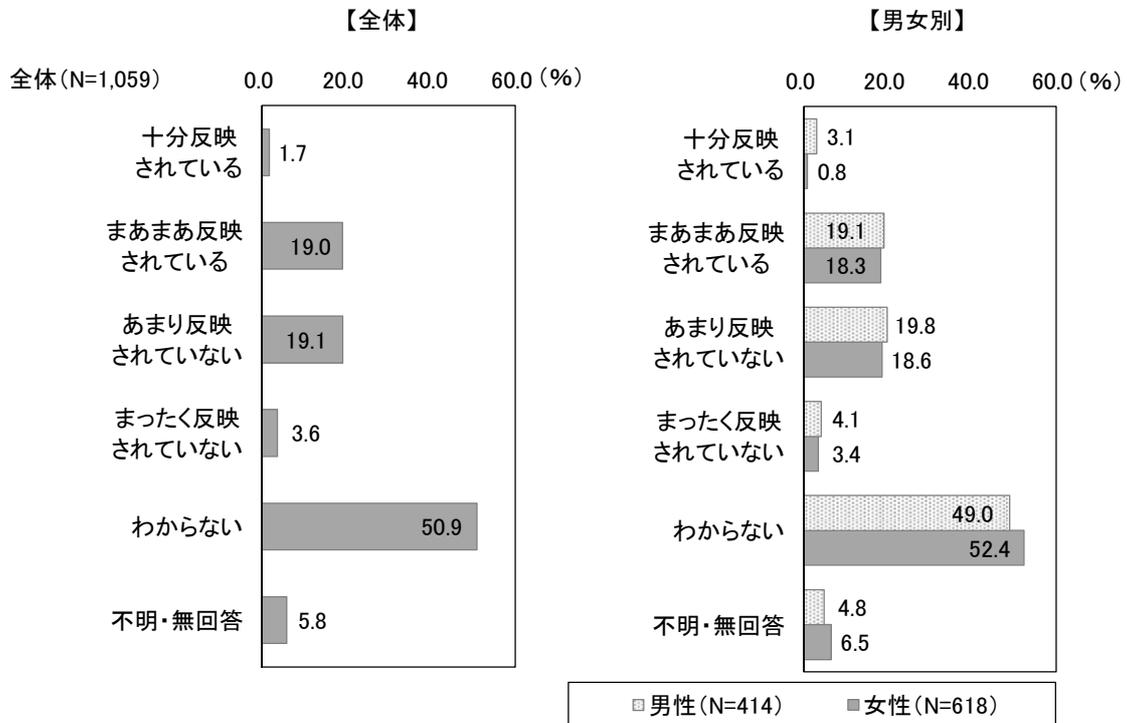
(1) あなたがこの1年間に行った社会活動や、今後行いたい社会活動はどれですか。  
(あてはまるものすべてに○)

1年間に行った社会活動や、今後行いたい社会活動についてみると、全体では、「特にな  
い」が42.7%と最も高く、次いで「地域活動」が33.4%となっています。男女別にみると、  
「地域活動」「国際交流、まちづくり、地域おこし活動」は男性の方が高く、「福祉、ボラン  
ティア」「特にない」は女性の方が高くなっています。



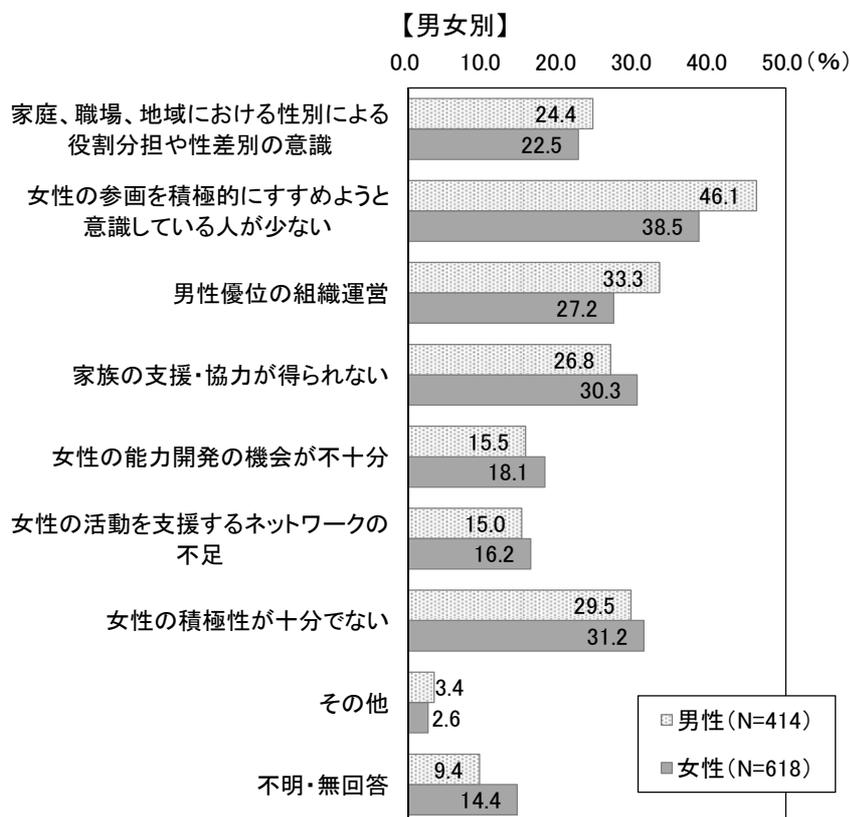
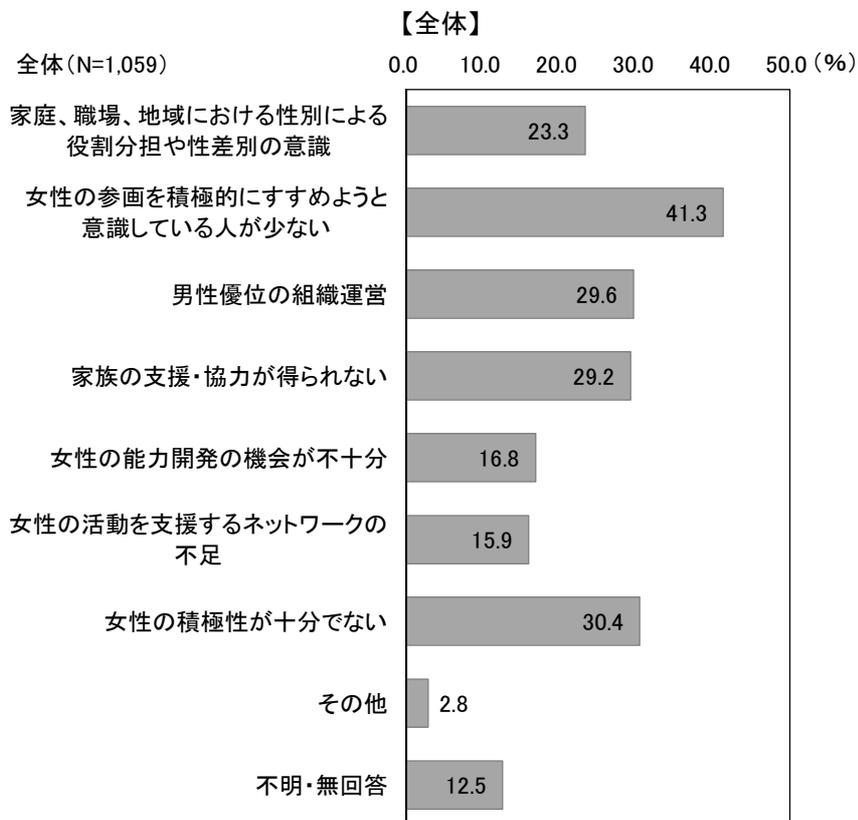
(2) 南あわじ市のまちづくりや行政には、女性の意見が反映されていると思いますか。(ひとつに○)

南あわじ市のまちづくりや行政に女性の意見が反映されていると思うかについてみると、「わからない」が 50.9%、「あまり反映されていない」が 19.1%、「まあまあ反映されている」が 19.0%となっています。



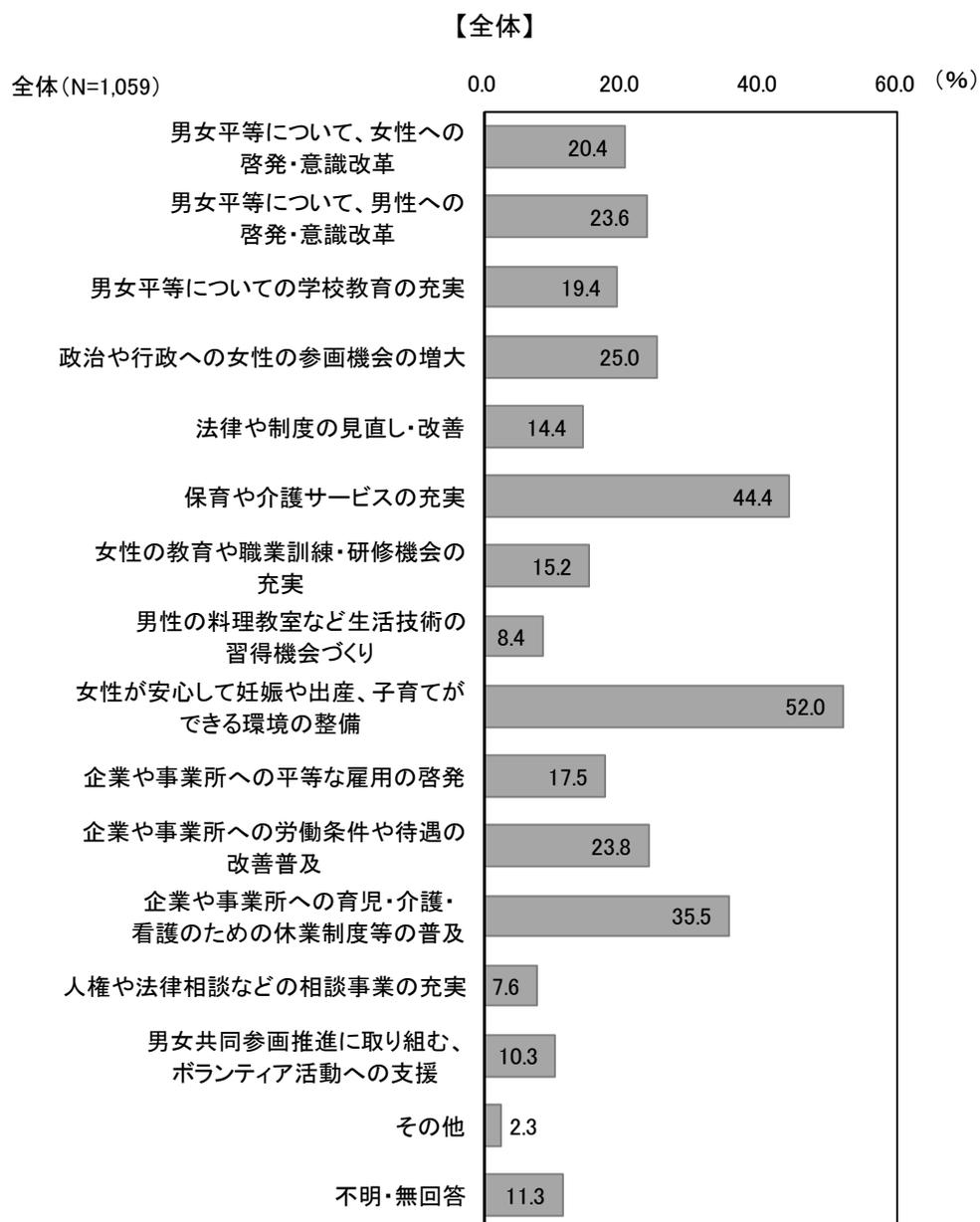
(3) 政治や行政の場において、政策の企画や方針決定の過程に女性の参画が少ない理由は何だと思えますか。(あてはまるものすべてに○)

政策の企画や方針決定の過程に女性の参画が少ない理由についてみると、「女性の参画を積極的にすすめようと意識している人が少ない」が41.3%と最も高くなっています。

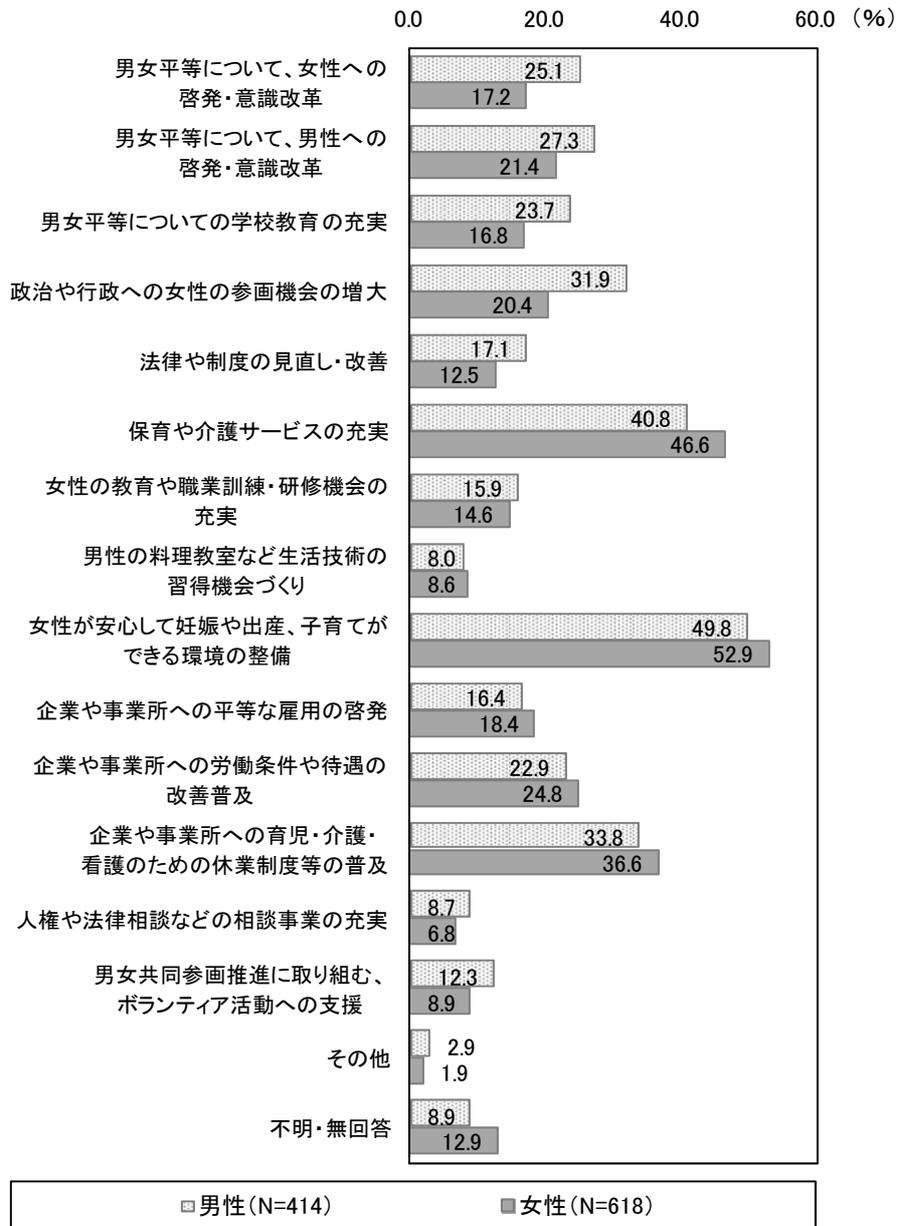


(4) 男女共同参画を推進していくために、南あわじ市としてどのようなことが必要だと思いますか。(あてはまるもの5つまでに○)

男女共同参画の推進のために南あわじ市として必要だと思うことについてみると、「女性が安心して妊娠や出産、子育てができる環境の整備」が52.0%と最も高く、次いで「保育や介護サービスの充実」が44.4%、「企業や事業所への育児・介護・看護のための休業制度等の普及」が35.5%となっています。



【男女別】



南あわじ市男女共同参画社会づくりのための市民アンケート調査  
【結果報告書】

発行年月：平成 29 年 11 月  
発行：南あわじ市 ふるさと創生課